



CR-V

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

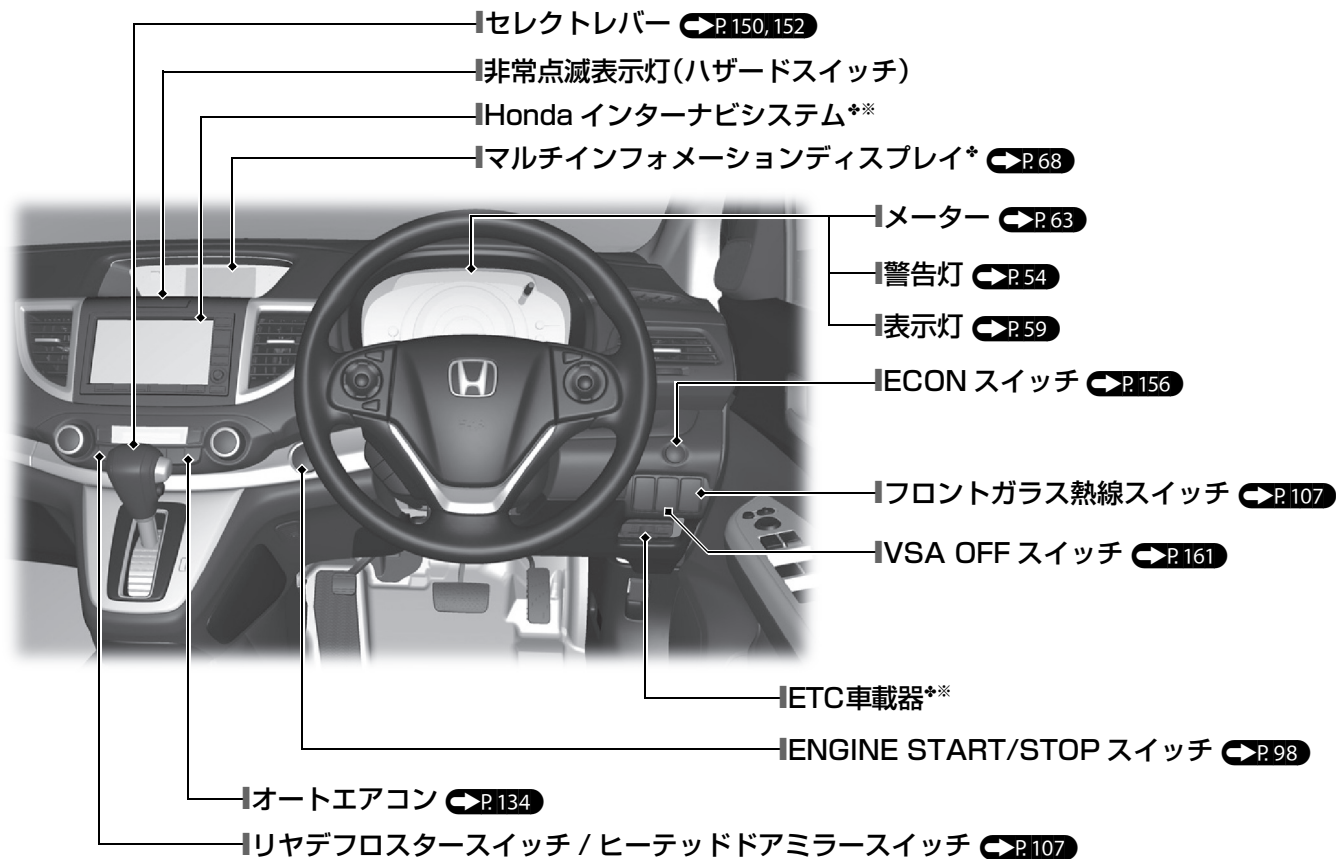
メンテナンス

万一の場合には

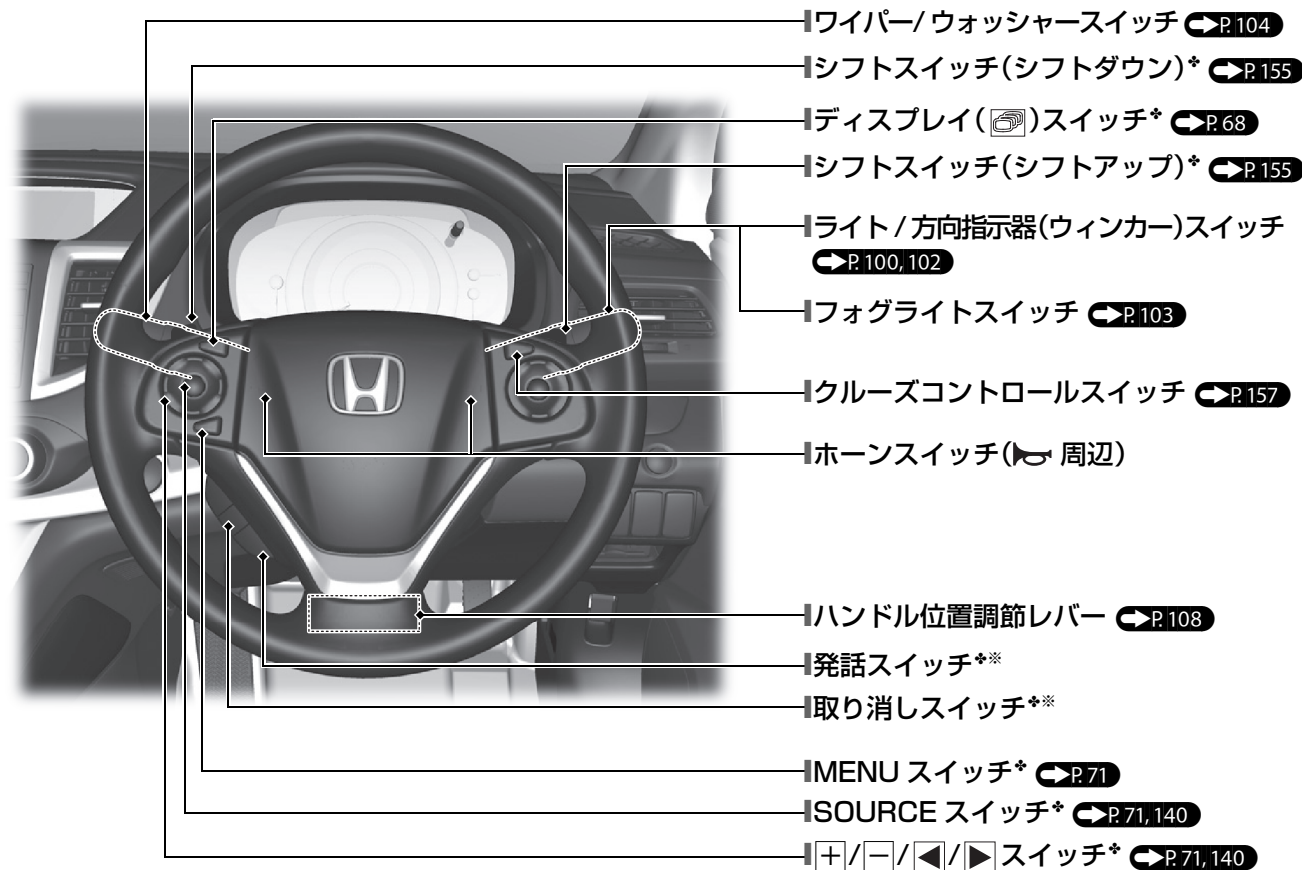
資料

索引

ビジュアル目次



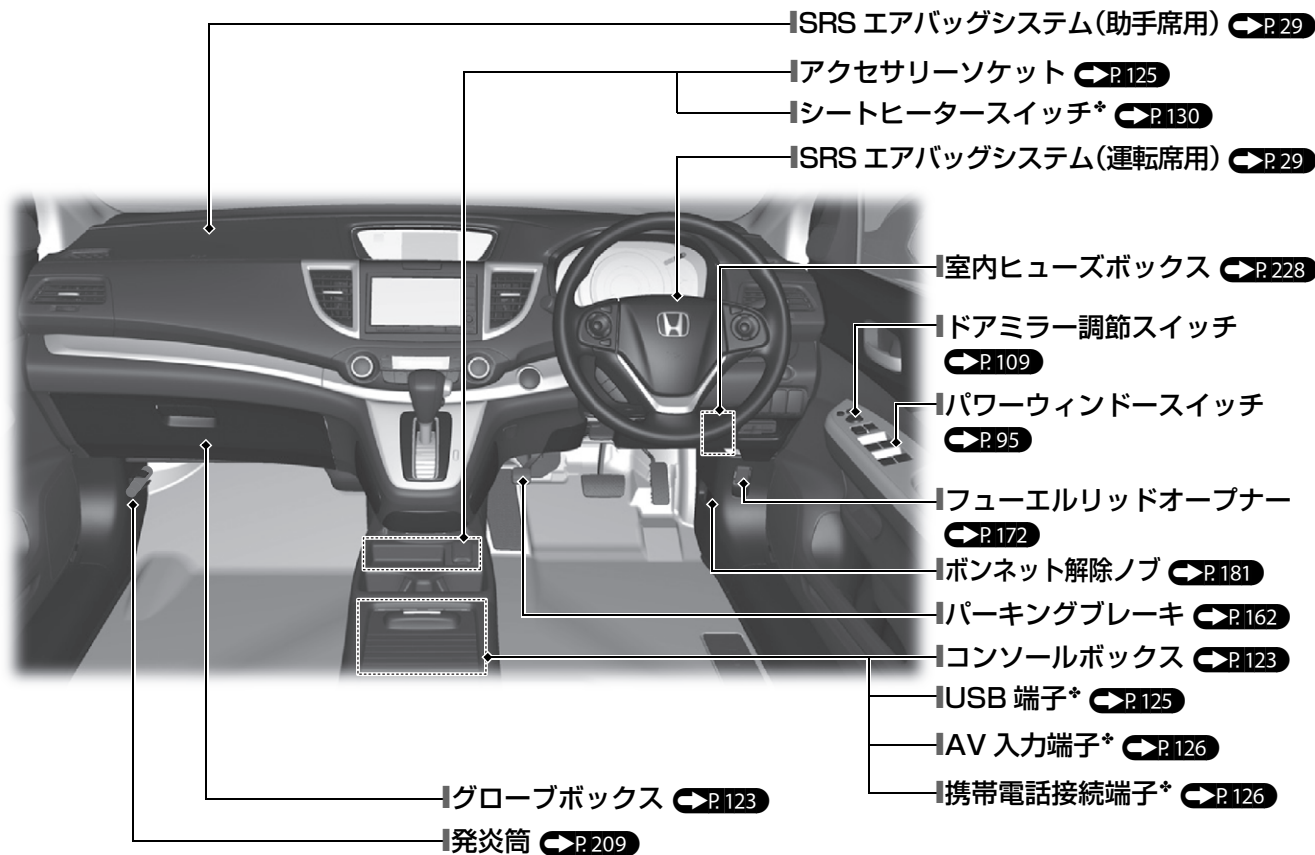
※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

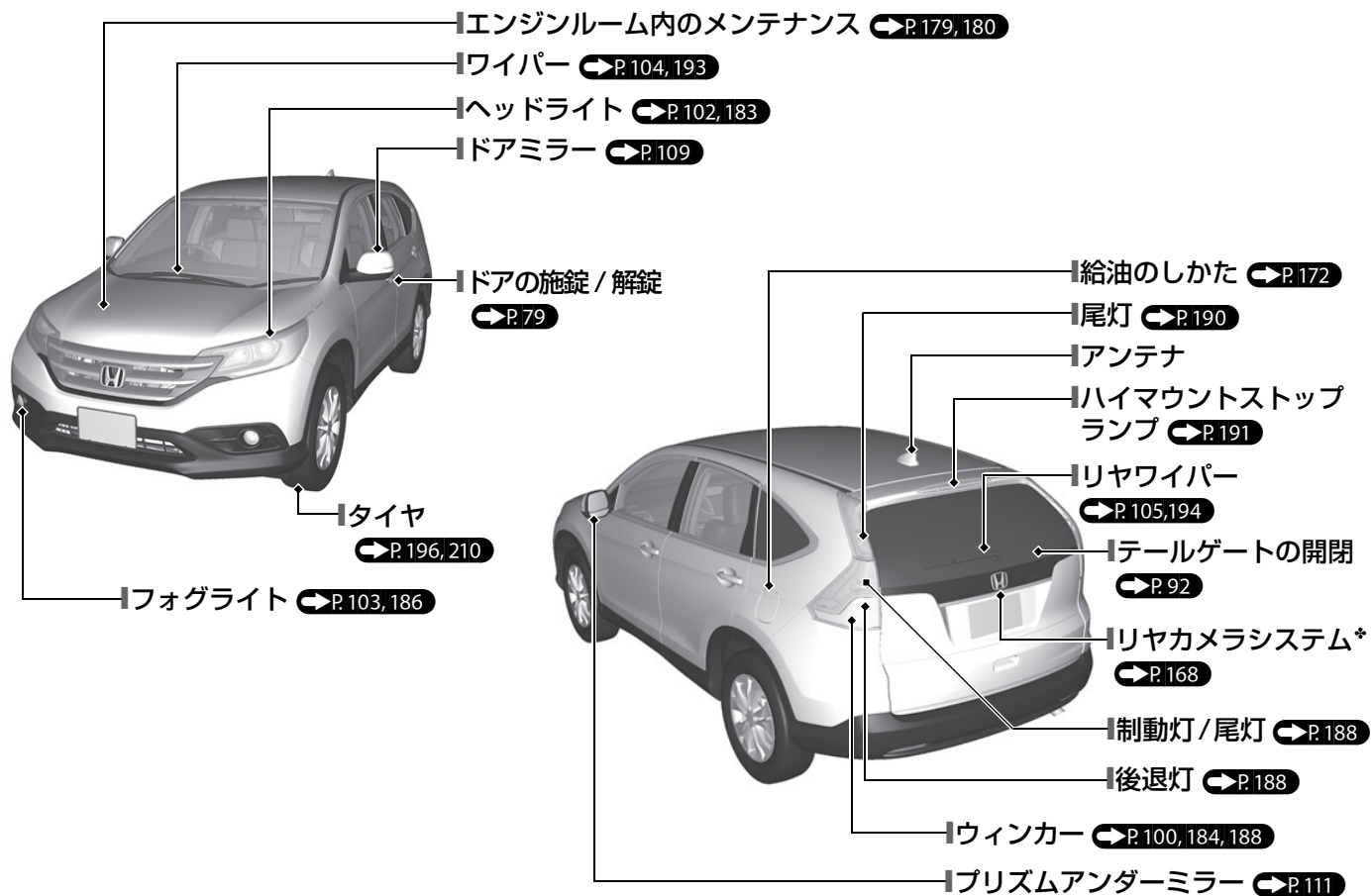


※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

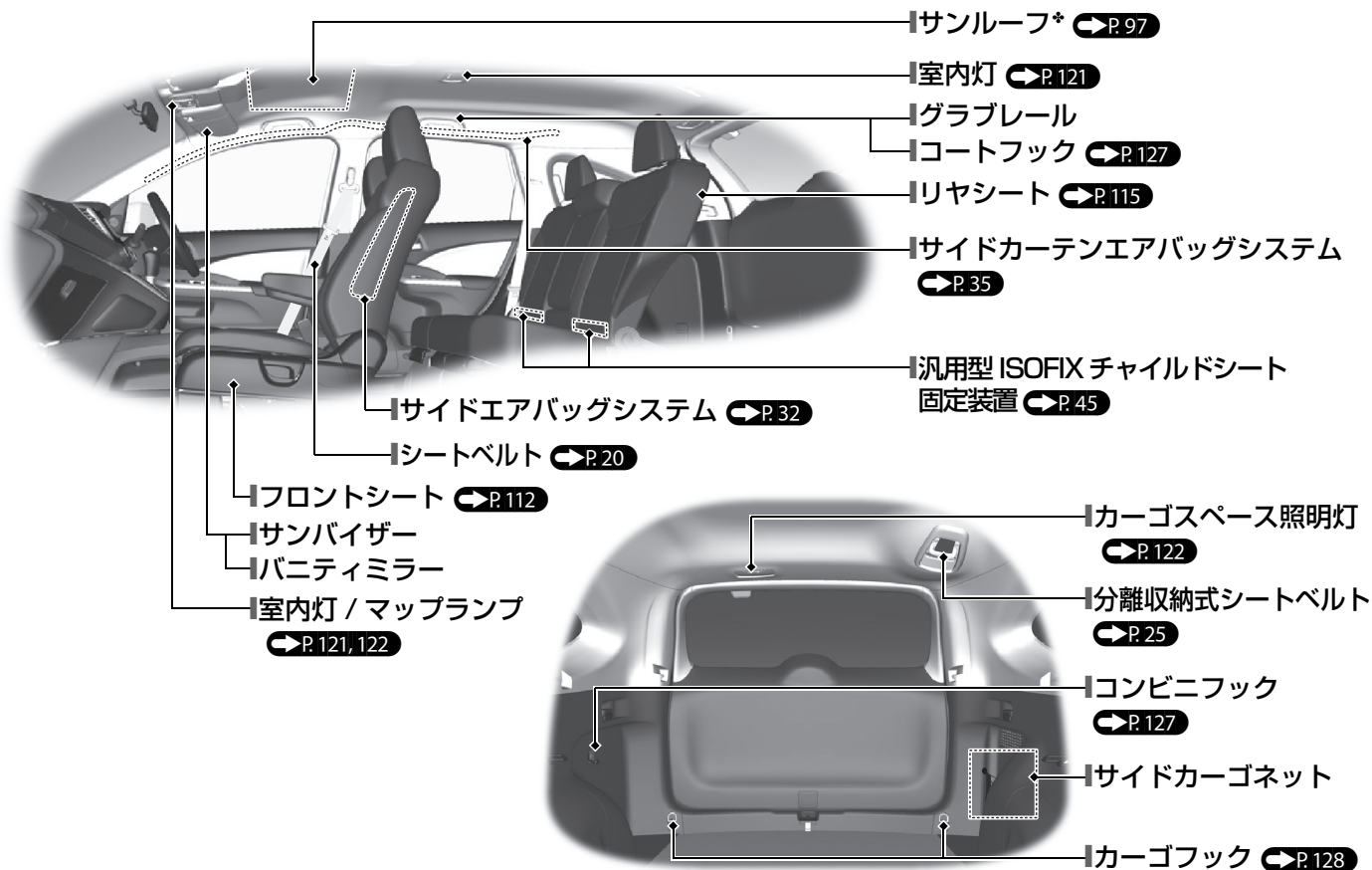
ビジュアル目次





この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



安全なドライブ

➡ P.18

運転を始める前の確認 ➡ P.19

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

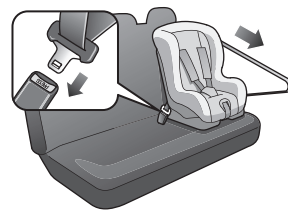
シートベルト ➡ P.20

排気ガスについて ➡ P.52

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

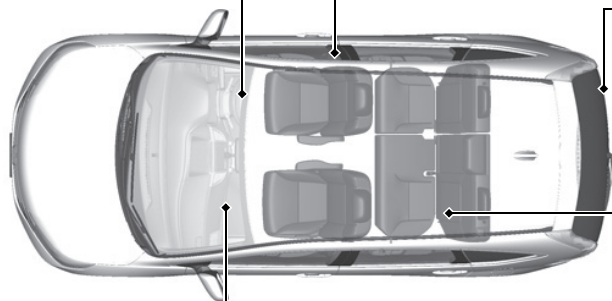
お子さまの安全 ➡ P.40

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ ➡ P.29

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。



計器の見かた ➡P.53

警告灯 ➡P.54 / 表示灯 ➡P.59 / メーター ➡P.63 / マルチインフォメーションディスプレイ* ➡P.68

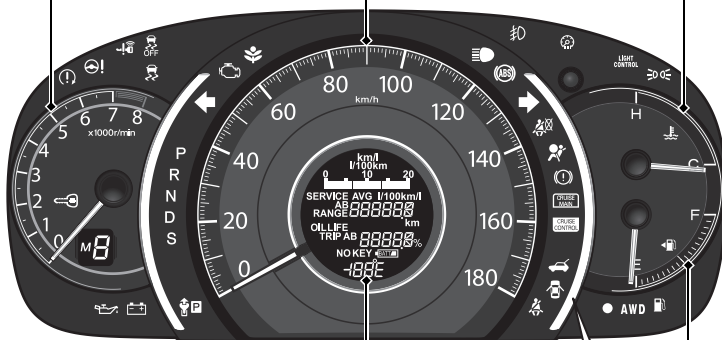
警告灯 / 表示灯

-  スターターシステム警告灯
-  EPS システム警告灯
-  Honda スマートキーシステム警告灯
-  VSA 警告灯
-  VSA OFF 警告灯
-  ECON 表示灯
-  PGM-FI 警告灯
-  方向指示器 / 非常点滅表示灯
-  イモビライザーシステム警告灯
- P
R
N
D
S
-  シフトインジケーター / [M] (シーケンシャルモード) 表示灯*
-  油圧警告灯

タコメーター

スピードメーター

水温計



インフォメーションディスプレイ

燃料計

警告灯 / 表示灯

-  充電警告灯
-  セレクトポジション [P] 移動警告灯*
-  テールゲート開閉警告灯
-  ドア開閉警告灯
-  シートベルト非着用警告灯
-  Honda スマートキー電池消耗警告灯

ECO インジケーター

●運転操作の状態に応じて、ECO インジケーターの色が白色～薄緑色～緑色に変化します。省燃費状態のときは緑色になります。

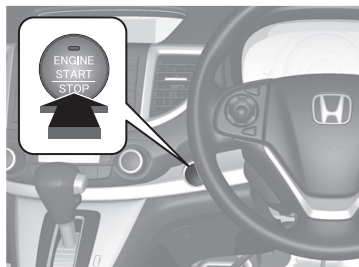
警告灯 / 表示灯

-  ライト点灯表示灯
-  オートライトコントロール警告灯*
-  フォグライト点灯表示灯
-  ハイビーム表示灯
-  ABS 警告灯
-  サイドエアバッグ自動停止表示灯
-  エアバッグシステム警告灯
-  ブレーキ警告灯(レッド)
-  クルーズメイン表示灯
-  クルーズコントロール表示灯
-  燃料残量警告灯
-  AWD システム警告灯*
-  セキュリティアラームシステム作動表示灯

各部の操作 P.77

ENGINE START/STOP スイッチ P.98

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



時刻を合わせる P.78

Honda インターナビシステム非装備車



Honda インターナビシステム装備車

Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

ウィンカー P.100

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト P.102

ライトスイッチ



ワイパー ➡ P.104

ワイパー/ウォッシャースイッチ

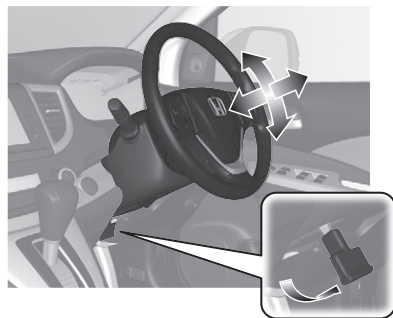


- ・OFF 停止
- ・INT 間欠(雨量が少ないとき)
- ・LO 低速(普通の雨量のとき)
- ・HI 高速(雨量の多いとき)

ハンドル位置の調節

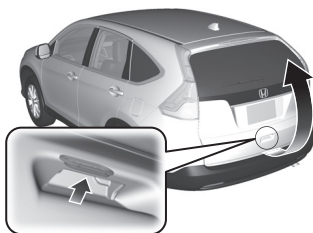
➡ P.108

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



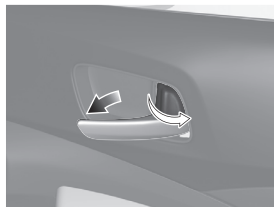
テールゲート ➡ P.92

- テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



運転席ドアハンドルでの解錠 ➡ P.86

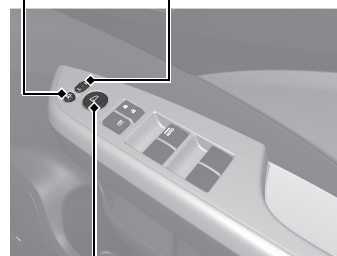
- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



ドアミラー ➡ P.109

- パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。

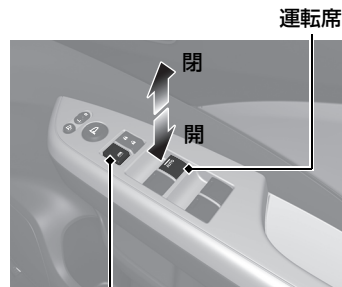
格納スイッチ 左右切り換えスイッチ



角度調節スイッチ

パワーウィンドー ➡ P.95

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



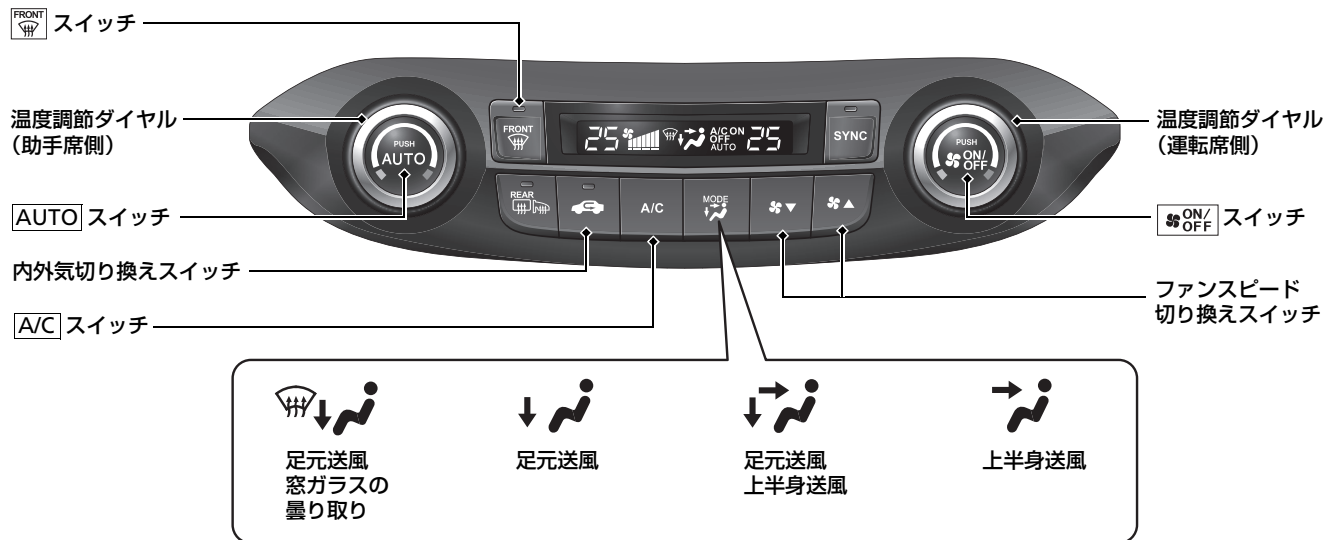
パワーウィンドーロックボタン

- ・ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- ・OFF 全てのウィンドーが作動

エアコン

➡ P.133

- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT** を押します。



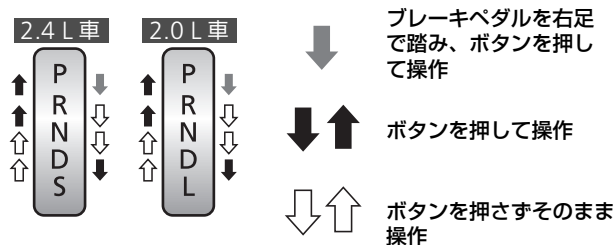
運転 ➡ P.141

オートマチック車 ➡ P.149

- セレクトレバーを[P]に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



P	パーキング 駐車またはエンジンの始動	S	ドライブ(S) ・高回転領域を有効に使用 ・上り坂や下り坂を走行するとき ・シークエンシャルモード*にするととき
R	リバース 車を後退		
N	ニュートラル アイドリング状態	L	ロー 強いエンジンブレーキが必要なとき
D	ドライブ ・通常走行 ・一時的にシークエンシャルモード*にするととき		

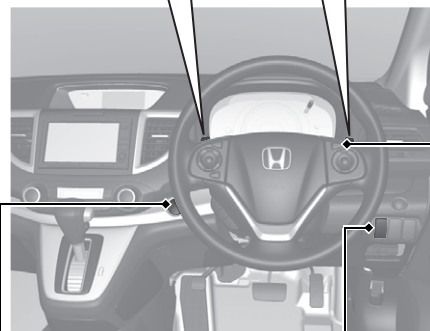
- シークエンシャルモード*を選択すると、メーター内にあるシフトインジケーター/[M]表示灯にギヤ位置が表示されます。
- ハンドルにあるシフトスイッチを使って手動で変速(1～5速)できます。



-シフトスイッチ
(シフトダウン)



+シフトスイッチ
(シフトアップ)



VSA OFF
スイッチ

CRUISE
スイッチ

ENGINE START/STOP スイッチ

VSA OFF スイッチ P.161

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、 を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには  を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

CRUISE スイッチ P.157

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために **CRUISE** を押して OFF にしてください。

ガソリンを入れる P.172

指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

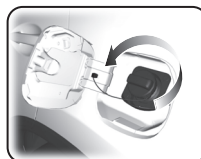
タンク容量：

58 リットル

- ① フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



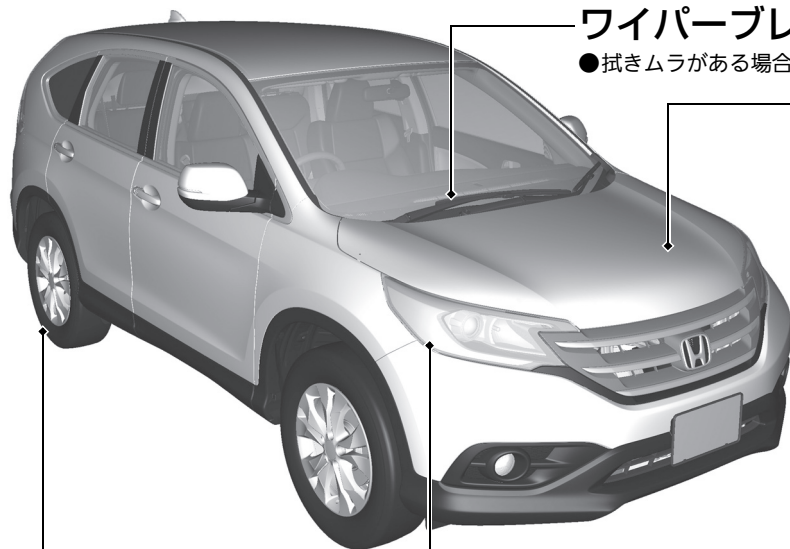
- ② ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



- ③ キャップをホルダーに掛ける。



メンテナンス ➡ P.176



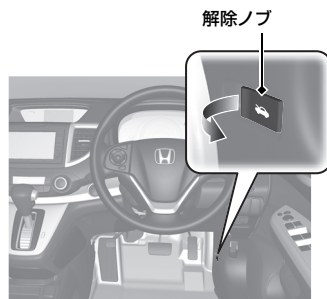
ワイパーブレード ➡ P.193

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

エンジンルーム ➡ P.179, 182, 224

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- 月に一度、バッテリーを点検します。

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



- 2 レバーを右に押してボンネットを開ける。



タイヤ ➡ P.196

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡ P.183

- ヘッドライト、フォグライト電球、テールライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には

➡ P.208

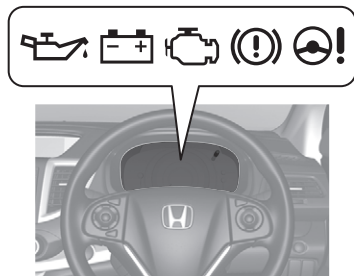
パンクした ➡ P.210

- 安全な場所に停車し、応急用スペアタイヤに交換します。



警告灯が点灯した ➡ P.225

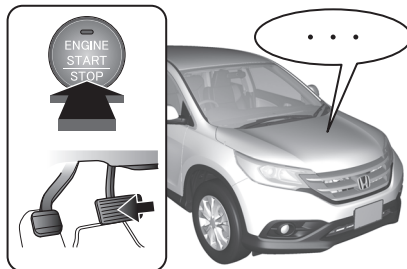
- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

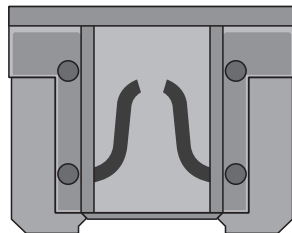
➡ P.217

- バッテリーあがりと考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた ➡ P.228

- アクセルペダルの上とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした ➡ P.224

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡ P.232

- 必ず専門業者に依頼してください。やむをえず4輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q

ENGINE START/STOP のパワー
モードが OFF モードからアクセ
サリーモードにならない

A

- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、
ENGINE START/STOP を押してください。



Q

ENGINE START/STOP のパワー
モードが OFF モードにならない

A

- セレクトレバーが **P** 以外の位置になってい
ませんか？



Q

ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

A

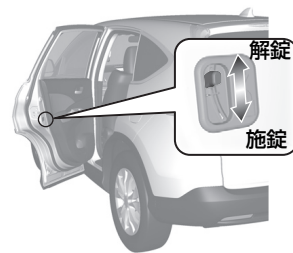
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあ
ります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q

後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドブローフが施錠の位置に
なっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルド
ブローフのツマミを解錠の位置にし
てください。



Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- 「ピピピピ」と鳴るときはパワーモードをアクセサリモードにしていますか？
- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？



Q 走行するとブザーが鳴る

A

- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音をする

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.18

安全なドライブのために 19 シートベルト 20 エアバッグ 29 お子さまの安全 40
排気ガスの危険性 52

計器の見かた P.53

警告灯と表示灯 54 メーターとインフォメーションディスプレイ 63

各部の操作 P.77

時刻の設定 78 ドアロック 79 テールゲート 92 セキュリティシステム 93
ウィンドー 95 サンルーフ 97 ハンドルまわりのスイッチ 98 ミラー類 109
シート 112 室内灯 / 室内装備品 121 エアコン 133

オーディオ P.138

オーディオ装置 139 オーディオリモートコントロールスイッチ 140

運転 P.141

運転の前に 142 運転 144 ブレーキ 162 駐停車 166
リヤカメラシステム*168 給油 172 アクセサリーと改造 175

メンテナンス P.176

メンテナンスの前に 177 エンジンルーム内 179 電球 183 ワイパー 193
タイヤ 196 Honda スマートキー 200 エアコンのお手入れ 202
清掃 204

万ーの場合には P.208

工具、発炎筒 209 パンク 210 エンジンが始動しない 217 ジャンプスタート 220
セレクトレバが動かない 223 オーバーヒート 224 警告灯が点灯 / 点滅した 225
ヒューズ 228 けん引 232 テールゲートが開かない 235

資料 P.236

仕様：2.0L 車 237 仕様：2.4L 車 239

安全なドライブ P.18

計器の見かた P.53

各部の操作 P.77

オーディオ P.138

運転 P.141

メンテナンス P.176

万ーの場合には P.208

資料 P.236

索引 P.241

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 19

シートベルト

シートベルトについて 20

シートベルトの着用 23

シートベルトの点検 28

エアバッグ

エアバッグの種類 29

SRS エアバッグ 29

サイドエアバッグ 32

サイドカーテンエアバッグ 35

エアバッグシステム警告灯 / 表示灯 37

エアバッグのお手入れ 39

お子さまの安全 40

乳幼児の安全 41

大きなお子さまの安全 50

排気ガスの危険性

一酸化炭素について 52

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
❏ 車内での施錠 P.86
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
❏ フロントシート P.112
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
❏ フロントシート P.112
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
❏ シートベルトの着用 P.23
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
❏ エアバッグ P.29
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
❏ お子さまの安全 P.40
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを **P** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
❏ シフト操作 P.150, 152

❏安全のための確認事項

ドア開閉警告灯 / テールゲート開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア開閉警告灯 / テールゲート開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

❏ ドア開閉警告灯 P.57

❏ テールゲート 開閉警告灯 P.57

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

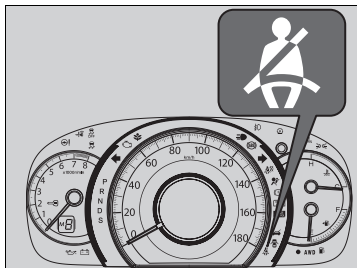
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

■ シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

▣ シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは後退位置警報装置のブザーが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

安全性をより高めるために、フロントシートとリヤシート外側2 座席にはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束効果を高めるための装置です。



※シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

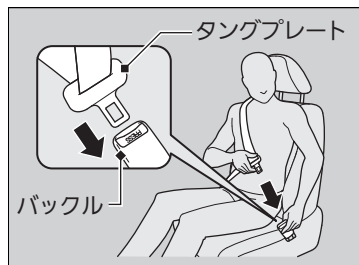
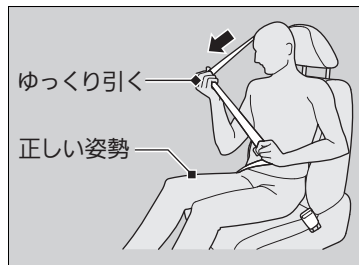
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用

■ 三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。
3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。
4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ シートベルトの着用

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

ベルトが肩に十分かかるよう、ショルダアンカーの高さを調節してください。

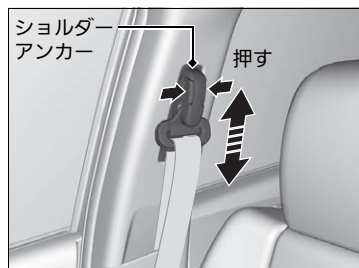
ベルトがくび、あご、顔などに当たる場合は、ショルダアンカーの高さを調節します。

■ ショルダアンカーの高さ調節 P.24

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

■ シートベルトの着用

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ ショルダーアンカーの高さ調節

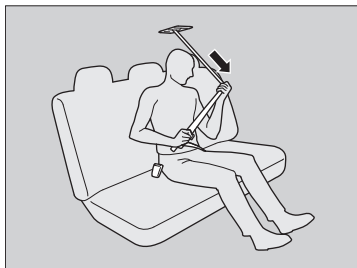
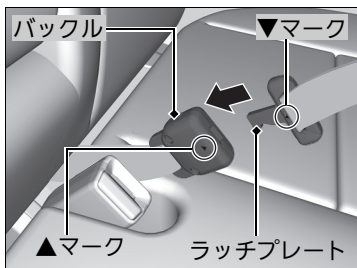
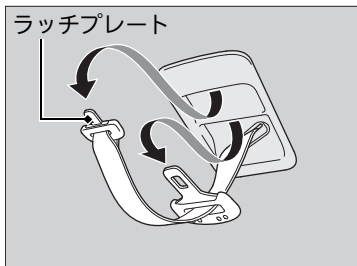
⚠ 注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください。

分離収納式シートベルト



1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。

2. ラッチプレートを引き出し、▲マークがついているバックルに差し込む。

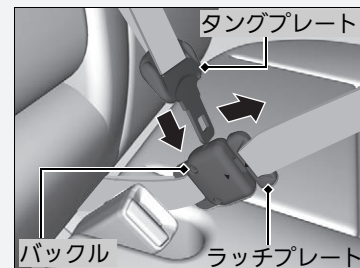
▶ ラッチプレートの▼マークとバックルの▲マークを合わせて差し込みます。

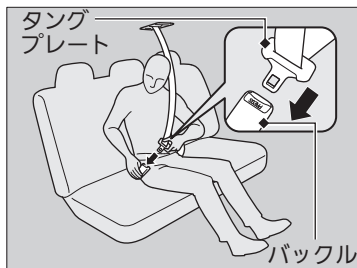
3. 正しい姿勢でシートにすわる。

4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

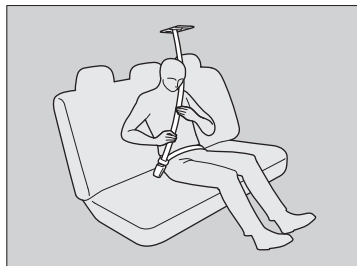
分離収納式シートベルト

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを▲マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。





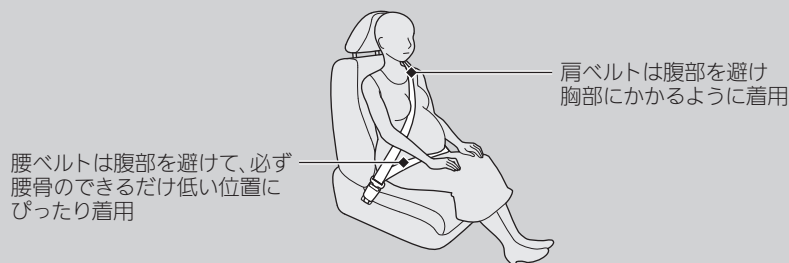
5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるとに合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

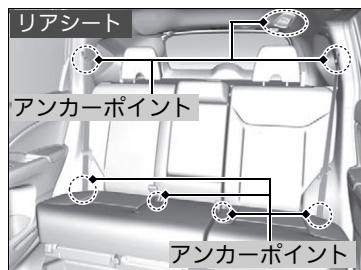
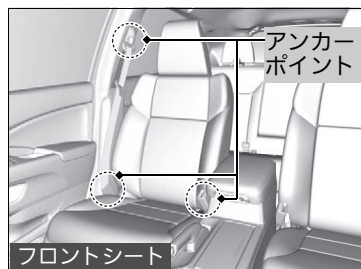
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻る場合があります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードにSRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

エアバッグの種類

警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

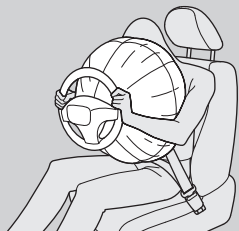
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ 作動のしくみ

SRSエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■ SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

※SRS エアバッグの作動

⚠ 警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

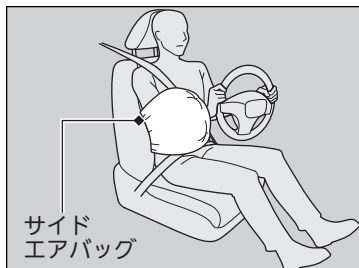
格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。

どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

※サイドエアバッグ

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドエアバッグが作動します。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていしますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

※サイドエアバッグ



注意

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いとは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

■ サイドエアバッグ自動停止システム

助手席に乗ったお子さまなどを保護する目的で、以下のような状態ではサイドエアバッグ自動停止システムがはたらきます。

- 小さなお子さまや小柄な大人のかたがドアに寄りかかるなどで、サイドエアバッグが膨らむ付近に頭があるようなとき
- 助手席の同乗者がサイドエアバッグの作動範囲に入ったとき
- 大人のかたが前かがみになっていたり、寝そべてドアに寄りかかっているとき

こうした状態になるとセンサーが検知し、サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

■ サイドエアバッグ自動停止表示灯 P.38

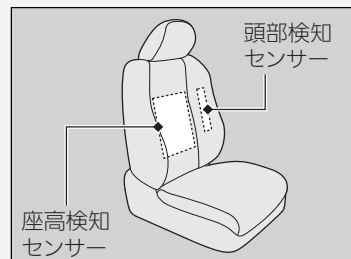
■ サイドエアバッグ自動停止表示灯の点灯

サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯したら、同乗者に体を起こすように指示してください。また、小さなお子さまの場合は、リヤシートに乗せてください。表示灯が消灯すると、サイドエアバッグは自動停止状態を解除し、通常の状態に戻ります。

■ サイドエアバッグ

各センサーにより乗員の姿勢を検知して、サイドエアバッグの作動を制御します。

ドアにもたれるなどしないように注意してください。



以下のような場合、センサーが正常に作動しないことがあります。

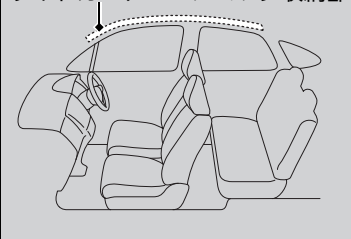
- シートの背もたれがぬれているとき
- 金属など電気を通すものが接しているとき
- シートにクッションなどを置いているとき
- ダウンジャケットなど厚い上着を着ているとき

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレードにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

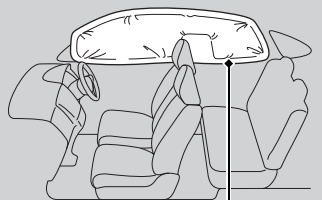
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけいているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

🔗 作動条件 P.33

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRSエアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda販売店で交換してください。

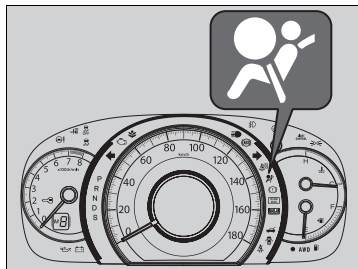
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯 / 表示灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯や表示灯で知らせます。

エアバッグシステム警告灯



■ **パワーモードを ON モードにしたとき**
 パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■ **異常が発生したとき**
 エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

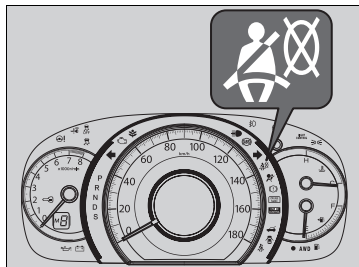
エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。
 エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
 パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■サイドエアバッグ自動停止表示灯



■パワーモードを ON モードにしたとき
パワーモードを ON モードにすると、サイド
エアバッグ自動停止表示灯が数秒間点灯
し、消灯すれば正常です。

■サイドエアバッグ自動停止システムの 作動

サイドエアバッグの自動停止システムが作
動して、助手席のサイドエアバッグシステ
ムが停止状態になると、サイドエアバッグ
自動停止表示灯が点灯します。

この表示灯が点灯していても、異常ではあ
りません。

☒ サイドエアバッグ自動停止システム P.34

☒ サイドエアバッグ自動停止表示灯

以下の状態で点灯する場合、Honda 販売店で点
検を受けてください。

- 走行中、助手席に誰も乗っていないとき
 - 正しい乗車姿勢をとっているとき
- パワーモードを ON モードにしても点灯しないと
き、あるいは数秒経過しても消灯しないとき
も、Honda 販売店で点検を受けてください。

助手席の同乗者が正しい乗車姿勢をとってい
る状態で、サイドエアバッグ自動停止表示灯
が点灯する場合は、下記の項目を確認してく
ださい。

- シートの背もたれがぬれていないか？
- 金属など電気を通すものが接していないか？
- シートにクッションなどを置いていないか？
- ダウンジャケットなど厚い上着を着ていない
か？

原因となるものを取り除いても、サイドエア
バッグ自動停止表示灯が点灯している場合は
Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

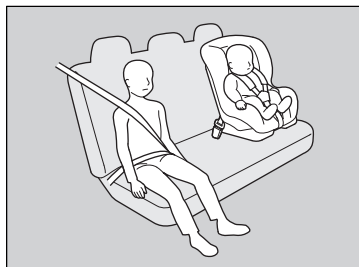
■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があるため危険です。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができず危険です。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 窓やサンルーフから手や顔、物を出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが窓やサンルーフから手や顔、物などを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあり危険です。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になり危険です。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

※お子さまの安全を守るために

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告

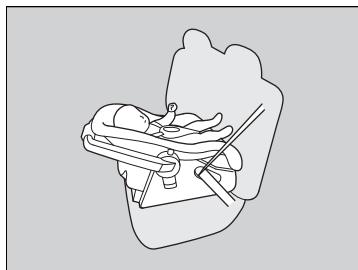


シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

※お子さまの安全を守るために

お子さまを助手席に乗せないほうが良い理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

※乳児のチャイルドシート

⚠ 警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

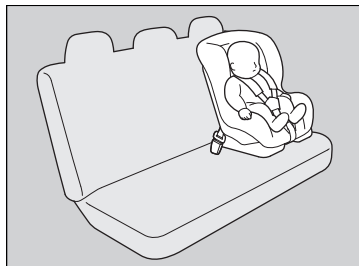
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席のSRSエアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

※ 幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- 一覧表に案内されているチャイルドシートであること
- 選択の目安 P.44, 46
- チャイルドシートがお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。

次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	前席 助手席	座席位置	
		後席 外側席	中央席
グループ 0 ～ 10kg	X	U	X
グループ 0 + ～ 13kg	X	U	※1
グループ I 9kg ～ 18kg	UF	U	※2
グループ II 15kg ～ 25kg	UF	U	※3
グループ III 22kg ～ 36kg	UF	U	※3

記号の説明

- U : 汎用型チャイルドシートが取り付け可能です。
- UF : 汎用型チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
- ※1 : Honda Baby ISOFIX チャイルドシートまたは Honda スタンダードチャイルドシートが後ろ向きに取り付け可能です。
- ※2 : Honda Kids ISOFIX チャイルドシートまたは Honda スタンダードチャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
- ※3 : Honda ジュニアシートが取り付け可能です。
- X : チャイルドシートを取り付けできません。

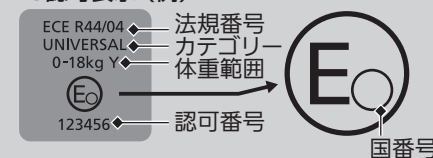
■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用) と案内されているものもあります。

EC認可表示 (例)



汎用型 ISOFIX チャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具 (ロッキングクリップ) が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシート外側 2 座席には、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ 等級	固定具	座席位置		
			前席 助手席	後席 外側席	中央席
キャリコット	F G	ISO/L1 ISO/L2	— —	X X	— —
グループ 0 ~10kg	E	ISO/R1	—	IL	—
グループ 0 + ~13kg	E D C	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3	— — —	IL X X	— — —
グループ I 9kg ~ 18kg	D C B B1 A	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3	— — — — —	X X IUF IUF IUF	— — — — —
グループ II 15kg ~ 25kg	—	—	—	X	—
グループ III 22kg ~ 36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IL : 国連の安全基準 ECE R44 に適合している準汎用型 ISOFIX チャイルドシートのみが取り付け可能です。

IUF : 国連の安全基準 ECE R44 に適合している汎用型 ISOFIX チャイルドシートのみが前向きに取り付け可能です。

X : ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

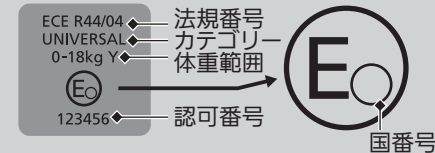
チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの 大きさ	使用の向き	形状、 大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

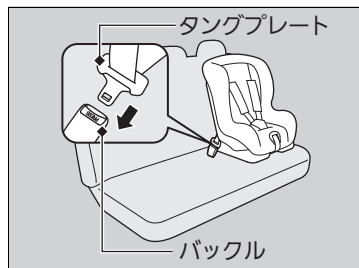
IL は ECE R44 に適合した、Honda 純正 HondaBaby ISOFIX のみ取り付けことができます。ご購入は Honda 販売店にご相談ください。

IUF のチャイルドシートには、ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX (汎用) と案内があります。

EC認可表示 (例)



■ シートベルトでの取り付け



1. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
 ■ 背もたれの調節 P.116
2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
 ▶ このとき、バックルが「カチリ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■ チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

※ シートベルトでの取り付け

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

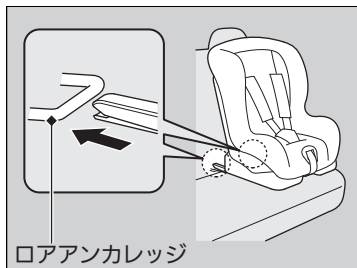
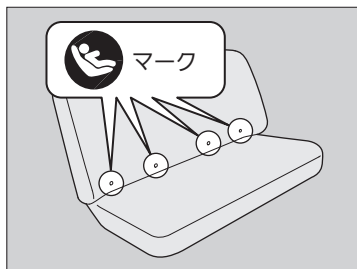
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。

2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

■ 背もたれの調節 P.116

3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

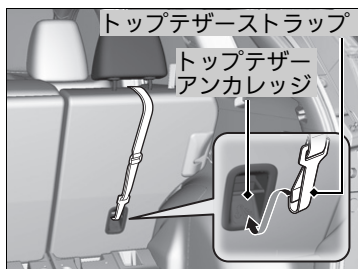
⚠ 注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



4. ヘッドレストを起こして固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っ掛け、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

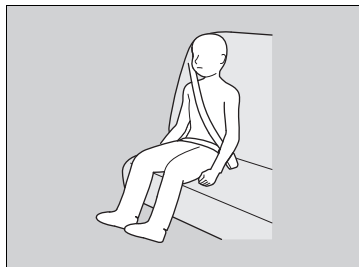
⚠ 注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

大きなお子さまの安全

■シートについて

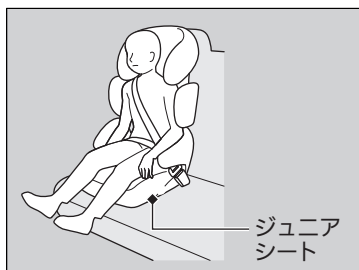
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけ、足をフロアーにつけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- お子さまの行動を見守る

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

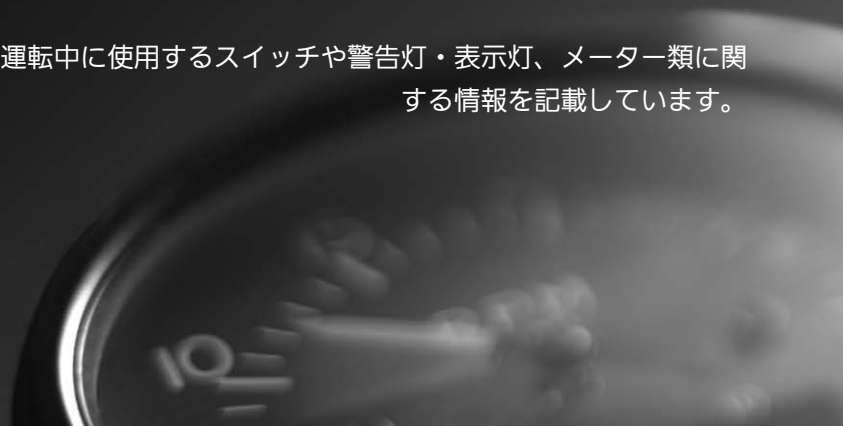
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 54

表示灯 59

マルチインフォメーションディスプレイ
の警告メッセージ 62

メーターとインフォメーションディスプレイ

メーター 63

インフォメーションディスプレイ 65

マルチインフォメーションディスプレイ* .. 68

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯 (レッド)	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) - ブレーキフルード量が低下したときに点灯	- 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 🔧 ブレーキ警告灯が点灯した P.226
	油圧警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	走行中に点灯 = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 🔧 油圧警告灯が点灯した P.225
	PGM-FI 警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 - エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 - エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	走行中に点灯 = 高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅 = 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを停止して冷えるのを待ちください。 🔧 PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.226
	充電警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - バッテリーが充電されていないと点灯	走行中に点灯 = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 🔧 充電警告灯が点灯した P.225

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	トランス ミッション警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - トランスミッションが異常のときに点滅	運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	シートベルト 非着用警告灯	- 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 - パワーモードをONモードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ☑ シートベルトリマインダー P.21
	Honda スマート キーシステム 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - Hondaスマートキーシステムが異常のときに点灯または点滅	- 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - 運転中に点灯した - エンジン始動後も消灯しない - パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した - パワーモードをOFFモードにしたときに点滅した
	セレクトポジション [P] 移動警告灯*	セレクトレバーが [P] 以外のときに、パワーモードが ON モードからアクセサリモードになると表示	- パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを [P] にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。 - エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ☑ エンジンの始動 P.144

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	燃料残量警告灯	- 燃料の残量が少なくなると点灯 - 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 8 リットルになったときです。 - 燃料計に異常があるときは点滅	- 点灯したら早めに給油してください。 - 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS (アンチロックブレーキシステム) 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ABS が異常のときに点灯	点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ ABS (アンチロックブレーキシステム) P.164
	エアバッグシステム警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - 下記のとき点灯 - エアバッグシステムの異常 - プリテンショナーシステムの異常	常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA (ビークルスタビリティアシスト) 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA が作動しているときは点滅 - ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ▶ VSA (ビークルスタビリティアシスト) P.160
	VSA OFF 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA を OFF にすると点灯	▶ VSA (ビークルスタビリティアシスト) P.160

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	オートライト コントロール 警告灯*	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯	運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ドア開閉警告灯	- ドアが閉まっているときは、パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ドアが完全に閉まっていないとき点灯 - 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点灯	ドアを完全に閉めると、警告灯が消灯します。
	テールゲート 開閉警告灯	- テールゲートが閉まっているときは、パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。
	EPS (電動パワース テアリング) システ ム警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - EPS システムの機能に異常があると点灯	- 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯が点灯した P.227

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
AWD	AWD(オールホイールドライブ)システム警告灯*	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • AWD システムが異常のとき点灯 • AWD システムがオーバーヒートしたとき点滅	• 走行中に点灯 = 前輪駆動での走行になります。急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 走行中に点滅 = 前輪駆動での走行になります。安全な場所に車を停めて、セレクトレバーを [P] にして、アイドリング運転を行い、消灯するまでお待ちください。消灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 🔧 REAL TIME AWD(オールホイールドライブ)システム* P.161
	スターターシステム警告灯	• スターターシステムが異常のときに点灯	• ブレーキを踏んだまま [ENGINE START/STOP] をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
KEY 	Honda スマートキー電池消耗警告灯	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に点灯	🔧 電池交換のしかた P.201

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	- 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 電球の交換 P.184, 188
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—
	ライト点灯表示灯	ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	ライトを点灯したままパワーモードをOFFモードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
	フォグライト点灯表示灯	フォグライトを点灯させると点灯	—
	サイドエアバッグ自動停止表示灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - 助手席のサイドエアバッグシステムのセンサーが作動し、サイドエアバッグシステムが自動的に停止したときに点灯	- 一瞬の点灯は異常ではありません。 - 点灯したときは、上体を起こしてすわってください。小さいお子さまが助手席に乗っているときは、リヤシートに乗せてください。 - 助手席に誰も乗っていないのに走行中点灯するときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	イモビライザーシステム表示灯	- パワーモードをONモードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 - イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	- 一瞬の点灯は異常ではありません。 - 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度ONモードにしてください。 - 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 ENGINE START/STOP スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	ECON 表示灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ECON スイッチを押して、ECON を ON にすると点灯	🔘 ECON スイッチ P.156
	クルーズメイン表示灯	クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯	🔘 クルーズコントロール P.157
	クルーズコントロール表示灯	クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	🔘 クルーズコントロール P.157

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	セキュリティ アラームシステム 作動表示灯	セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	 セキュリティアラームシステム P.93
	セレクトポジション 表示灯	現在のセレクトレバーのポジションが点灯	 シフト操作 P.151, 153
	シフトインジケーター/  (シーケンシャルモード)表示灯*	- セレクトレバーが で、シーケンシャルモードのときに点灯 - シーケンシャルモードのとき、ギヤ位置を表示	 シフト操作 P.153
	 2.0L 車 S モード表示灯	セレクトレバーが で、S モードスイッチを押すと点灯	 シフト操作 P.151

マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージ

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
	パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	パワーモードを OFF モードにしてください。 ENGINE START/STOPスイッチ P.98
	ドアを解錠して運転席のドアを開けると表示	エンジンの始動 P.144
	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にいないときに、警告音と同時に表示	Honda スマートキーの電池が切れたとき P.218
	セレクトレバーが P 以外のとき、ENGINE START/STOP を押すと表示	セレクトレバーを P にして、ENGINE START/STOP を 2 回押してください。
	アクセサリーモードのときに表示	—
	ハンドルのロックが解除されていないときに表示	ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。

メーターとインフォメーションディスプレイ

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計、水温計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は **[H]** のマークにまで上がらない状態で走行します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

燃料計

アドバイス

燃料計が **[E]** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

水温計

アドバイス

水温計の針が **[H]** の目盛りまで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。

❗ **オーバーヒート** P.224

■ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

▣ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

エンジンの限界回転数は、下表の通りです。

タイプ	限界回転数
2.0 L 車	6,500rpm
2.4 L 車	7,100rpm

CVT 車

セレクトレバーが **R** のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

表示の切り換えかた

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

表示の切り換えかた

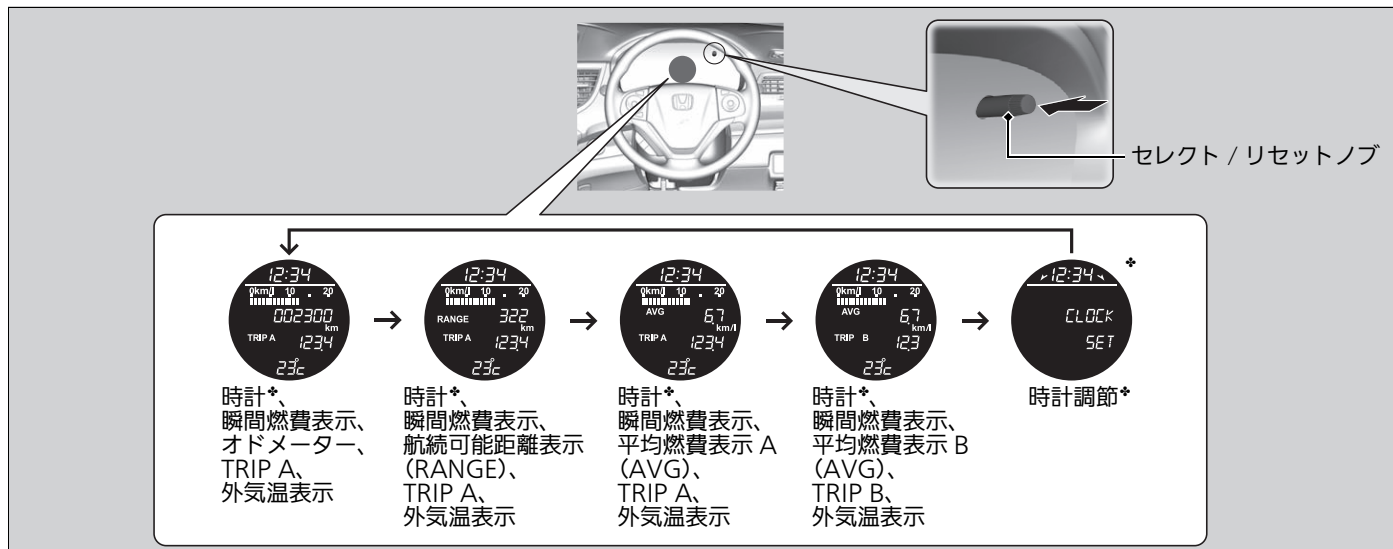
Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる P.78

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

いくつかの表示は、マルチインフォメーションディスプレイにも表示されます。
マルチインフォメーションディスプレイが燃費情報表示をしているとき、インフォメーションディスプレイの表示切り換えに合わせて、表示が切り換わります。

計器の見かた



❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップ A と、トリップ B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

❑ カスタマイズ機能 P.70

❑トリップメーター

トリップ A とトリップ B は、セレクト / リセットノブを押して切り換えます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

❑外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合は、外気温表示が点滅しません。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

航続可能距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

平均燃費表示(AVG)

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

✕ 航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

✕ 平均燃費表示(AVG)

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

トリップメーターA/B と平均燃費 A/B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

✎ カスタマイズ機能 P.70

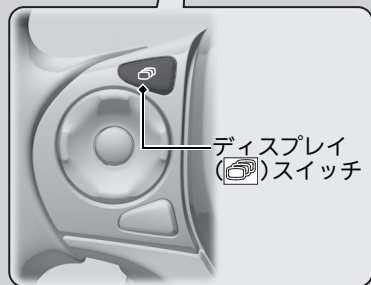
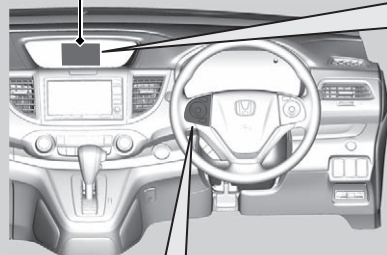
マルチインフォメーションディスプレイ*

時計、オーディオ情報、燃費情報などが表示されます。

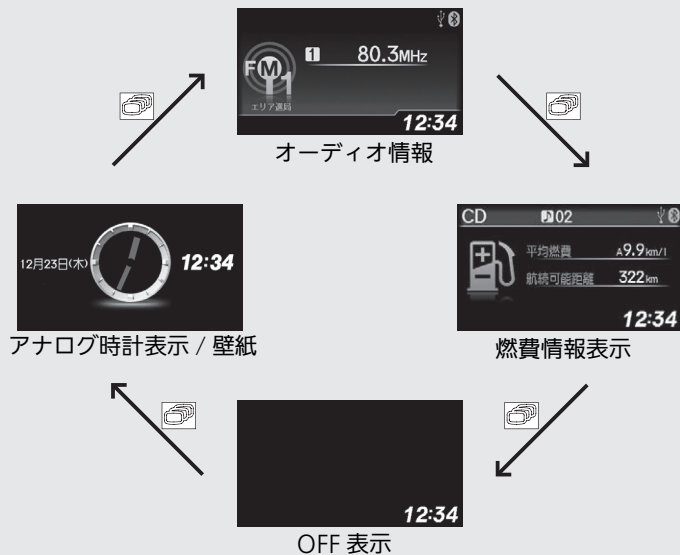
■表示の切り換えかた

 を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

マルチインフォメーションディスプレイ



ディスプレイ
()スイッチ



平均燃費表示

トリップメーターA、Bと連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

交差点案内表示

ナビゲーションシステムと連動して、交差点での曲がる方向や交差点までの距離を表示します。

平均燃費表示

マルチインフォメーションディスプレイを使って、燃費情報表示の項目を変更することができます。

❑ カスタマイズ機能 P.70

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA/B と平均燃費 A/B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

❑ カスタマイズ機能 P.70

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

交差点案内表示

マルチインフォメーションディスプレイを使って、表示しないようにすることができます。

❑ カスタマイズ機能 P.70

■カスタマイズ機能

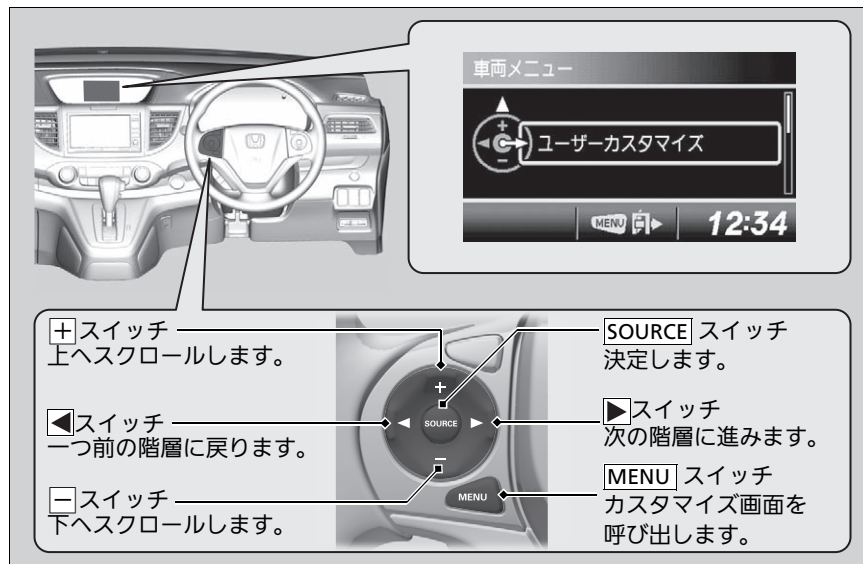
マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
画面カスタマイズ	壁紙選択	アナログ時計※、壁紙 1、壁紙 2、壁紙 3
	画像読込	画像を 3 枚まで保存可能 ■ 壁紙の設定のしかた P.74
	壁紙削除	壁紙 1、壁紙 2、壁紙 3
	トリップメーター表示項目	航続可能距離※、経過時間、平均車速
	オープニングアニメーション	On※、Off
	背景色	ブルー※、レッド、ブラウン、グレー
	キーレススタートガイダンス表示	On※、Off
	交差点案内表示	On※、Off
トリップコンピューター設定	外気温表示補正	-3℃ ~ ±0℃※ ~ +3℃
	トリップ A リセット条件	給油連動、マニュアル操作※、IGN OFF
	トリップ B リセット条件	給油連動、マニュアル操作※、IGN OFF
	メーターエコ照明	On※、Off
Honda スマートキー設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	On※、Off
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度*	MAX、大、中※、小、MIN
ドア設定	自動ドアロック連動機能	OFF、車速連動、シフト連動※
	自動ドアアンロック連動機能	OFF、シフト連動※、IGN OFF
	キーレスアンサーバック	On※、Off
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティ機能	On※、Off

※：工場出荷時の設定

カスタマイズのしかた

パワーモードがONモードで車が停止しているときに、**MENU**を押すと、カスタマイズを行なうことのできる「ユーザーカスタマイズ」画面に切り換わります。



カスタマイズのしかた

▶ カスタマイズ操作一覧 P.72

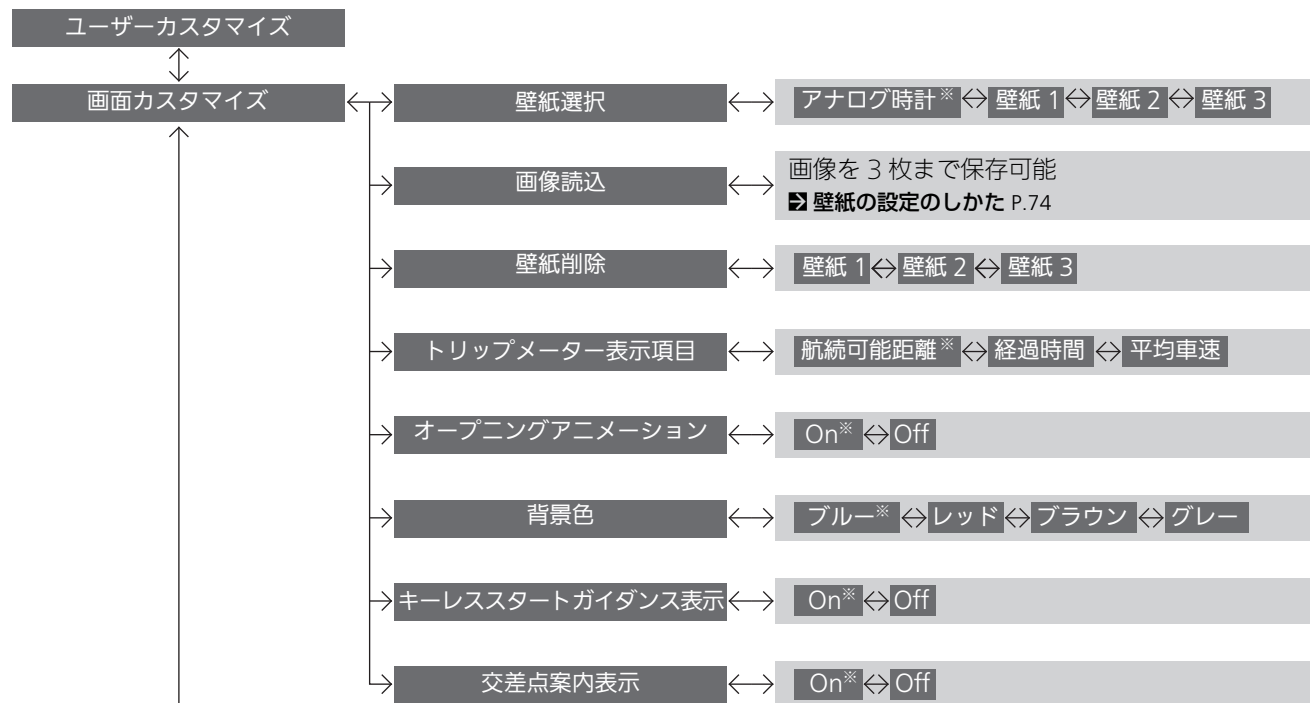
▶ 壁紙の設定のしかた P.74

■カスタマイズ操作一覧

MENU を押します。

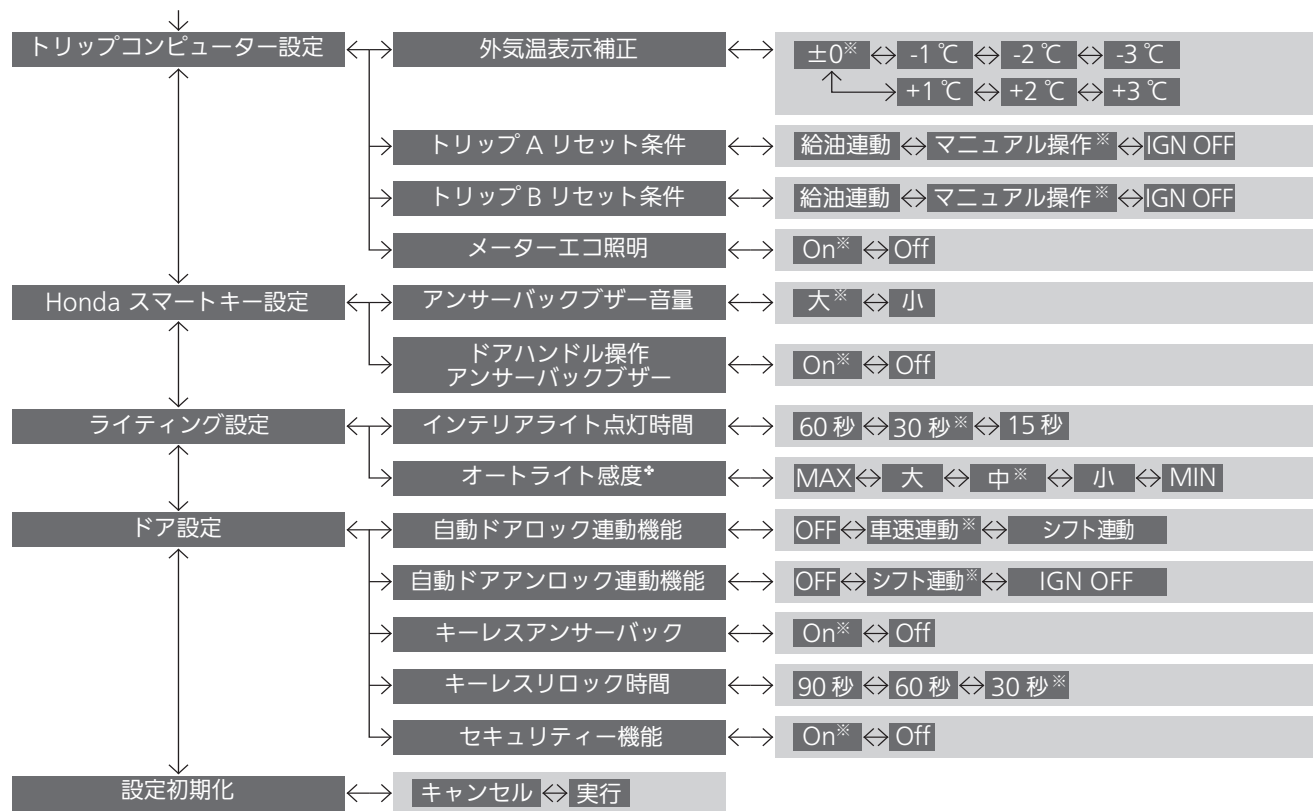
※カスタマイズのしかた

カスタマイズの途中で **MENU** を押すと、カスタマイズを終了することができます。



次ページに続く

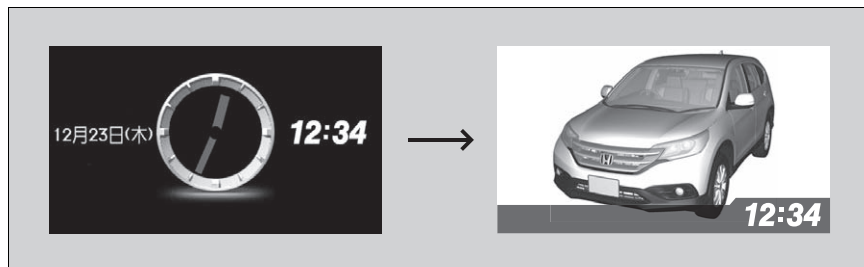
※：工場出荷時の設定



※：工場出荷時の設定

■壁紙の設定のしかた

時計表示をお好みの画像に変更することができます。



USB メモリーから画像を読み込むとき

USB メモリーを使って、壁紙に使う画像を 3 つまで保存することができます。
USB メモリーを接続し、「画面カスタマイズ」の「画像読込」から画像を選択します。



1. USB メモリーを接続する。
 ■ USB 端子* P.125
2. **MENU** を押す。
3. **▶** を押す。
4. **+/−** を押して、「画面カスタマイズ」を選択したら、**▶** を押す。

▶▶壁紙の設定のしかた

- 画像は、USB メモリーのルート階層に入れてください。フォルダーに入れてあると読み込むことができません。
- BMPまたはJPEG形式の静止画像を表示できます。
- 1つの画像データの容量は最大で2MBです。
- 全画面で表示できる最大画像のサイズは1,680×936です。画像サイズが420×234より小さいときは、画面中央に画像が表示され、外側は黒色になります。
- 画像は最大で 255 個まで読み込むことができます。



5. **[+]/[-]** を押し、「画像読込」を選択したら、**[▶]** を押す。
▶ ファイル名が表示されます。



6. **[+]/[-]** を押し、設定したい画像のファイル名を選択したら、**[▶]** を押す。
▶ 画像のプレビューが表示されます。



7. **[SOURCE]** を押す。
▶ 画像が壁紙に設定されます。



8. **[+/-]** を押し、保存したい場所を選択したら、**[SOURCE]** を押す。
9. **[MENU]** を押す。
▶ カスタマイズが終了します。

■壁紙の選択



1. **[MENU]** を押す。
2. **[▶]** を押し、「画面カスタマイズ」を選択したら、**[▶]** を押す。
3. **[+/-]** を押し、「壁紙選択」を選択したら、**[▶]** を押す。
4. **[+/-]** 押し、設定したい画像を選択したら、**[▶]** を押す。
▶ スクロールを止めると、画像のプレビューが表示されます。
5. **[MENU]** を押す。
▶ カスタマイズが終了します。



各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定	78
ドアの施錠と解錠	
キーの種類と機能	79
車外でのドアの施錠 / 解錠	82
車内での施錠 / 解錠	86
チャイルドプルーフ	87
オートドアロック / オートドアアンロック	88
テールゲートの開閉	92
セキュリティシステム	
イモビライザーシステム	93
セキュリティアラームシステム	93
ウィンドーの開閉	95
サンルーフ*の開閉	97

ハンドルまわりのスイッチ操作	
ENGINE START/STOP スイッチ	98
方向指示器 (ウィンカースイッチ)	100
アクティブコーナリングライト	101
ライトスイッチ	102
フォグライトスイッチ	103
ワイパー / ウォッシャー	104
イルミネーションコントロール	106
リヤデフロスター / ヒートッドドアミラースイッチ	107
フロントガラス熱線スイッチ	107
ハンドルの調節	108
ミラー類の調節	109

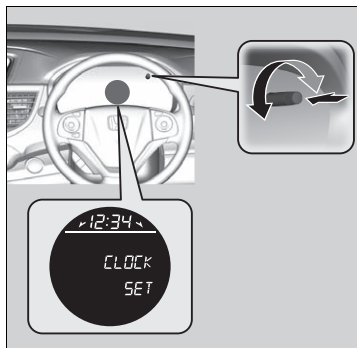
シートの調節	112
ヘッドレスト	117
アームレスト	120
室内灯 / 室内装備品	121
エアコン	
エアコンの吹き出し口	133
オートエアコンの使いかた	134

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻を合わせる

Honda インターナビシステム非装備車

時計はインフォメーションディスプレイに表示されます。



1. セレクト/リセットノブを押して、時計調節表示にする。
▶ 「時」、「分」が点滅します。
2. セレクト/リセットノブを回して、時間を合わせる。
右に回す：「分」が進みます。
▶ 「59」を超えると「時」が 1 時間進みます。
左に回す：「分」が戻ります。
▶ 「00」を超えると「時」が 1 時間戻ります。
3. セレクト/リセットノブを押す。

時間設定が完了しました。設定した時間が表示されます。

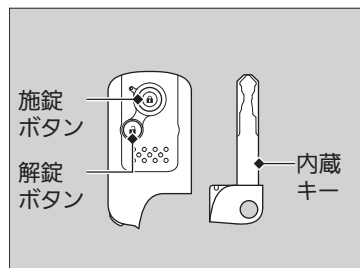
※時計の時刻を合わせる

Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。キーの組み合わせは、車両のタイプにより異なります。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

■キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

■イモビライザーシステム P.93

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

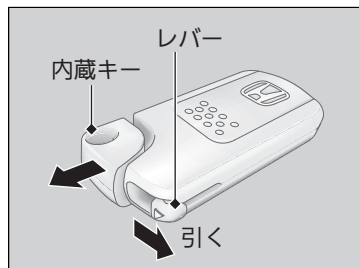
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ Honda スマートキー



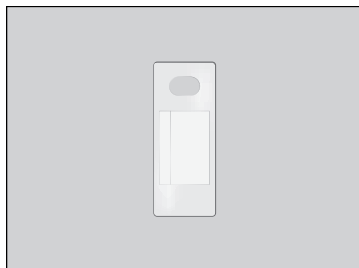
Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

■ キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.218

■ キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

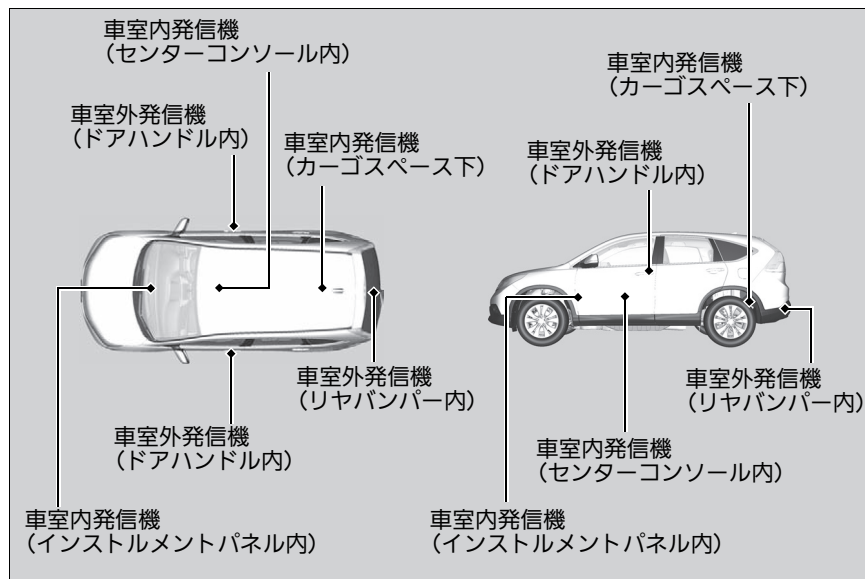
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠ Honda スマートキーの微弱電波



植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間で。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

インジケーター



 施錠ボタン

 解錠ボタン

■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

※車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠はできません。

※キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
キーレスエントリーで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

❏ 室内灯 P.121

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

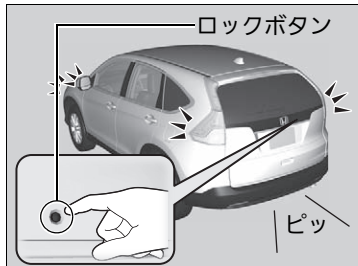
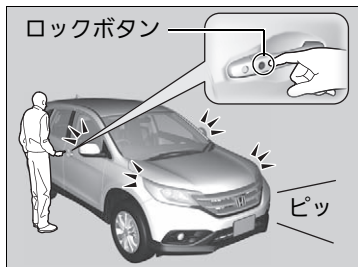
ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

❏ 電池交換のしかた P.201

■ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。

ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

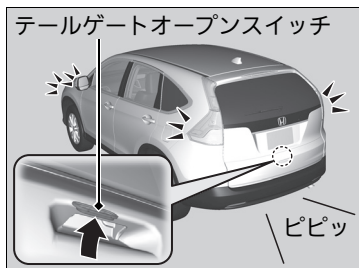
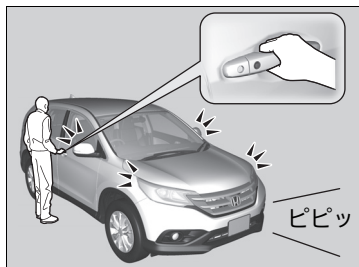
■施錠するには

運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートのロックボタンを押します。

- ▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り
非常点滅表示灯が1回点滅し、すべての
ドア、テールゲートが施錠されます。

☒Honda スマートキーでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかる、と、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。



■解錠するには

運転席、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

- ▶ 「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り、非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

▶▶ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠

ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

Honda スマートキーで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

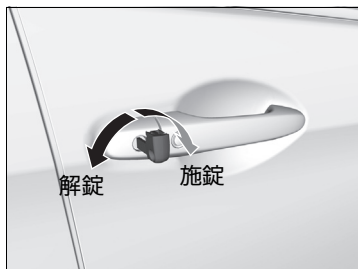
▶▶ マルチインフォメーションディスプレイ装備車

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

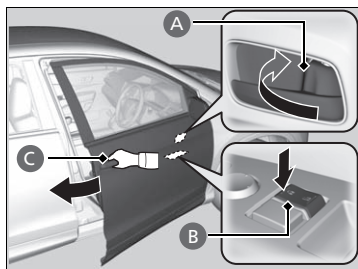
▶▶ カスタマイズ機能 P.70

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



キーを確実に差し込んで回します。
内蔵キーを取り出して操作してください。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ **A** を押し込むか、マスタードアロックスイッチ **B** を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル **C** を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

❖キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

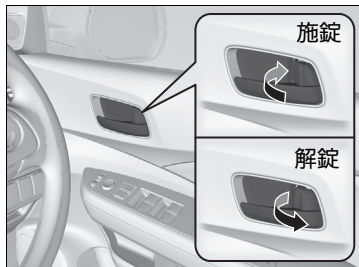
❖キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

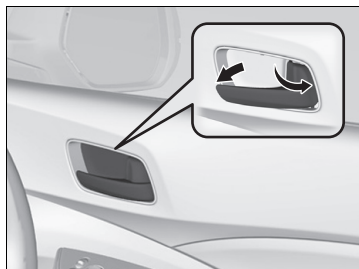
■ ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

※ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

❖ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドブルーフ

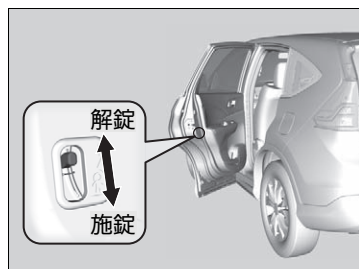
チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

❖ チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

■ チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
 - 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
 - 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき
- いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック(車速連動)

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、テールゲートが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック(セレクトレバー連動)

ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを **[P]** に入れると、すべてのドア、テールゲートが自動的に解錠される機能です。

※衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

※オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.70

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

マスタートドアロックスイッチを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

🔧 オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ P.89

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ

オートドアロックとオートドアアンロックの設定を、カスタマイズ(設定変更)することができます。カスタマイズ操作は、マスタードアロックスイッチで行います。

オートドアロック / オートドアアンロックの設定内容

オートドアロックとオートドアアンロックの設定内容は、下表のとおりです。

■オートドアロック

設定	車速連動 (工場出荷時設定)	セレクトレバー連動	オートドアロック OFF(無し)
設定 内容	車速が約 15km/h になると、自動的に施錠する設定です。	セレクトレバーを P 以外にすると、自動的に施錠する設定です。	自動的に施錠しない設定です。

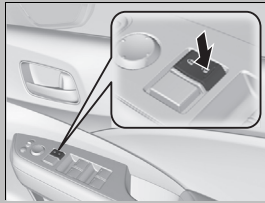
■オートドアアンロック

設定	セレクトレバー連動 (工場出荷時設定)	パワーモード連動	オートドアアンロック OFF(無し)
設定 内容	ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを P にすると、自動的に解錠する設定です。	パワーモードを ON モードからアクセサリモードまたは OFF モードにすると、自動的に解錠する設定です。	自動的に解錠しない設定です。

■ オートドアロックのカスタマイズ操作

操作手順	車速連動 (工場出荷時設定)	セレクトレバー連動	オートドアロック OFF (無し)
1. パーキングブレーキを	かける	かける	かける
2. 運転席ドアを	閉める	閉める	開ける
3. パワーモードを	ON モードにする	ON モードにする	ON モードにする
4. セレクトレバーを	P 以外にする	P にする	P にする
5. マスタードアロックスイッチの 	施錠側を約 5 秒以上押し続け、ロック作動音がしたら手を離す		
6. パワーモードを	OFF モードにする ▶ 設定が終了し、オートドアロックが設定した内容となります		

■ オートドアアンロックのカスタマイズ操作

操作手順	セレクトレバー連動 (工場出荷時設定)	パワーモード連動	オートドアアンロック OFF(無し)
1. パーキングブレーキを	かける	かける	かける
2. 運転席ドアを	閉める	閉める	開ける
3. パワーモードを	ON モードにする	ON モードにする	ON モードにする
4. セレクトレバーを	P にする	P 以外にする	P にする
5. マスタードアロックスイッチの	解錠側を約 5 秒以上押し続け、ロック作動音がしたら手を離す		
			
6. パワーモードを	OFF モードにする ▶ 設定が終了し、オートドアアンロックが設定した内容となります		

テールゲートの開閉

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

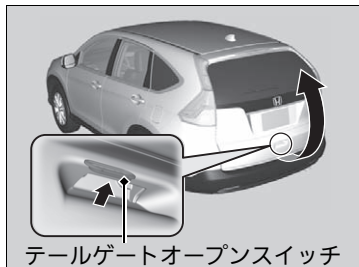
■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■テールゲートを閉めるとき

- Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

テールゲートを開ける



解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

※テールゲート開閉時の注意



テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

※テールゲートを開ける

施錠されているときにHondaスマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

※ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠 P.83

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。**ENGINE START/STOP** を押すときは、下記の点に注意してください。

- **ENGINE START/STOP** スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーまたは内蔵キーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

❖イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
エンジンシステムが故障するおそれがあります。

❖セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、最大5分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードを OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーまたは内蔵キーで車外からすべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にはバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーまたは内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

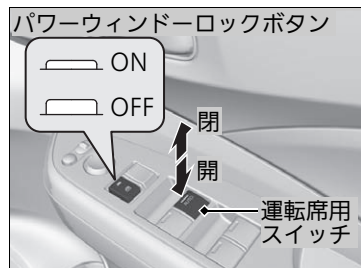
パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのパワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のパワーウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、スイッチにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のパワーウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンをONにしておいてください。

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

❏パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■ 自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



開けるとき：スイッチを押す

閉めるとき：スイッチを引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ パワーウィンドーの開閉

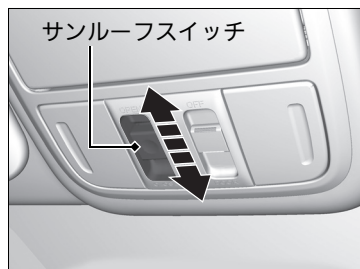
後席(左、右)のウィンドーは全開しません。

サンルーフ*の開閉

開閉

パワーモードが ON モードのときに、サンルーフの開閉操作を行うことができます。

開閉は前席の天井にあるスイッチで行います。



■手動開閉

開けるとき：スイッチを後ろ側へ軽く引く

閉めるとき：スイッチを前側へ軽く押す

希望の位置で手を離すことで、サンルーフの開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを後ろ側へ強く引く

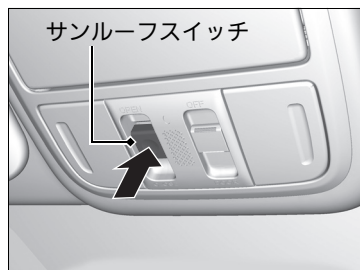
閉めるとき：スイッチを前側へ強く押す

自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを軽く操作します。

■チルトアップ

開けるとき：スイッチを上へ押す

閉めるとき：スイッチを前側へ強く押すと自動で全閉
スイッチを前側へ軽く押したときは離れた位置で停止



☒サンルーフの開閉

⚠警告

サンルーフを開閉するときは、手や顔などはさまないよう注意する。

サンルーフにはさまれて、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気を付けてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。

確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

走行中や停車中にルーフ開口部から頭や手、ものなどを出さない。

障害物や急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間はキーオフオペレーションによりサンルーフを開閉できます。

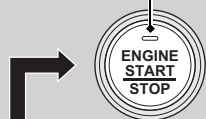
この場合、運転席のドアを開閉すると、サンルーフの開閉はできなくなります。

サンルーフを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりサンルーフの動きが逆転し止まります。

ENGINE START/STOP スイッチ

■ パワーモードの切り換えかた

インジケーター



OFF モード

- インジケーター消灯
- ハンドルがロックされ、全ての電源が OFF になります



アクセサリーモード

- インジケーター点灯
- インジケーター点滅 (ON モードからアクセサリーモードにしたとき)
- エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置



ON モード

- インジケーター点灯
- すべてのアクセサリーが使用可能

(ブレーキペダルを踏んでいない状態)



スイッチを押す



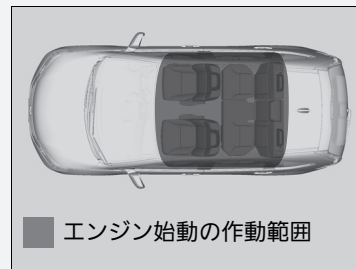
セレクトレバーが **P** 以外のときに、スイッチを押す



セレクトレバーが **P** のときに、スイッチを押す

■ ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合エンジンを始動できます。エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



■ エンジン始動の作動範囲

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

ON モード：

エンジンが始動しているときは、インジケーターが消灯します。

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF からアクセサリーに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。ハンドルロックが解除されます。

■ パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが **P** でパワーモードがアクセサリモードのときに30分～60分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠ができなくなります。

ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

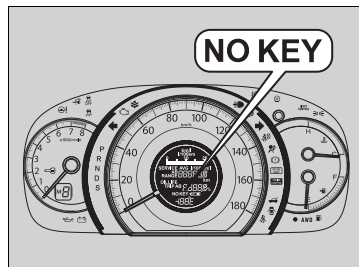
- パワーモードがアクセサリモードのとき

▶ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーの電池が切れたときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」が表示されます。

▶ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.218

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー（ピーッピーッピーッピーッ）と車外警告ブザー（ピピピピピピ）の2種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

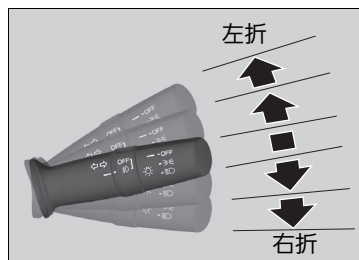
■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

方向指示器（ウィンカースイッチ）



パワーモードが ON モードのときに使用できません。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

■Honda スマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

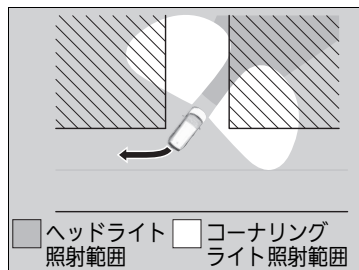
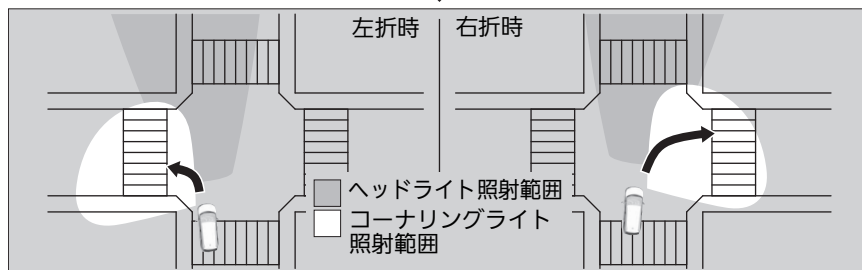
Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

アクティブコーナリングライト

パワーモードがONモードで、車速が35 km/h以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、セレクトレバーを[R]にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時にコーナーでの視認性を向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯



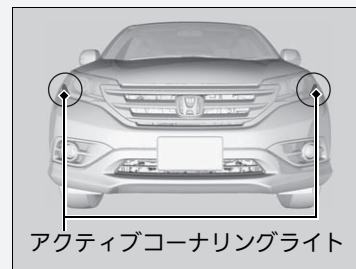
■セレクトレバー操作による点灯

ヘッドライトが点灯しているときにセレクトレバーを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

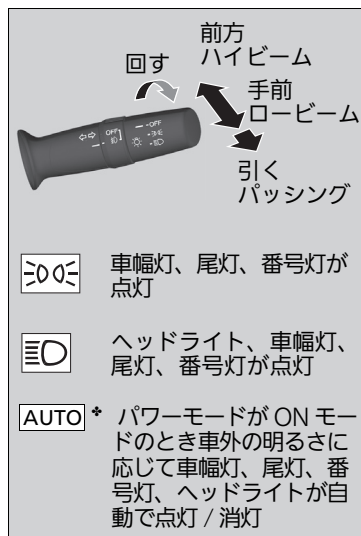
※アクティブコーナリングライト

アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。

消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、セレクトレバーを[R]に入れると点灯します。



ライトスイッチ



スイッチを回すとパワーモードの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押しします。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

☒ ライトスイッチ

ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ 表示灯 P.59

ディスチャージヘッドライトの電球は、点灯、消灯を繰り返すと電球の寿命が短くなる特性があります。

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

ライトスイッチを **AUTO** * にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フォグライトスイッチ



ライトスイッチが OFF 以外のとき(ライトスイッチを **AUTO** にしているときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

※フォグライトスイッチ

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

■表示灯 P.59

ワイパー / ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ フロントワイパー / ウォッシャー



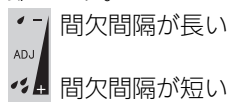
■ MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ ワイパースイッチ(OFF、INT、LO、HI)

■ 間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



■ ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※ ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。
間欠時間を短いほうにいっぱいになっている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

リヤワイパー/ ウォッシャー



リヤワイパースイッチ

ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

ワイパー/ ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

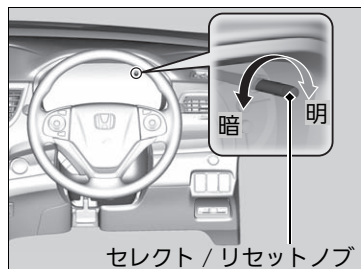
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを **[R]** に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速)	連続作動
HI(高速)	

イルミネーションコントロール



セレクト / リセットノブ

パワーモードがONモードで、ライトスイッチが **OFF** 以外のとき(ライトスイッチを **AUTO** にしているときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき)、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

明るさが最大/最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

 が右に増えていくほど、メーター照明が明るくなります。

※イルミネーションコントロール

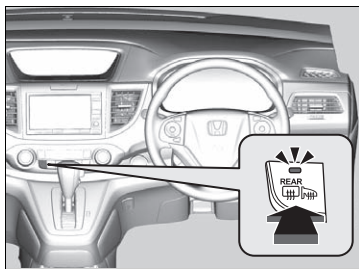
車幅灯が点灯しているときと消灯しているときでは、メーター照明の明るさは異なります。

ライトスイッチを  または  にすると、まぶしさを軽減するためにメーター照明が暗くなります。

- 明るさ調節中にセレクト / リセットノブを押すと、ディスプレイは元の表示になります。
- 車幅灯点灯時に  がすべて表示されるまでセレクト / リセットノブを右に回すと、「ピッ」という音がして車幅灯消灯時の設定になります。



リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードがONモードのときに、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとりたいときに使用します。

スイッチを押すとシステムがONになります。

外気温に応じて約10～30分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が0℃以下のときは自動的に停止しません。

❑ リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラースイッチ

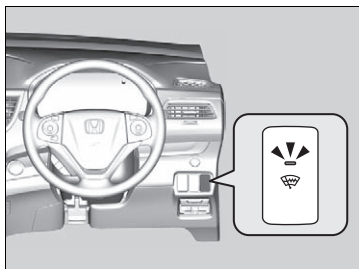
リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。

必ず、デフロスターの電熱線、アンテナ線*に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいため、曇りが取れたらOFFにしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ



パワーモードがONモードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線がONになります。

約15分経過後、自動的に停止します。

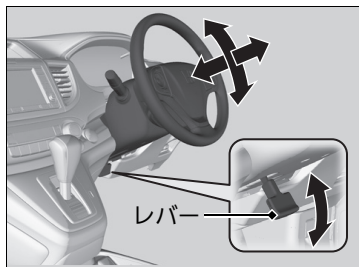
❑ フロントガラス熱線スイッチ

この装置は消費電力が大きいため、長時間使わないでください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバースの下にあります。
2. ハンドルの高さを調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

▶▶ ハンドルの調節

⚠ 注意

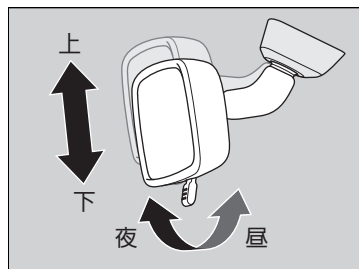
走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ミラー類の調節

ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

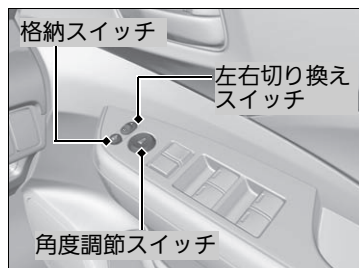
■防眩式ルームミラー

ルームミラーは夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

❖ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

ドアミラー



パワーモードがONモードのときに、ドアミラーの操作を行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

■アクアクリンミラー

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

▶▶ アクアクリンミラー

アドバイス

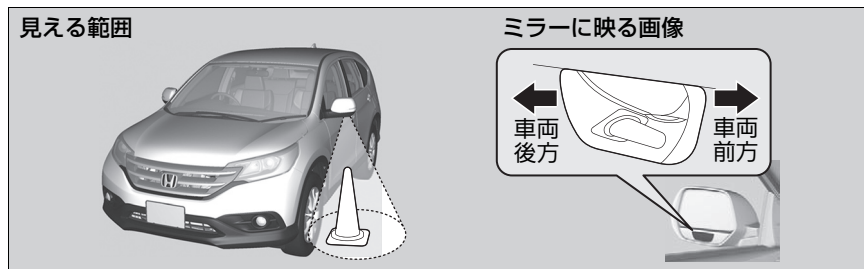
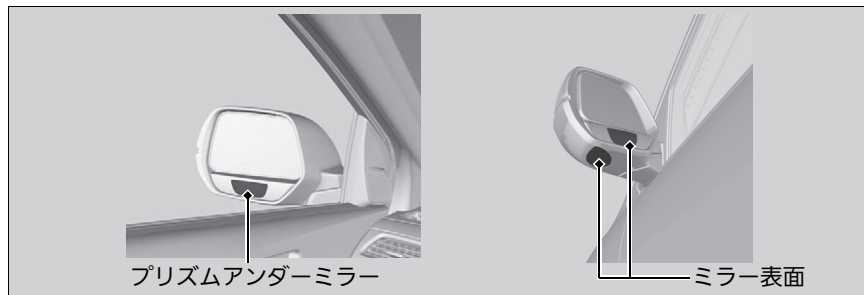
ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

プリズムアンダーミラー

助手席側ドアミラーの下部に付いています。

停車時や発進時に車両左側助手席付近を確認するときに役立ちます。



❏ プリズムアンダーミラー

ミラー表面の傷付きや曇りによる視界の妨げを防止するために次のことをお守りください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- ミラー表面が凍結しているときは解凍剤やプラスチックの板を使用せずに、温水や水道水を使って溶かす
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

車両後方の確認は直接目視で確認するか、ルームミラー、ドアミラーなどで十分に行ってください。

プリズムアンダーミラーの角度調節はできません。

汚れや水滴を拭き取るときはきれいな布で拭き取ってください。

水洗いでミラーの汚れが落ちない場合や、誤ってワックスなどを塗布してしまった場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ってください。

シートの調節

フロントシート

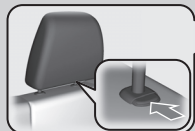
運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントマニュアルシート*/ヘッドレストの動かし方

■ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる



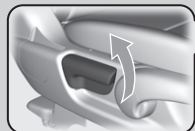
■高さの調節

レバーを繰り返し引き上げ / 下げし、高さを調節



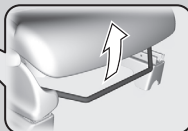
■背もたれの角度調節

レバーを引き上げながら調節



■前後位置の調節

レバーを引き上げながら、前後位置を調節



■フロントシート

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

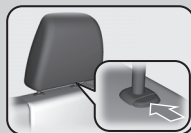
フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

■フロントパワーシート*/ヘッドレストの動かし方

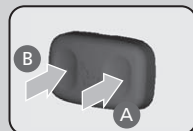
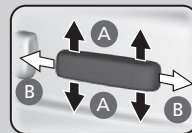
■ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる



- A** ■高さの調節
スイッチを上下に動かして高さを調節

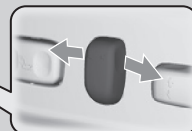
- B** ■前後位置の調節
スイッチを前後に動かして前後位置を調節



■ランバーサポート

スイッチを押して背もたれ腰部の硬さを調節

- A** 硬くなる
B 柔らかくなる



■背もたれ角度調節

スイッチを前後に動かして調節

※フロントシート

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

■フロントシートの調節

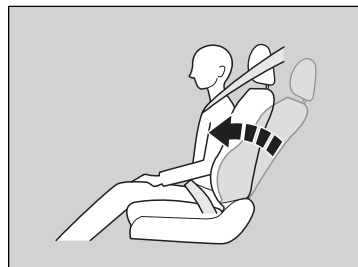


■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

※フロントシートの調節

⚠ 警告

SRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

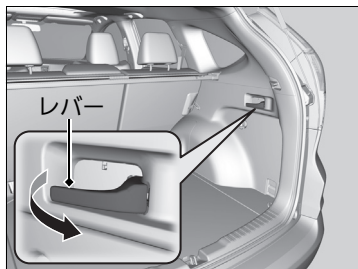
⚠ 注意

背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■ 収納のしかた



リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

■ 倒しかた

1. リヤシート(中央)のシートベルトを分離する。
▶ タングプレートを▲マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。
2. 天井の固定部にシートベルトのラッチプレートを収納する。
■ 分離収納式シートベルト P.25
3. リヤシート(中央)のヘッドレストを下げ、アームレストを元に戻す。

■ リヤドア側から

4. ストラップを引く。

■ カーゴルーム側から

4. レバーを引く。

■ リヤシート

⚠ 注意

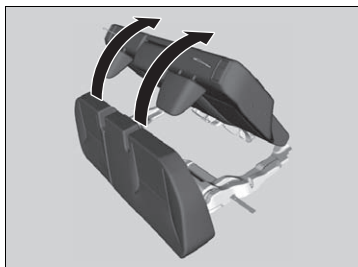
エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。

両側もしくは片側のみを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。



背もたれの調節



■元に戻すとき

1. 背もたれを起こして固定する。
2. 座面を起こして固定する。
3. ヘッドレストを引き上げる。

※元に戻すとき

シートを戻すときは一度座面を完全に倒した状態から操作してください。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

※背もたれの調節

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

ヘッドレスト

■ フロントシートヘッドレストの調節

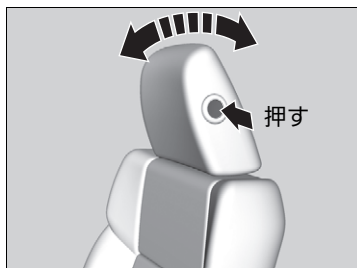


後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ ヘッドレストの傾き調節



フロントシートのヘッドレストは、姿勢に合わせ傾きを調節してください。

前方へ調節するとき：ヘッドレストを後ろから前へ押します。

後方へ調節するとき：解除ボタンを押しながらヘッドレストを前から後ろへ押します。

⚠ ヘッドレスト



警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

リヤシート(中央)のヘッドレストを下げた状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

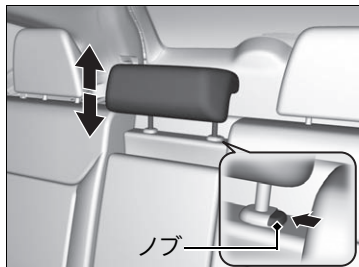
⚠ ヘッドレストの傾き調節



注意

調節後は、ヘッドレストが確実に固定されているか確認する。

■リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更

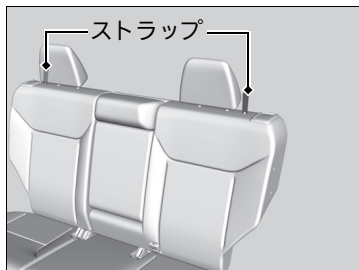


乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■リヤシート(左右)ヘッドレストの使いかた



使用するときは走行する前に必ずヘッドレストを固定されるまで起こしてください。

起こすとき：ヘッドレストを引き上げます。

倒すとき：ストラップを引きます。

■ フロントシートヘッドレスト、リヤシート(中央)ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

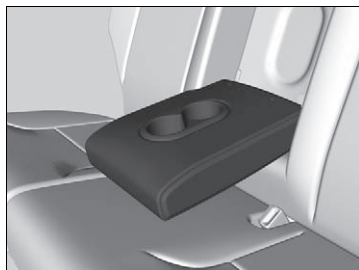
アームレスト

■ フロントシートアームレストの操作



前に倒して使います。

■ リヤシートアームレストの操作



前に倒して使います。

※アームレスト

⚠ 注意

シートベルト着用時にアームレストに引っ掛けない。

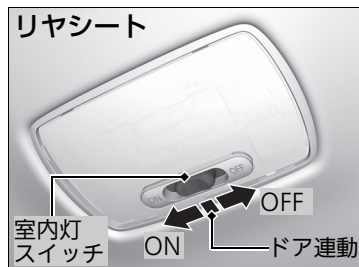
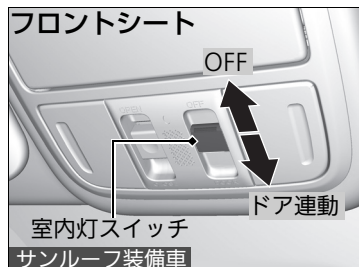
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。

アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

※室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

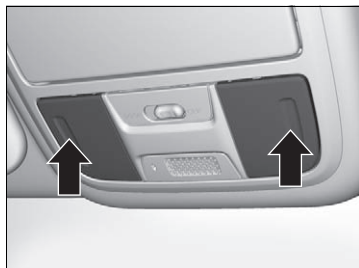
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 3 分後に消灯します。

■マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

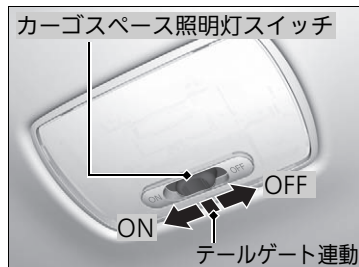
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

※マップランプ

以下のときレンズを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチがドア連動でドアが開いているとき

■カーゴスペース照明灯



■ON

テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■テールゲート連動

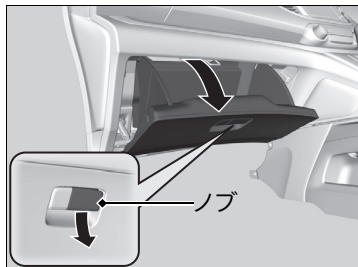
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF

テールゲートの開閉に関係なく消灯。

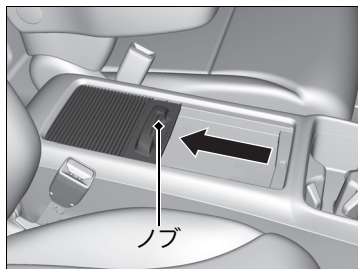
室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

■スライドシャッター付コンソールボックス



ノブを押してシャッターを開けて使います。

※グローブボックス

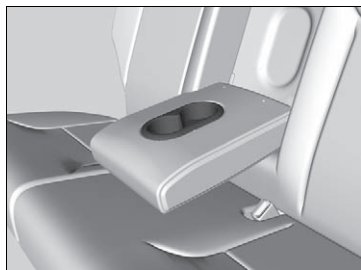
⚠ 警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー



■リヤシート用ドリンクホルダー

アームレストを前に倒して使います。

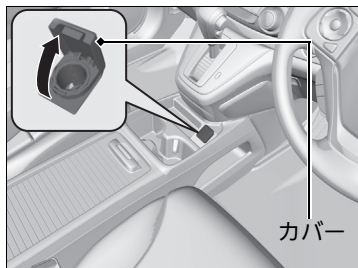
☒ドリンクホルダー

⚠ 注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに使用できます。

カバーを開けて使います。

※ アクセサリーソケット

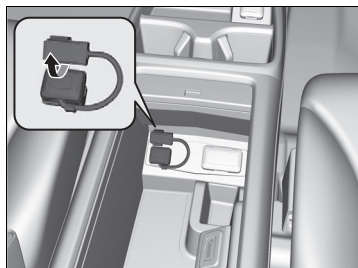
消費電力 180W (15A) 以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

■ USB 端子*

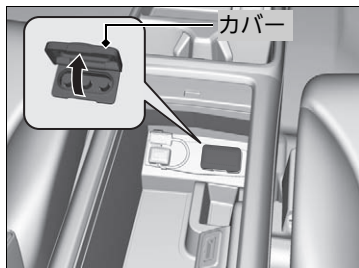


コンソールボックスの中にあります。

※ USB 端子

詳しい操作については、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

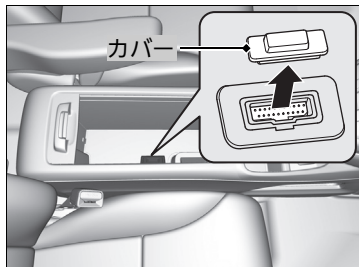
■ AV 入力端子*



コンソールボックスの中にあります。

使用するときはカバーを開けて、入力端子にビデオ機器などの端子を差し込みます。

■ 携帯電話接続端子*



コンソールボックスの中にあります。

カバーを外して使います。

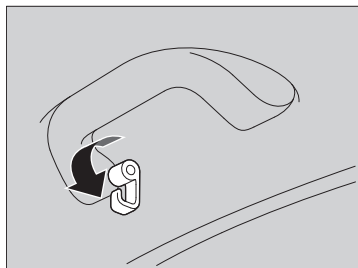
▶▶ AV 入力端子

詳しい操作については、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

▶▶ 携帯電話接続端子

詳しい操作については、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

■ コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

※ コートフック

⚠ 注意

グラブレールにもものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

■ コンビニフック



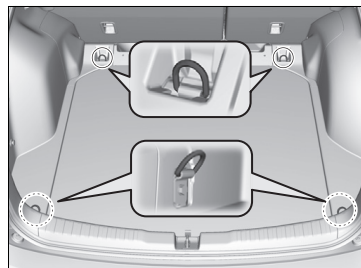
軽い荷物をかけておくのに便利です。

※ コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

■カーゴフック



荷物を固定するときに使います。

▣カーゴフック

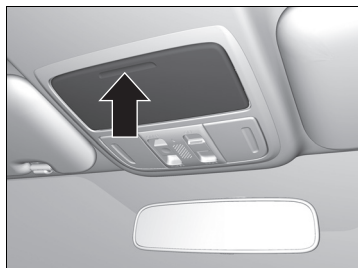


注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。



■ 室内確認用ミラー*

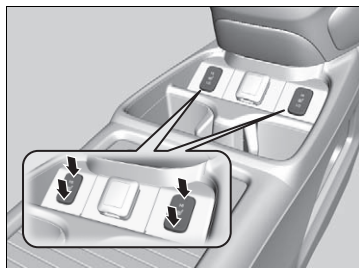
サングラスボックスに鏡が付いています。
使用するときは図の位置まで戻します。
リヤシートを確認するのに便利です。

☒ サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れを起こすことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■シートヒーター*



パワーモードがONモードのとき使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

スイッチを **HI** 側か **LO** 側に押します。シートを早く暖めたいときは **HI** 側を押します。暖まったら **LO** 側にしてください。作動中、押している側の表示灯が点灯します。スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

※シートヒーター

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

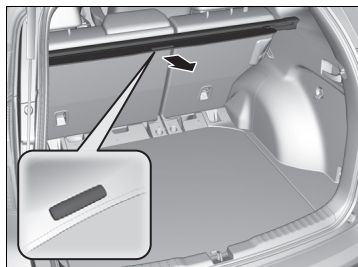
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱い人
- 疲労の激しい人

また、毛布など保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、エンジンが停止しているときは長時間使わないでください。

バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

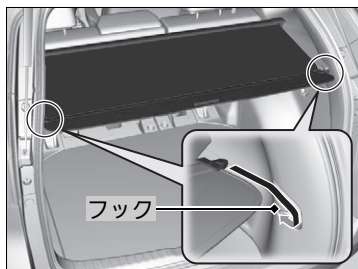
トノカバー



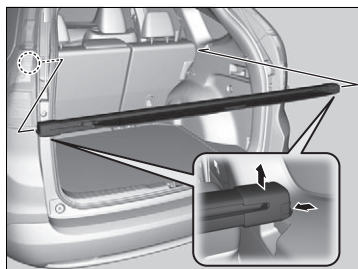
トノカバーを引き出すと、カーゴスペースを覆うことができます。

■トノカバーを引き出す

カバーの中央を持ち、両端をフックにかけます。



収納するときはフックから外し、静かに元に戻します。



■トノカバーケースを取り外す

トノカバーケースの片側の端を内側にスライドさせながら持ち上げて取り外します。

トノカバー

⚠ 注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

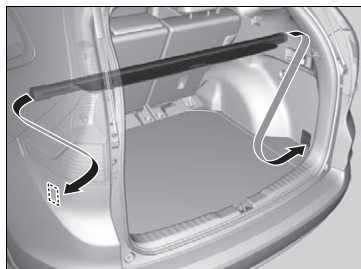
急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

カーゴスペースに荷物を置くときは、リヤシートの背もたれの高さを越えないようにしてください。

後方視界を妨げるばかりでなく、急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

トノカバーの損傷を防ぐため、以下のことをお守りください。

- トノカバーの上にものを置かない
- トノカバー本体に強い力をかけない



■トノカバーケースを収納する

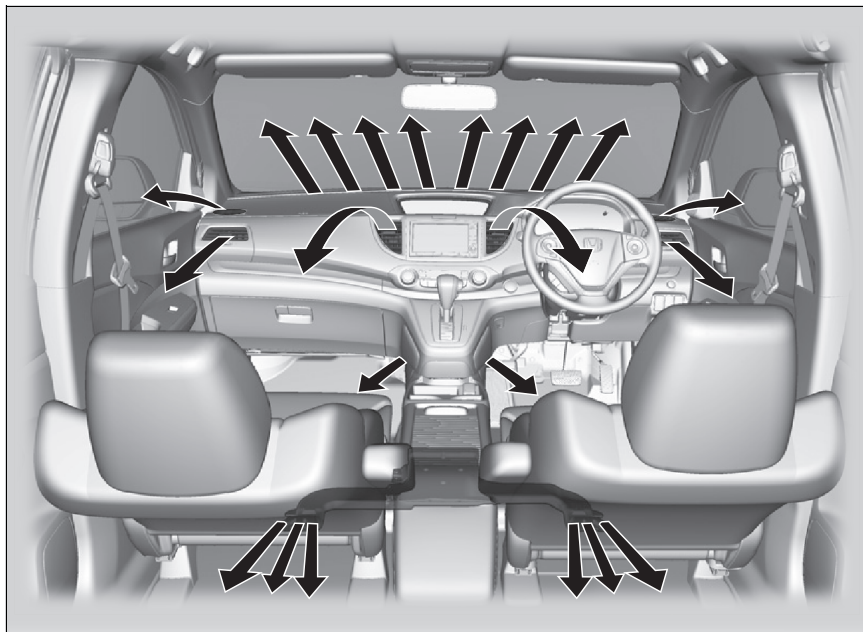
ケースをカーゴスペースの床面に収納することができます。

元に戻すときはトノカバーケースの両端を片方ずつ内側にスライドさせながら取り付けます。

取り付け後は上下にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

エアコン

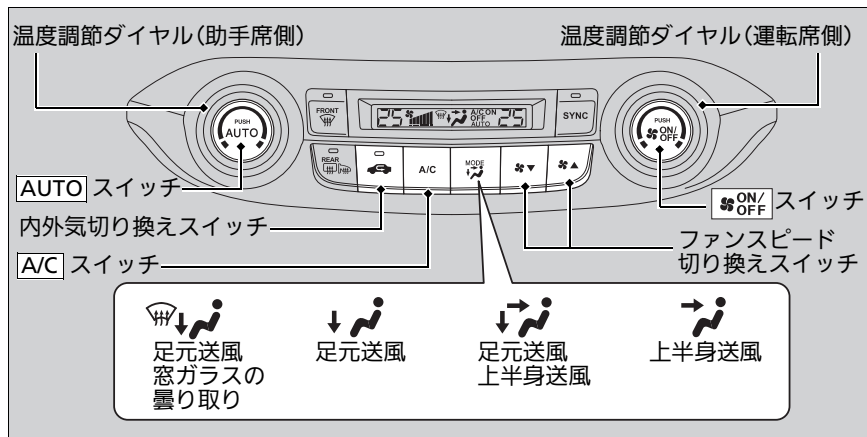
エアコンの吹き出し口



❏ エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 運転席側の温度調節スイッチで温度を調節する。
3. 停止するとき、**ON/OFF** を押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に **A/C** を押すと、除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき「AUTO」の表示は消えますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

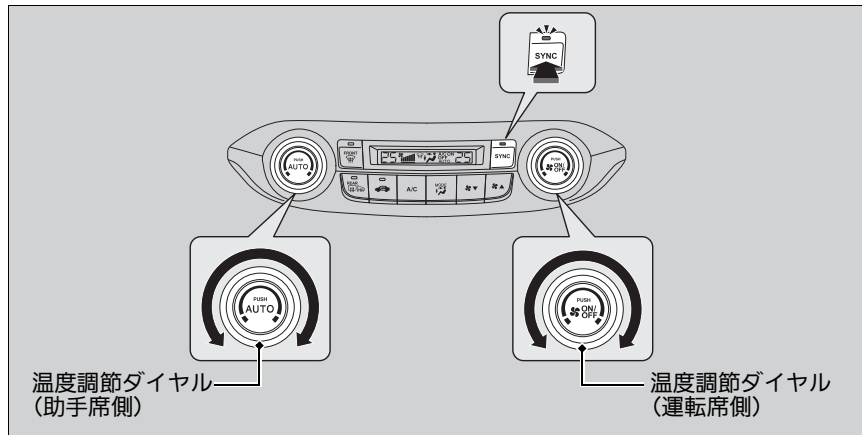
外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO** を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFF を押すたびにON やOFF に切り換わりません。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

連動作動(シンクロ)モード



エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切り換えます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. **SYNC** を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節ダイヤルを回して温度を調節する。

独立モードに戻すときは、**SYNC** または助手席側の温度調節ダイヤルを回します。

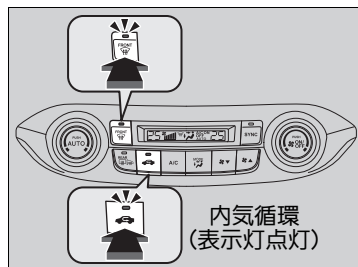
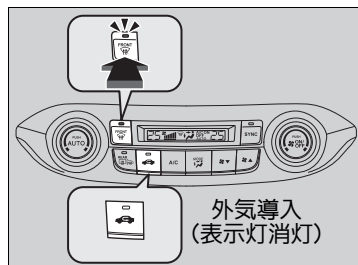
連動作動(シンクロ)モード

FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



 を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

 をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

■ 急速に霜を取りたいとき：

1.  を押す。
2.  を押す。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。

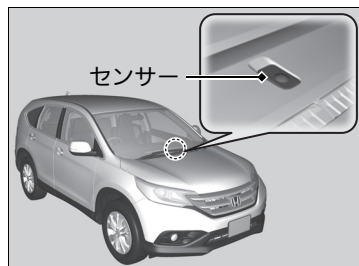
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

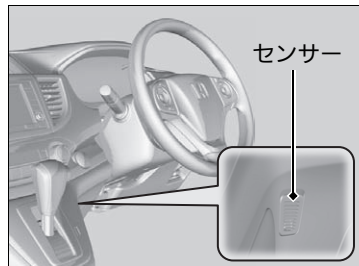
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



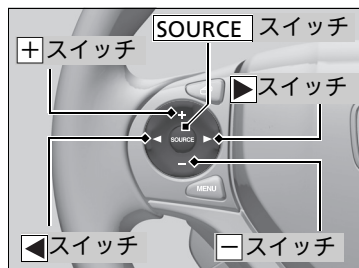
オーディオ

オーディオ装置	139
オーディオリモートコントロールスイッチ* ..	140

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オーディオリモートコントロールスイッチ*

運転中にオーディオの操作をするためのスイッチです。



SOURCE スイッチ

スイッチを押すたびに、FM1 → FM2 → AM → CD/DVD → HDD → USB → TV1 → TV2 → AUX (ビデオ) → FM1 の順に切り換わります。

+ / − (音量) スイッチ

+を押す：音量が大きくなります。

−を押す：音量が小さくなります。

◀ / ▶ スイッチ

・ラジオを聞いているとき、テレビを見ているとき

▶を押す：プリセットされている次の放送局を選局します。

◀を押す：プリセットされている前の放送局を選局します。

◀、▶を長く押す：自動選局になり放送局を受信すると止まります。

・CD、USB メモリー、HDD (サウンドコンテナ) を聞いているとき

▶を押す：スキップ (次の曲の頭出し) します。

◀を押す：リプレイ (再生中や前の曲の頭出し) します。

・DVD を見ているとき

▶を押す：スキップ (次のチャプターの頭出し) します。

◀を押す：リプレイ (再生中や前のチャプターの頭出し) します。

※オーディオリモートコントロールスイッチ

ディスクが挿入されている場合、CD/DVD に切り換わります。

USB メモリーが接続されている場合、USB モードに切り換わります。

HDD (サウンドコンテナ)、DVD の詳細については、「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

運転の前に142

運転操作

エンジンの始動144

走行時の注意点147

オートマチックについて149

シフト操作..... 150,152

ECON スイッチ.....156

クルーズコントロール.....157

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 160

REAL TIME AWD(オールホイールドラ
イピング)システム*161

ブレーキ操作

ブレーキシステム 162

ABS(アンチロックブレーキシステム) ..164

電子制御ブレーキアシスト 165

駐停車操作 166

リヤカメラシステム* 168

表示変更・調整の方法..... 169

カメラ画像について 171

給油

指定燃料について 172

給油のしかた 172

アクセサリーと改造 175

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
❏ **タイヤの点検と整備** P.196
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周囲に障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

❏ 車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❏ 車内での確認項目

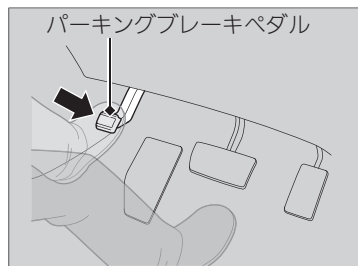
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

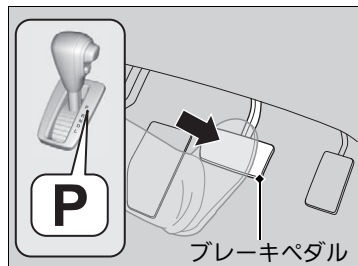
車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - ❏ シートの調節 P.112
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ❏ ミラー類の調節 P.109
 - ❏ ハンドルの調節 P.108
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - ❏ シートベルトの着用 P.23
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
 - ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.86
- エンジンが始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - ❏ 警告灯 P.54

エンジンの始動

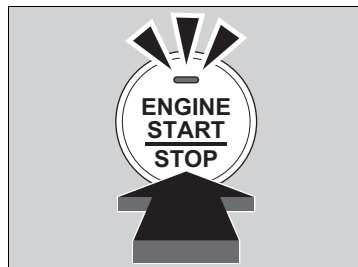


1. パーキングブレーキをかける。



2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

▶ **N** でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。



3. アクセルペダルを踏まずに、**ENGINE START/STOP** を押す。

エンジンの始動

警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

バッテリーが破裂するおそれがあります。

注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

- エンジンがかからない場合は、10秒以上待ってから再始動してください。

■ エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. セレクトレバーを **P** にする。
2. **ENGINE START/STOP** を押す。

❏ エンジンの始動

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

❏ イモビライザーシステム P.93

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **ENGINE START/STOP** に触れてください。

❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.218

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを **[D]** にする。
▶ 後退する場合は **[R]** にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
 🔍 **パーキングブレーキ** P.162
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

🔍 発進時の操作



注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

🔍 ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを N にしないでください。

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

☒その他の注意点



注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

オートマチックについて

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■ キックダウン

セレクトレバーが **D** **S** **L** で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

※ クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。

エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

※ キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がリ、速度が出すぎてしまうことがあります。

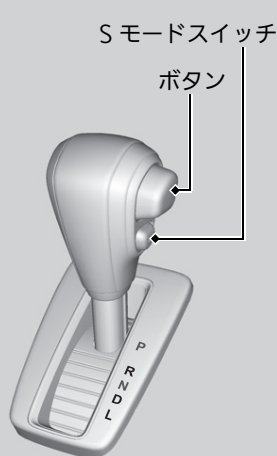
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

CVT 車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



- | | |
|----------|---|
| P | パーキング
駐車またはエンジンの始動 |
| R | リバース
車を後退 |
| N | ニュートラル
アイドリング状態 |
| D | ドライブ
通常走行 |
| L | ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき |
| S | S モード
D のときに S モードスイッチを押す
• 高回転領域を有効に使用
• 上り坂や下り坂を走行するとき |

※シフト操作

セレクトレバーが **P** 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

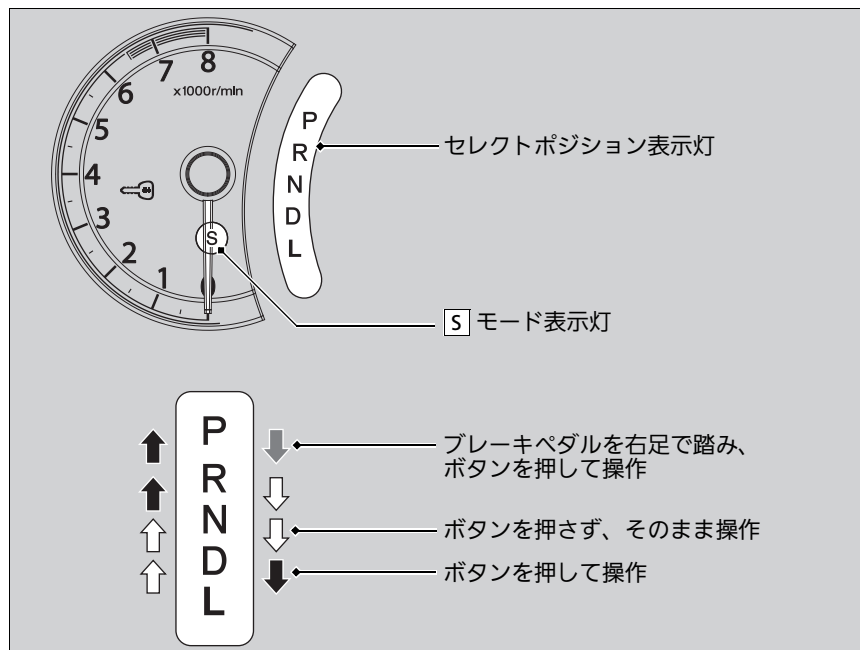
N のポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。

ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。

パワーモードを ON モードにすると、**[D]** が数秒点灯します。



※セレクトレバーの操作

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーをどのポジションにしても**[D]**の表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

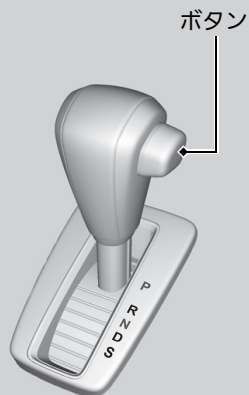
先にブレーキペダルを踏んでください。

シフト操作

AT 車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



- P** パーキング
駐車またはエンジンの始動
- R** リバース
車を後退
- N** ニュートラル
アイドリング状態
- D** ドライブ
• 通常走行 (1 速～5 速まで自動変速)
• 一時的にシークエンシャルモードにするとき
- S** ドライブ(S)
• 1 速～4 速の間で自動変速
(4 速は過回転時のみ)
• シークエンシャルモードにするとき

※シフト操作

セレクトレバーが **P** 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

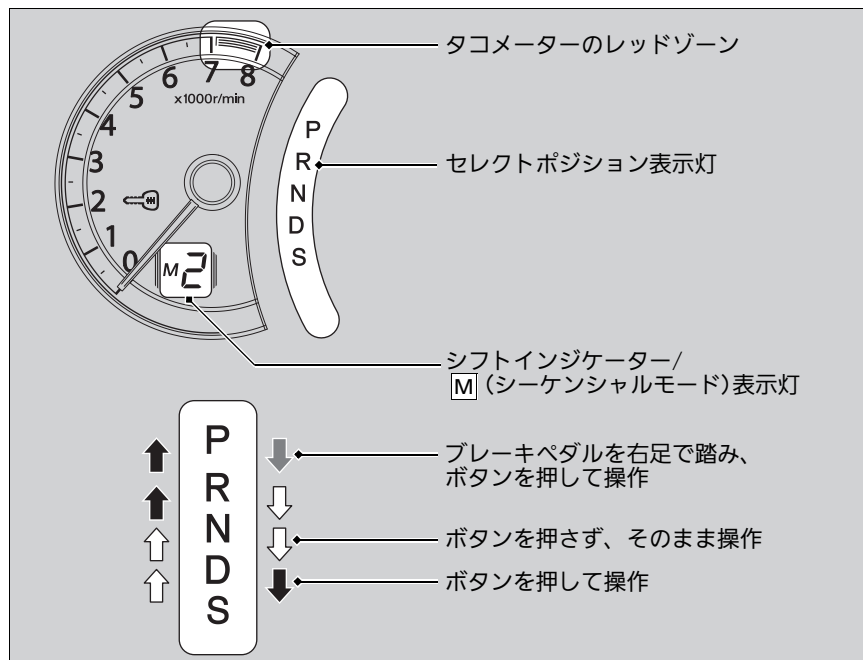
N のポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。

ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。

パワーモードを ON モードにすると、**[D]** の表示灯が数秒点灯します。



■セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーをどのポジションにしても**[D]** の表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じるがありますが、異常ではありません。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

■シーケンシャルモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手で 1 ～ 5 速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、シーケンシャルモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■セレクトポジションが **[D]** のとき

一時的にシーケンシャルモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。定速走行の状態になると、シーケンシャルモードは自動的に解除され、シフトインジケーターが消灯します。また、**[+]** のシフトスイッチ (右側) を数秒間引き続けることで解除することができます。カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■セレクトポジションが **[S]** のとき

シーケンシャルモードとなり、**[M]** 表示灯とシフトインジケーターが点灯します。10km/h 以下になると、自動的に 1 速にシフトダウンします。車速が上がっても自動的にシフトアップはしません。

発進は 1 速または 2 速でのみ行うことができます。

モードを解除する場合は、セレクトレバーを **[S]** から **[D]** に動かしてください。シーケンシャルモードが解除され、**[M]** 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

■2 速固定モード

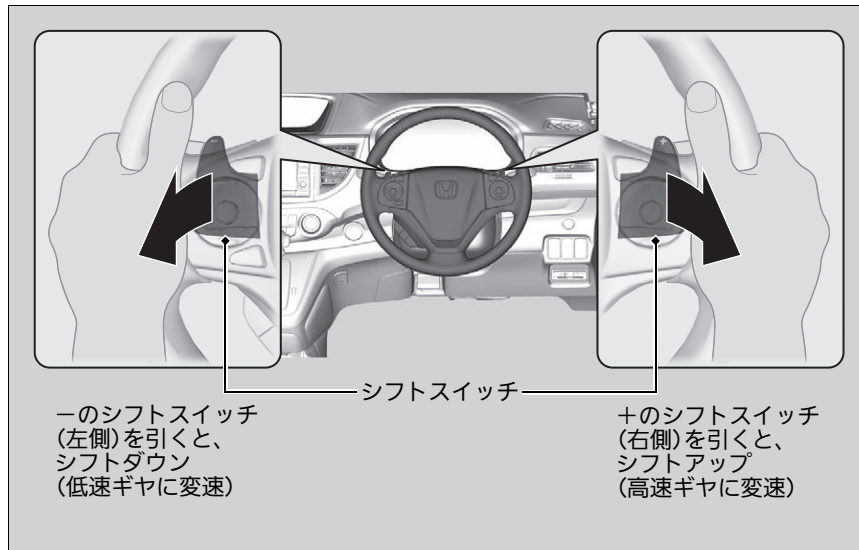
セレクトポジションが **[S]** で停止または 10km/h 以下のときに、**[+]** 側のシフトスイッチを引くと 2 速固定モードになり 2 速に固定されます。雪道などの滑りやすい路面で発進しやすくなります。

2 速固定モードを解除する場合は、**[-]** 側のシフトスイッチを引くか、セレクトレバーを **[S]** から **[D]** に動かしてください。

■シーケンシャルモードとは

セレクトポジションが **[D]** のときで車速が各ギアの許容範囲外の場合は、一定時間シフトインジケーターが点灯し、その後消灯します。その場合は、シーケンシャルモードへは切り換わりません。

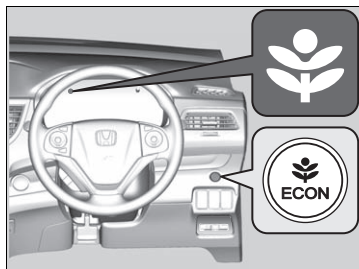
■シーケンシャルモードの操作



■シーケンシャルモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、車速が各ギアの許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。セレクトポジションが **[S]** のときでシフトアップ操作後に車速が各ギアの許容範囲外になる場合は、変速せず点滅もしません。

ECON スイッチ



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、エアコンの作動を制御して、省燃費運転をしやすいように制御します。

パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、ECON モードが ON になりメーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

▶▶ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

クルーズコントロール

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。

こんなときに

■使用できるシフトポジション

D または **S**

■使用できる車速

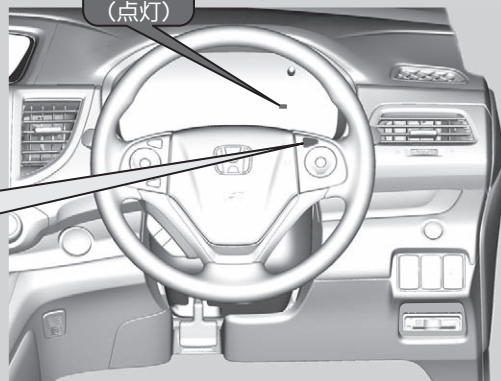
約 30 ~ 100km/h の範囲の希望値

十分な車間距離がある



操作

■ハンドルの **CRUISE** スイッチを押す



メーターの **CRUISE MAIN** が点灯
クルーズコントロールが ON になります。

クルーズコントロール



下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

● **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**

道路状況に合った速度で走行できません。

● **急な下り坂のある道路**

エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

● **凍結や積雪などで滑りやすい道路**

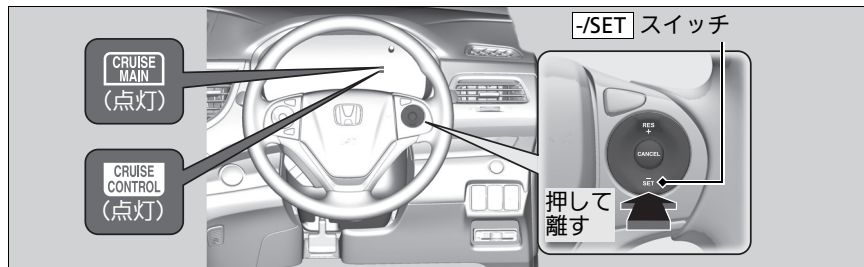
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

車速をセットするには

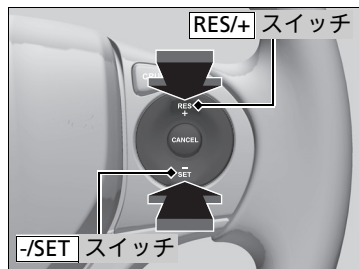


希望の車速になったらペダルから足を離し、**[-/SET]**を押します。

[-/SET]を離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、**CRUISE CONTROL**表示灯が点灯します。

車速を調節するには

手元の**[RES/+]**と**[-/SET]**の操作で車速を上げ/下げすることができます。



[RES/+] スイッチ

- 1回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

[-/SET] スイッチ

- 1回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

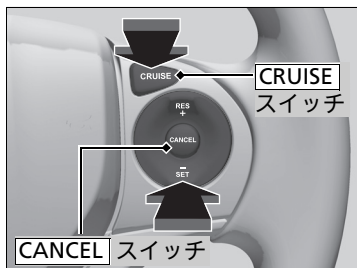
⌘ 車速をセットするには

自動定速走行をしないとき

安全のため**[CRUISE]**を押してOFFにしてください。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにすると、**[CRUISE]**は自動的に OFF になります。

解除するには



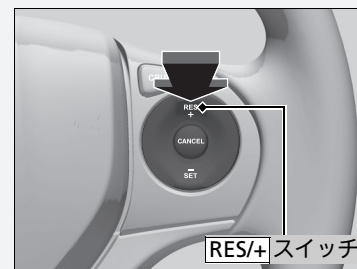
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む
- セレクトレバーを **N** にする

❏ 解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+** を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 25km/h 未満になったとき
- **CRUISE** で OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると、自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ■ P.164

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

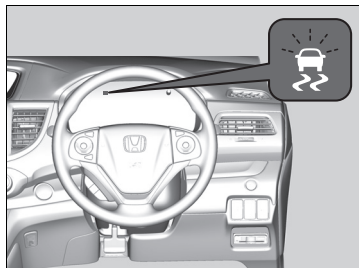
■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

▶ 電子制御ブレーキアシスト P.165

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

▶▶VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、 で VSA を OFF にするとエンジントルク抑制機能が停止し、駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

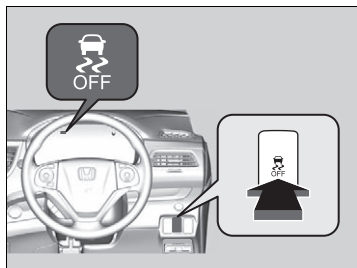
この際、TCS 機能と横滑り抑制機能が OFF になるため、走行には十分に気をつけてください。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA の ON と OFF



VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。VSA が停止状態になり VSA OFF 警告灯が点灯します。再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム*

AWD(オールホイールドライビング)システムは、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- ・アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- ・砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- ・渡河などの水中走行はしない
- ・ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

※VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム

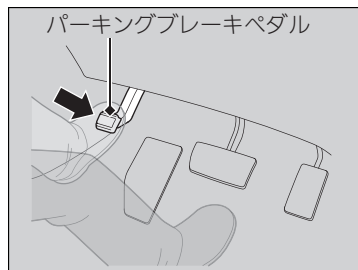
種類やサイズの異なるタイヤが混在している
と、AWD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

AWDの状態で行走中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のためAWDから2WDに切り換わることがあります。
しばらくして油温が下がると、AWD に復帰します。

ブレーキシステム

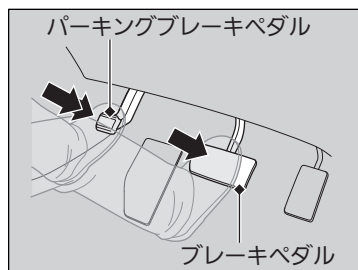
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっばいに踏み込む。



■ パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

※ パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、「パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー」が鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。

停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

❏ 電子制御ブレーキアシスト P.165

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.164

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)ではABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

▶▶ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在している
と、ABSが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABSは、制動距離を短くするためのものではありません。

ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABSの装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

🔍 VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.160

駐車する

1. セレクトレバーは **[D]** のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを **[P]** に入れる。
4. エンジンを停止する。
 - ▶ 仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

※駐停車操作

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

⚠ 注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **[P]** **[N]** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

▶▶ 駐停車操作 ▶ 駐車する

⚠ 注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに **[P]** に入れないでください。

トランスミッション故障の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。

雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

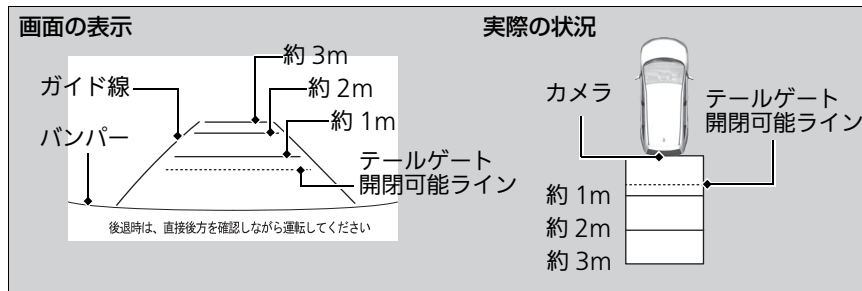
パーキングブレーキをかけずに、石など輪留めをしてください。

リヤカメラシステムについて

リヤカメラシステムは、ナビゲーションシステムの画面に、車両後方の映像を表示させるシステムです。

セレクトレバーを **[R]** に入れると自動的に画面が切り換わります。

画面に表示される映像の範囲



リヤカメラシステムのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

画面に表示される映像の範囲には限度があり、バンパーの両コーナー付近やバンパー下にあるものは表示されません。

リヤカメラシステムについて



注意

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転する。

画面を見るときは、必要最小限にする。

画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- リヤカメラシステムの映像は、ナビゲーション画面よりも優先して表示されます。
- エンジン始動直後は、セレクトレバーを **[R]** の位置に入れても、ナビゲーションシステムが起動するまでリヤカメラシステムのガイド線は表示されません。

表示変更・調整の方法

リヤカメラシステムは、以下の表示変更が行えます。

- ・ **ガイド表示**：画面に表示されるガイド線の表示、非表示の切り換え
- ・ **色調整**：画面の色合い、色の濃さの調整
- ・ **画面調整**：画面の明るさ、コントラスト、黒の濃さの調整
- ・ **画面消**：画面の表示を消す

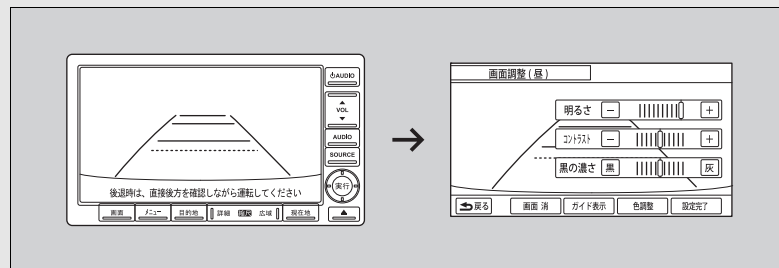
表示変更・調整の方法

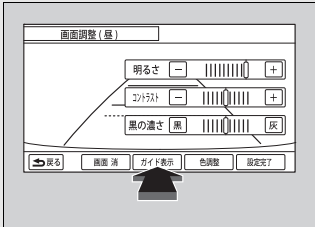
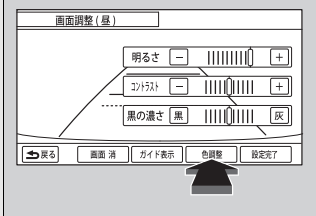
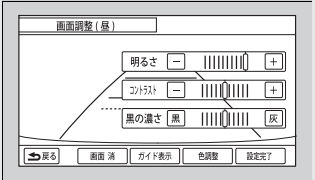
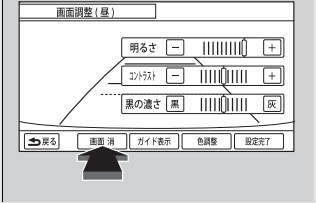
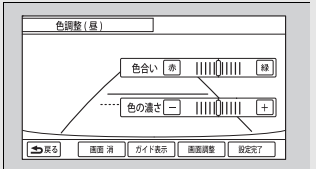
安全のため、エンジンを停止した状態で操作してください。

パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

操作手順

操作手順	ガイド表示	色調整	画面調整	画面消
1.	共通操作 エンジン停止を確認する。			
2.	共通操作 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。			
3.	共通操作 パワーモードを ON モードにする。			
4.	共通操作 セレクトレバーを [R] の位置に入れる。			
5.	共通操作 画面 を押す。 ▶「画面調整」の画面に切り換わります。			



操作 手順	ガイド表示	色調整	画面調整	画面消
6. 「ガイド表示」にタッチする。 ▶ ガイド表示の表示/非表示が切り換わります。		「色調整」にタッチする 	明るさ：「－」または「＋」にタッチする。 コントラスト：「－」または「＋」にタッチする。 黒の濃さ：「黒」または「灰」にタッチする。 	「画面消」にタッチする。 ▶ 画面の表示が消えます。 
7. 「設定完了」にタッチする。 ▶ 調整が完了し、元の画面に戻ります。	「設定完了」にタッチする。 ▶ 調整が完了し、元の画面に戻ります。	色合い：「赤」または「緑」にタッチする。 色の濃さ：「－」または「＋」にタッチする。 	「設定完了」にタッチする。 ▶ 調整が完了し、元の画面に戻ります。	—
8.	—	「設定完了」にタッチする。 ▶ 調整が完了し、元の画面に戻ります。	—	—

カメラ画像について

状態	考えられる原因	対処のしかた
カメラの画像が見えにくい	• 夜間や雨の日、および暗い場所 • カメラが高温になっている場合 • 太陽の光など強い光がカメラに直接差し込んでいる場合※1	気象条件などでカメラの画像が見にくいときは、目視やミラーで直接確認してください。
	• カメラのレンズに水滴や虫などが付いている場合 • カメラのレンズが汚れている場合	ぬれた柔らかい布などで汚れを拭き取ってください。

※1 : 強い光がカメラに差し込んでいるときに、光源の周囲が白くぼやけるハレーション現象や、光の筋ができるスミア現象が起きることがあります。

指定燃料について

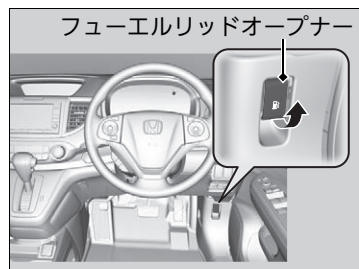
■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

58 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

※指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

※給油のしかた

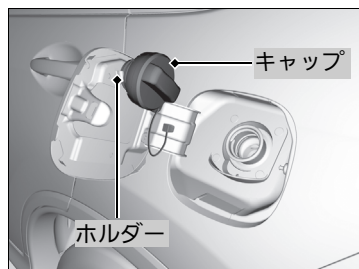
⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

5. キャップはホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。

▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた



注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。

装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に

点検整備について	177
メンテナンスを安全に行うために	178
メンテナンスに関する注意事項	178

エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目	179
ボンネットを開ける	181
推奨エンジンオイル	182
ウィンドウォッシャー液の補給	182

電球の交換

ワイパーブレードラバーの点検と整備

タイヤの点検と整備

タイヤの点検	196
タイヤのローテーション	198
冬期のタイヤ	199

Honda スマートキー

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換	200
------------------------------	-----

エアコンのお手入れ

エアクリンフィルター	202
------------------	-----

清掃

日常のお手入れ	204
車内の清掃	204
車外の清掃	205

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

※点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。

■車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

※メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

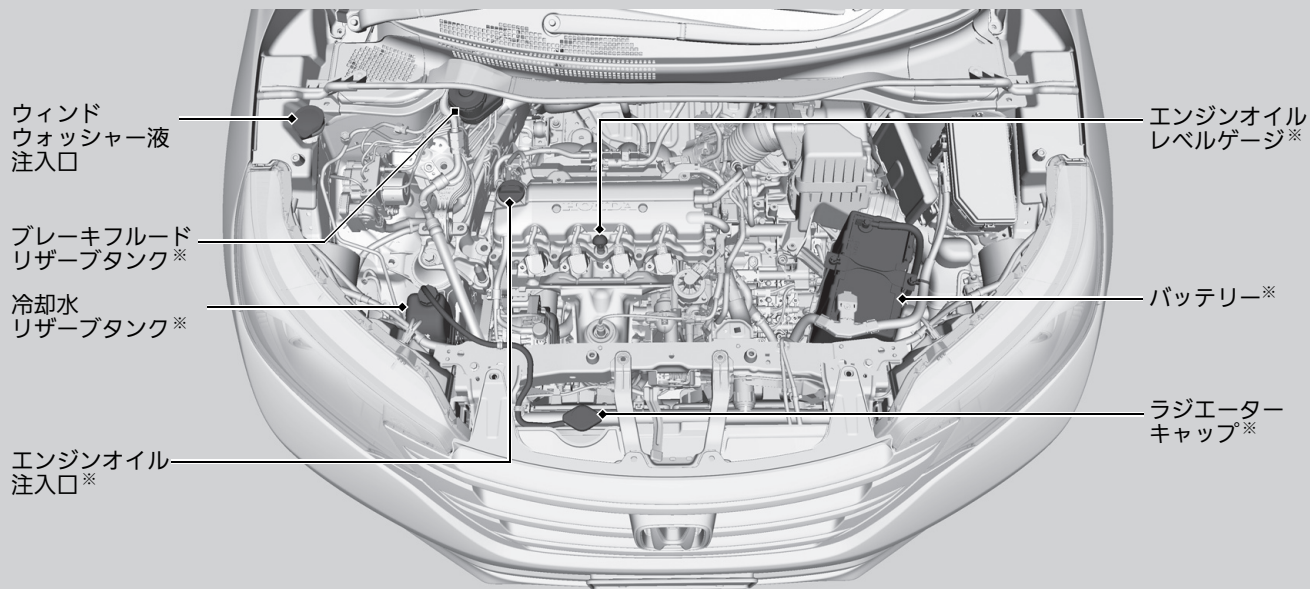
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目

2.0L 車



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

2.4L 車

エンジンオイル
レベルゲージ※

ウィンド
ウォッシャー液
注入口

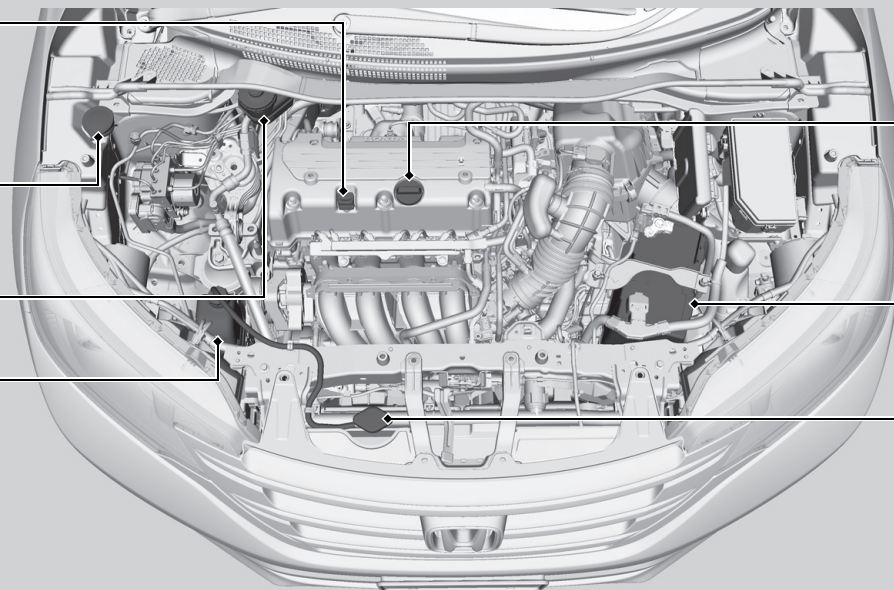
ブレーキフルード
リザーブタンク※

冷却水
リザーブタンク※

エンジンオイル
注入口※

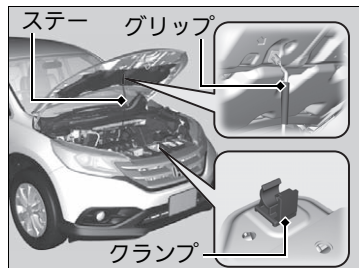
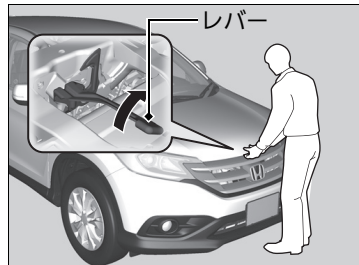
バッテリー※

ラジエーター
キャップ※



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。



推奨エンジンオイル：

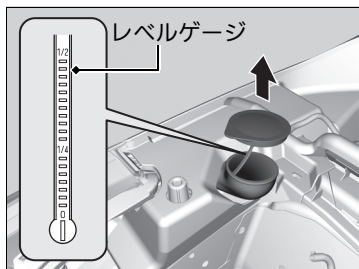
Honda 純正エンジンオイル、

☑ Honda 純正エンジンオイル P.238,240

API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION (エーピーアイサーティフィケーション) マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

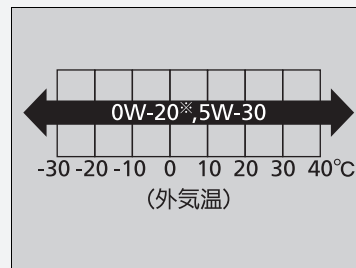
ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

☑ 推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。

冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

☑ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

電球の交換

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

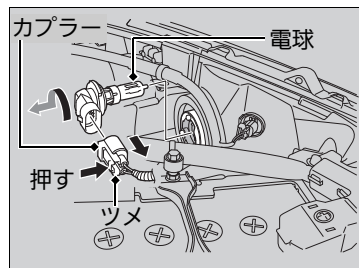
ロービームヘッドライト	ディスチャージヘッドライト	: 12V-35W
ハイビームヘッドライト		: 12V-60W

ディスチャージヘッドライト

ロービームヘッドライト

電球の点検や交換は必ず Honda 販売店に依頼してください。

ハイビームヘッドライト



1. カプラーを外す
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

※ロービームヘッドライト

⚠ 注意

ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しています。

不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

※ハイビームヘッドライト

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

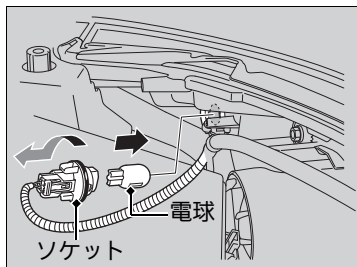
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)

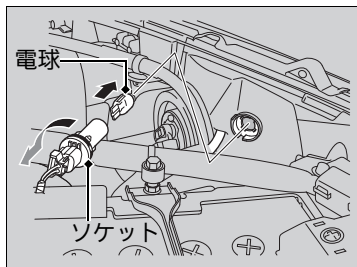


1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V-5W

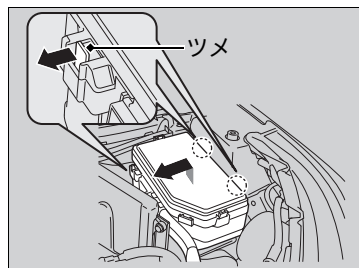


1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

アクティブコーナリングライト電球

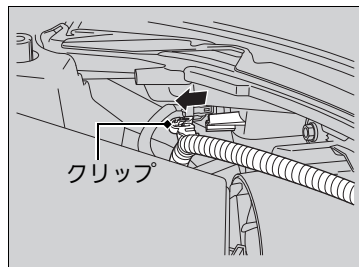
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

アクティブコーナリングライト：12V-35W



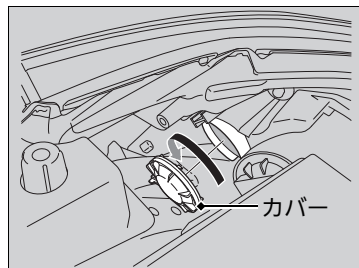
左側

1. ツメを引きながらヒューズボックスを外す。



右側 / 左側

2. クリップを外す。



右側 / 左側

3. カバーを左に回して外す。

※アクティブコーナリングライト電球

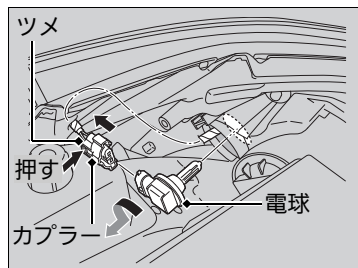
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。



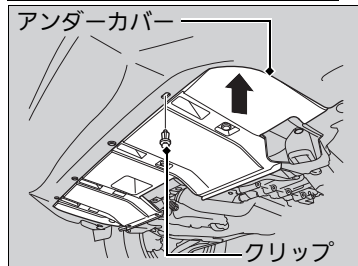
右側 / 左側

4. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
5. 古い電球を左に回して抜き取る。
6. 新しい電球を右に回して固定する。
7. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

フォグライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト：12V-55W



1. クリップを外し、アンダーカバーを内側に押し上げる。

※フォグライト電球

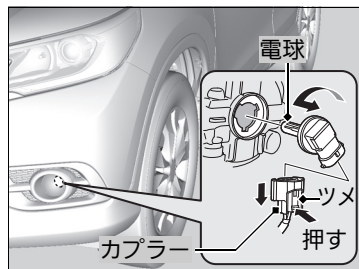
アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

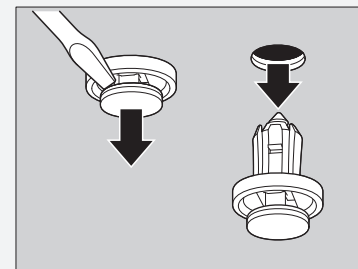
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



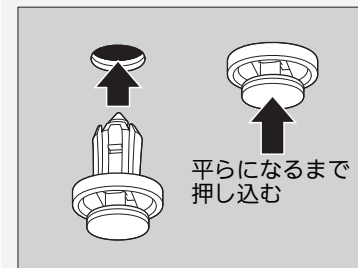
2. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
3. 古い電球を左に回して抜き取る。
4. 新しい電球を右に回して固定する。
5. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

☒ フォグライト電球

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。



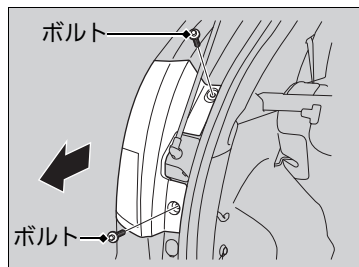
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

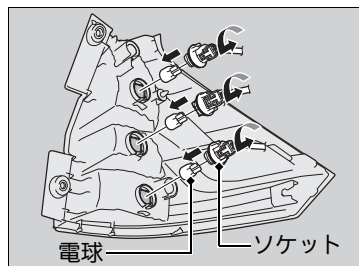
制動灯 / 尾灯、後退灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

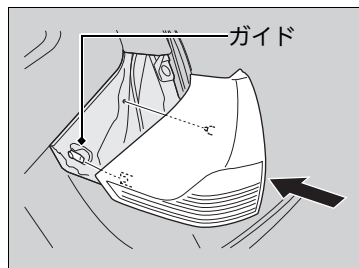
制動灯 / 尾灯	: 12V-21/5W
後退灯	: 12V-21W
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-21W(橙色)



1. ボルトを外す。
2. ランプ本体を取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。



5. 車体のガイドに沿って、ランプ本体を取り付ける。

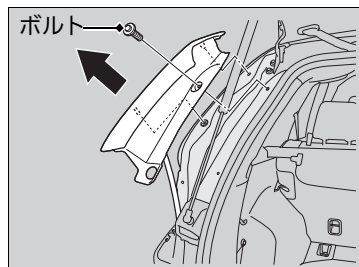
尾灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

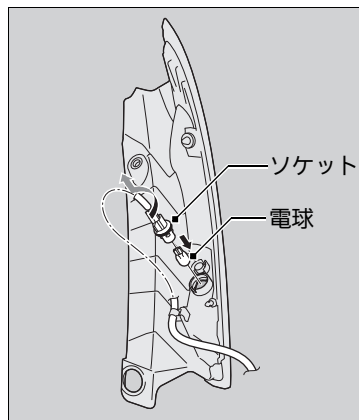
尾灯 : 12V-5W

尾灯電球を交換する場合は、まず制動灯 / 尾灯電球のランプ本体を外してください。

■ 制動灯 / 尾灯、後退灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球 P.188



1. ボルトを外す。
2. ランプ本体を取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

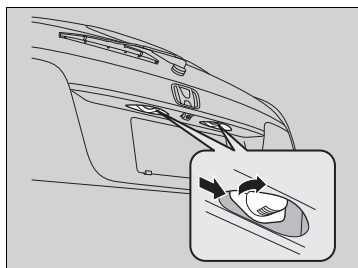
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

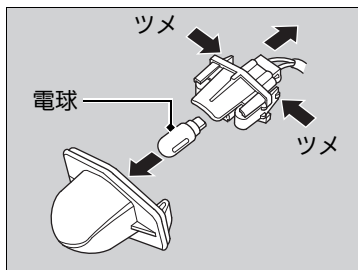
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V-5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ツメを押してカバーを外す。

3. 古い電球を抜き取る。

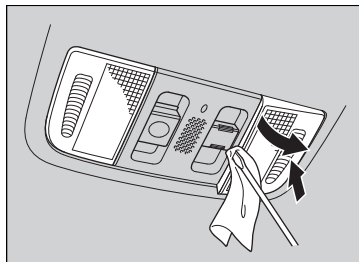
4. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

■ 室内灯 / マップランプ電球

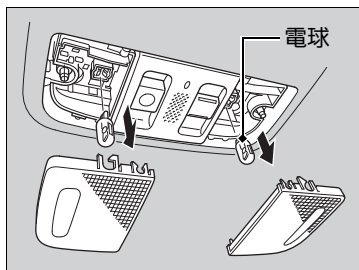
下記の電球をご使用ください。

室内灯 / マップランプ : 12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

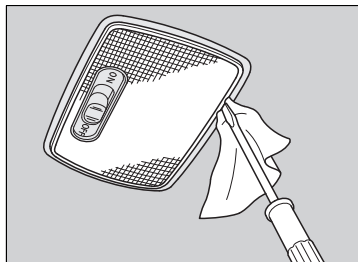


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ 室内灯電球 / カーゴスペース照明灯電球

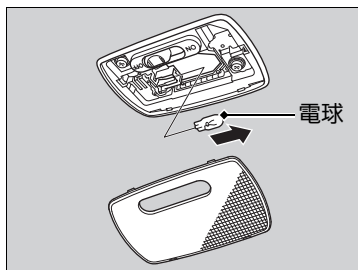
下記の電球をご使用ください。

室内灯 / カーゴスペース照明灯 : 12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

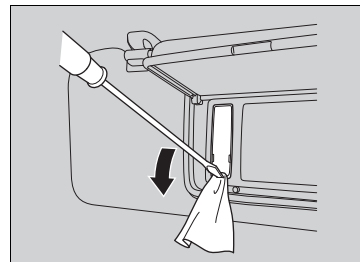


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ バニティミラー照明灯電球

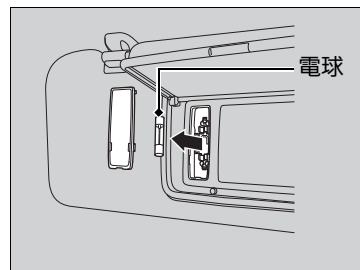
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯 : 12V-2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

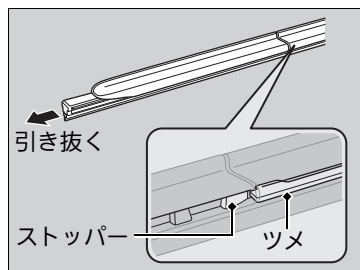
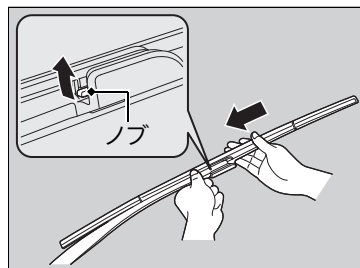


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。
3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

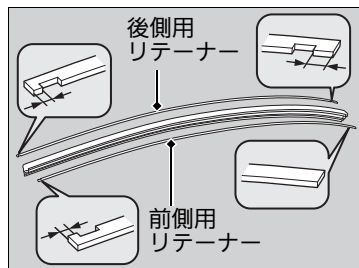
※フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

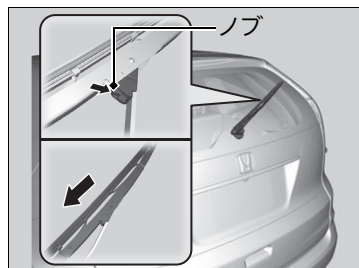
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
5. ラバーをブレードの端から差し込む。
▶ 正しく固定されているか確認してください。その後、ブレードをワイパーアームに取り付けます。

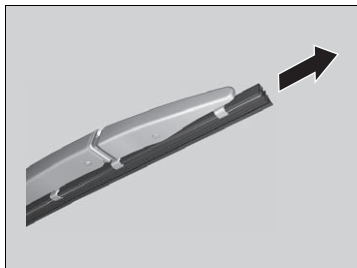
リヤワイパーブレードドラバーの交換



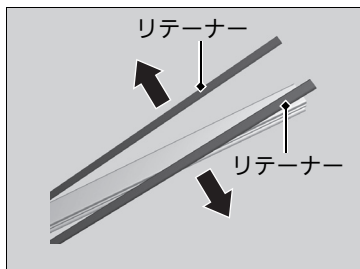
1. ワイパーアームを起こす。
2. ノブを押しながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

※フロントワイパーブレードドラバーの交換

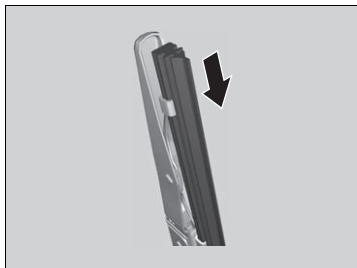
ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。



5. ラバーをブレードの端から差し込む。
▶ 正しく固定されているか確認してください。その後、ブレードをワイパーアームに取り付けます。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

※タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

**必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用
する。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

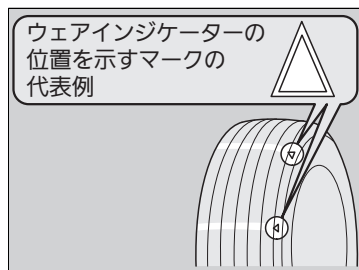
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

❏ 資料 P.238,240

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

❏ タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

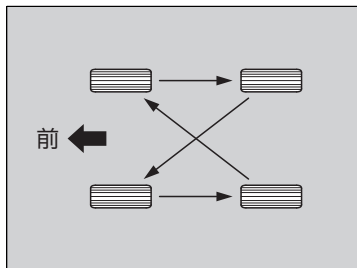
タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、ABS、VSA、AWD などが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

タイヤのローテーション

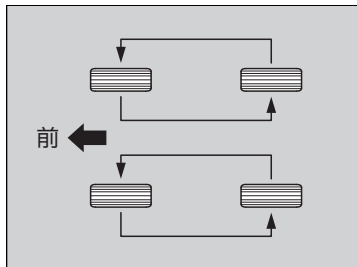
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



左図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

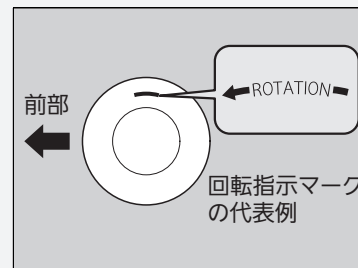


左図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。

下図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

❖冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは、2WD車、AWD車ともに前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

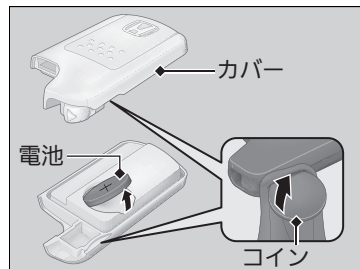
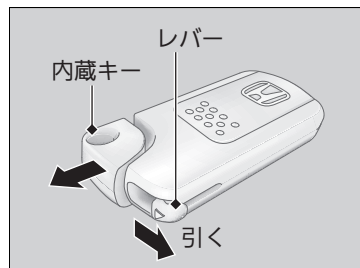
※ 取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。
2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

電池交換のしかた

⚠ 注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

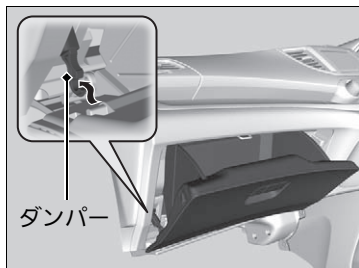
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

エアクリーンフィルター

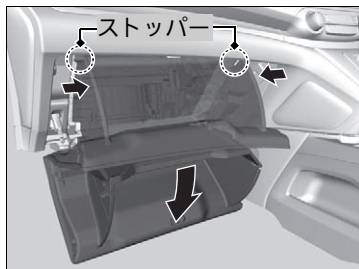
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開け、ダンパーを外す。



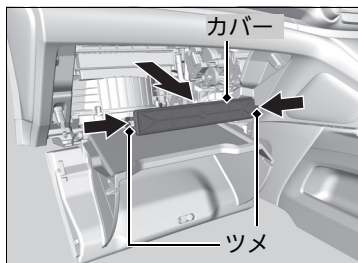
2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

■エアクリーンフィルター

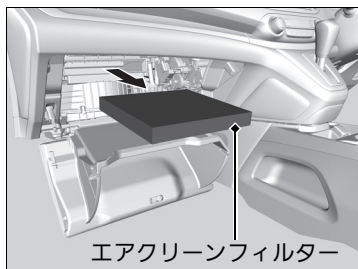
芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。



4. エアクリーンフィルターを引き出す。
5. 新品と交換する。
▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、同じ方向（下向き）になるように取り付けます。

日常のお手入れ

走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。

飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。

以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

※洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

※車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

本革*のお手入れ

本革シートなどは、ウール用中性洗剤の10%水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落としします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。

汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する

高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

本革のお手入れ

サイドエアバッグ装備車の助手席を湿った状態で使用すると、サイドエアバッグの乗員姿勢検知システムが正しく作動しないことがあります。よく乾かしてからお使いください。

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ はっ水ガラスについて

前席ウィンドー（ドアガラス）にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ アルミホイール*のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

❖ ガラスのお手入れ

リヤガラスやリヤクォーターガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線*が装着されています。

傷付けないう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことを守ってください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

❖ アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

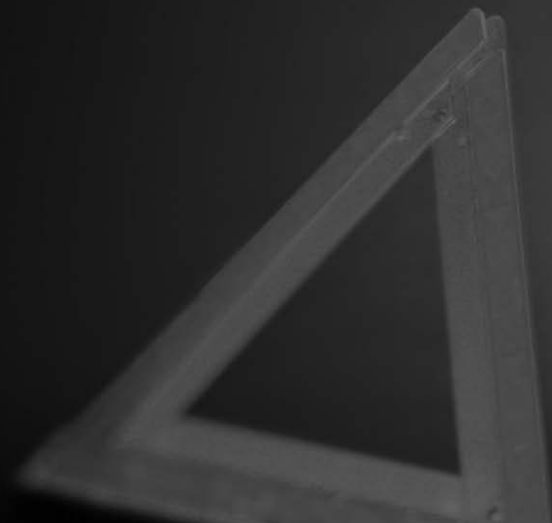
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

万一の場合には

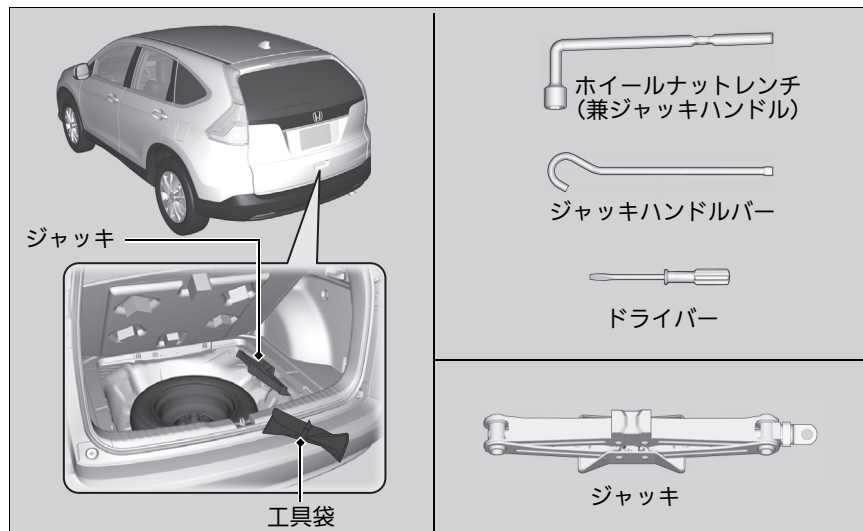
この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



工具、発炎筒	209
パンクしたとき	210
パンクしたタイヤの交換	210
エンジンが始動しない	217
エンジンの状態の確認	217
Honda スマートキーの電池が切れたとき	218
緊急時のエンジン停止方法	219
ジャンプスタート	220
セレクトレバーが動かない	223
オーバーヒート	224
警告灯の点灯 / 点滅	225

ヒューズ	228
ヒューズの設置場所	228
各ヒューズの装備と容量	229
ヒューズの点検と交換	231
けん引	232
テールゲートが開かないとき	235

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

📖 発炎筒 P.2

📖 工具の種類

工具類はカーゴルーム内に収納されています。

📖 発炎筒

⚠️ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠️ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたとき

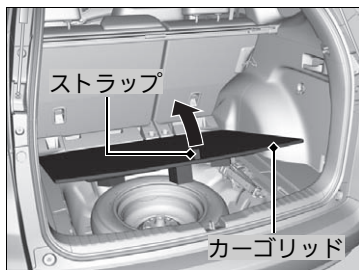
パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、応急用スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **[P]** に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

タイヤ交換の準備



1. ストラップを引いて、カーゴリッドを開ける。

▶パンクしたタイヤの交換

⚠ 注意

タイヤを交換するときはエンジンを切る。
エンジンをかけたままにすると排気管でやけどを負うおそれがあります。

思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。

指定空気圧：420kPa(4.2kgf/cm²)

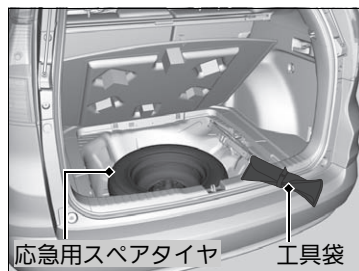
応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用用品です。

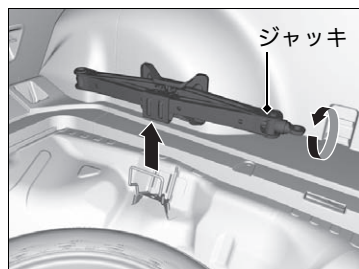
他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

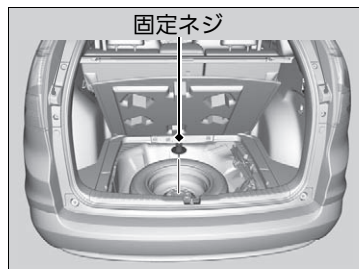
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪を前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。



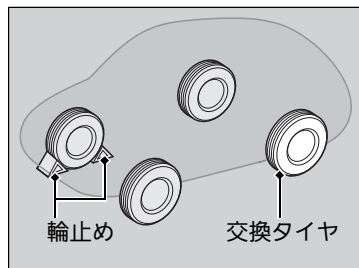
2. 工具袋を取り出す。



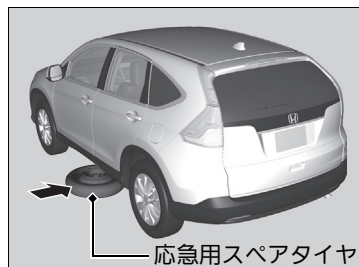
3. ジャッキをゆるめて外す。



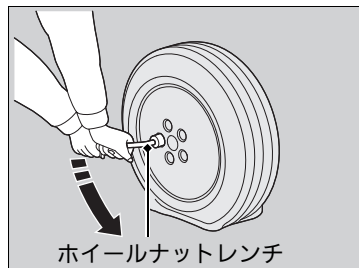
4. 固定ネジを外し、応急用スペアタイヤを取り出す。



5. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。

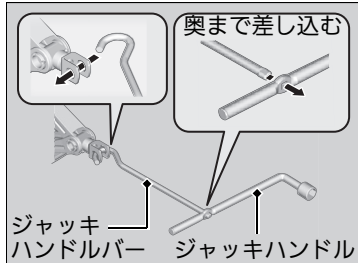
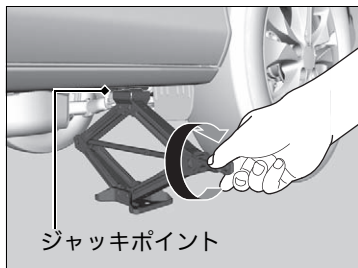
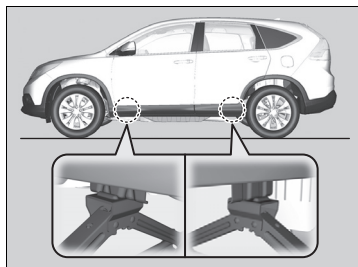


6. 応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。



7. ホイールナットをホイールナットレンチで約 1 回転ゆるめる。

ジャッキのかけかた



1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分に矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

注意

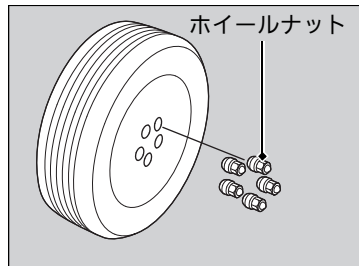
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

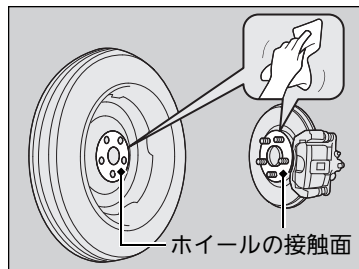
この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

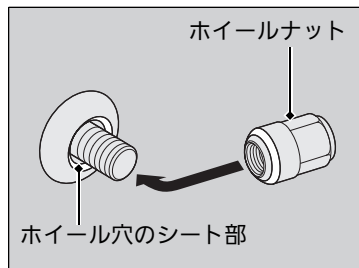
■タイヤの交換



1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。

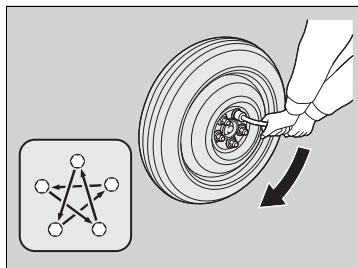


2. ホイールの接触面を拭き取る。



3. 応急用スペアタイヤを取り付ける。

4. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。



5. ジャッキをおろし、左図の順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

締め付けトルク：98～118 N・m
(10.0～12.0 kgf・m)

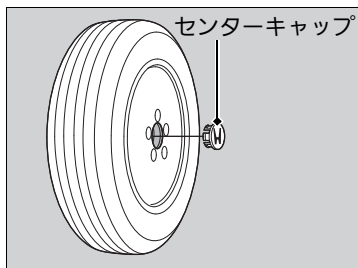
❏タイヤの交換

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けしないでください。

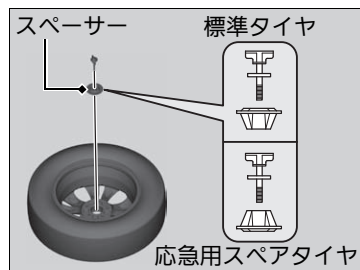
❏パンクしたタイヤの収納

標準タイヤを収納しているときは、カーゴリッドを元の位置に取り付けできません。標準タイヤの上に置いてください。

■パンクしたタイヤの収納



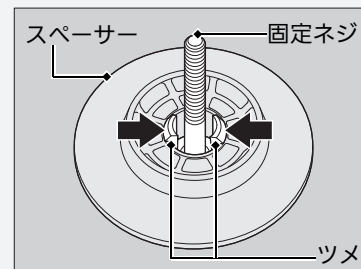
1. パンクした標準タイヤのセンターキャップを外す。



2. パンクしたタイヤを収納する。
3. スペーサーを応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定する。

■パンクしたタイヤの収納

スペーサーを逆向きにするときは、ツメを押してスペーサーから固定ネジを取り外します。



エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

❏エンジンの状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

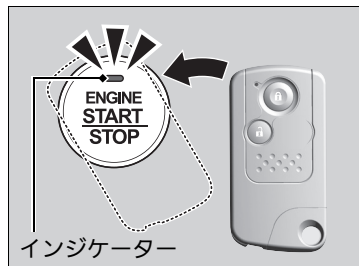
❏ ジャンプスタートの方法 P.220

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する キーでスイッチに触れて下さいのメッセージが表示されているとき • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ❏ ENGINE START/STOP スイッチ P.98 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.218 室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ❏ヒューズの点検と交換 P.231
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ❏エンジンの始動 P.144 イモビライザーシステム表示灯を確認する イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ❏ イモビライザーシステム P.93 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ❏燃料計 P.63 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ❏ヒューズの点検と交換 P.231

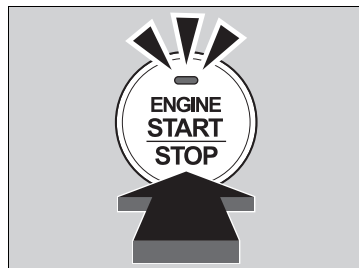
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. **ENGINE START/STOP** を押す。
▶ インジケーターが約30秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ インジケーターが約10秒間点灯します。



3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**ENGINE START/STOP** を押す。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP によるエンジンの停止ができなくなった場合は、以下のいずれかを行ってください。

- **ENGINE START/STOP** を 3 秒間押す。
- **ENGINE START/STOP** を連続して 3 回押す。

このとき、ハンドルロックはされていません。

セレクトレバーを **P** に入れてから、パワーモードをOFFモードにしてください。

❏ 緊急時のエンジン停止方法

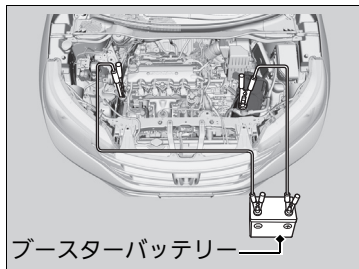
緊急時など必要な場合以外は、走行中に **ENGINE START/STOP** を押さないでください。

ジャンプスタート

ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
 2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
 3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
- ▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。

※ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

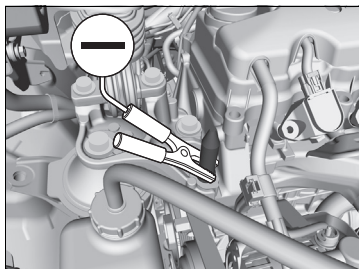
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。

エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。



4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのアース端子に接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

❏ ジャンプスタートの方法

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのアース端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のバッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠️エンジン始動後の作業



警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

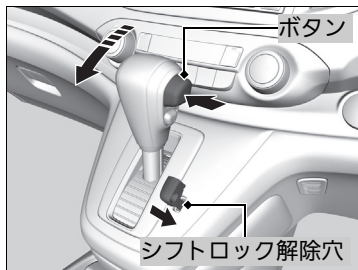
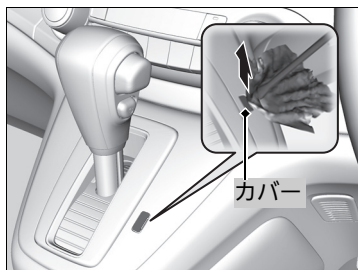
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、**P** の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端を布で包み、図のようにシフトロック解除用カバーの切り欠きに入れてカバーを外す。
4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを **N** に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針が **H** の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にする事

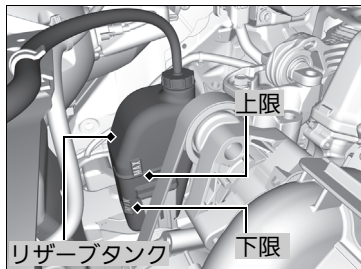
1. ただちに車を安全な場所に停める。

- ▶ セレクトレバーを **P** に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にする事



1. 冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する。

- ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

- ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にする事

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し水温計を確認する。
水温計の針が下がった場合は、運転を再開します。下がらないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

※オーバーヒートしたときの対処方法



警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

水温計の針が **H** の目盛りまで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10秒以内に消灯しない：エンジンを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

※油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

※充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

※ブレーキ警告灯が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

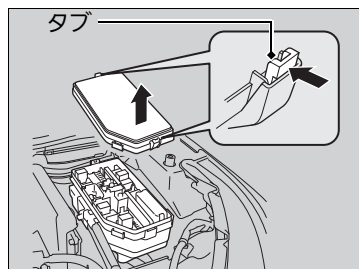
その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

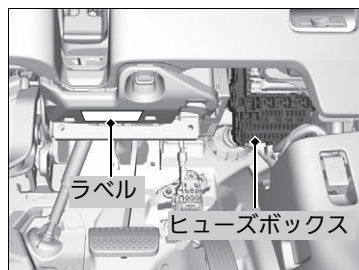
電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、2 つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリナーボックスの隣にあります。タブを押して開けてください。

■室内のヒューズボックス



アクセルペダルの上にあります。

※エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

※室内のヒューズボックス

ブレーキペダルの上に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

各ヒューズの装備と容量

■ エンジンルーム

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		EPS	70A
		—	(30A)
		ABS/VSA モーター	40A
		ABS/VSA FSR	20A
		AWD システム	(30A) ^{※1}
		メインヒューズ	100A
		イグニッション(メイン)	50A
2		ヒューズボックス (メイン)	60A
		ヒューズボックス (メイン)2	60A
		ヘッドライトハイビーム (メイン)	30A
		ST MG SW	(30A)
		リヤデフロスター	30A
		—	(30A)
		ヒーターモーター	40A
		フロントワイパー(メイン)	30A
		サブファン	20A
		メインファン	20A

	表示	装備	容量
3	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8		サブファン リレー	7.5A
9	—	—	—
10		ヒータードアミラー	(7.5A)
11		ST MG DICDE/STRLD	7.5A
12		フォグライト	(20A)
13		オーディオアンプ	(20A)
14		ホーン	10A
15		非常点滅表示灯	10A
16		制動灯	10A
17		イグニッションコイル	15A
18		IGP2	15A
19	—	—	—
20		—	(20A)
21		フロントガラス熱線	(15A)
22		ドライブバイワイヤー	15A
23		IGP	15A

	表示	装備	容量
24		左側ヘッドライト (ロービーム)	15A
25		右側ヘッドライト (ロービーム)	15A
26		車幅灯	20A
27		MG クラッチ	7.5A
28		室内灯	7.5A
29		バックアップ	10A

※1 : AWD 車

■室内

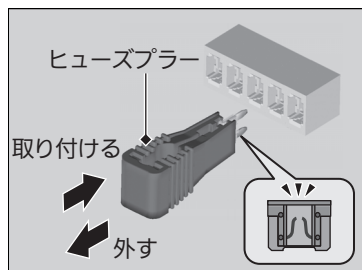
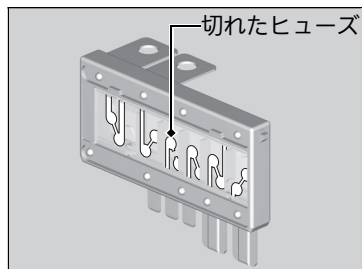
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1 —	—	—
2 	発電機	10A
3 	SRS エアバッグシステム	10A
4 	フューエルポンプ	15A
5 	メーター	10A
6 	パワーウィンドー	7.5A
7 	VB SOL	(7.5A)
8 	左側ドアロック (アンロック)	15A
9 	右側ドアロック (アンロック)	15A
10 —	—	—
11 	サンルーフ	(20A)
12 	—	(20A)
13 	ウォッシャー(メイン)	(15A)
14 	シートヒーター	(20A)
15 	—	(10A)
16 	運転席パワーシート 前後スライド / 高さ調節 (前側)	(20A)

表示	装備	容量
17 	運転席パワーシート リクライニング / 高さ調節 (後側)	(20A)
18 	—	(20A)
19 	アクセサリー	7.5A
20 	キーロック	7.5A
21 	—	(7.5A)
22 	エアコン	7.5A
23 	ワイパー / ウォッシャー リレー	10A
24 	ABS/VSA	7.5A
25 	オーディオ	10A
26 —	—	—
27 	アクセサリーソケット	20A
28 	—	(15A)
29 	SRS エアバッグシステム2	7.5A
30 	—	(10A)
31 	Honda スマートキー システム	(10A)
32 	左側ドアロック(ロック)	15A
33 	右側ドアロック(ロック)	15A
34 	スモールライト (車幅灯 / 尾灯)	10A
35 	スモールライト(室内)	7.5A

表示	装備	容量
36 	リヤワイパー(メイン)	10A
37 	アクティブコーナリング ライト	(15A)
38 	左側ヘッドライト (ハイビーム)	10A
39 	右側ヘッドライト (ハイビーム)	10A
40 	—	(7.5A)
41 	ドアロック	20A
42 	運転席パワーウィンドー	20A
43 	後席右側パワーウィンドー	20A
44 	助手席パワーウィンドー	20A
45 	後席左側パワーウィンドー	20A
46 —	—	—

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

❏ ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。

交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ 各ヒューズの装備と容量 P.229

エンジンルーム内のヒューズボックスには、ヒューズプラーがついています。

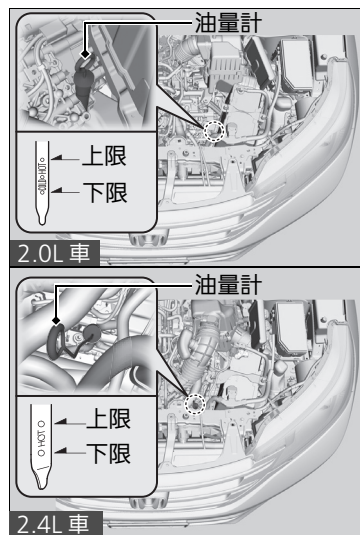
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は専門業者に依頼して2WD車は四輪または前輪、AWD車は四輪を持ち上げて行ってください。

やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. トランスミッションフルードの量が、油量計の目盛りの上限と下限の間にあることを確認する。
 ▶ 下限より下がっている場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。

※非常時のけん引

アドバイス

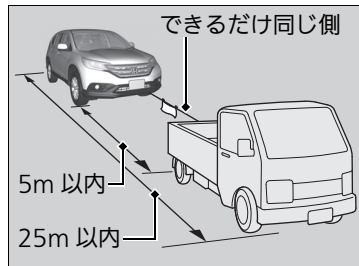
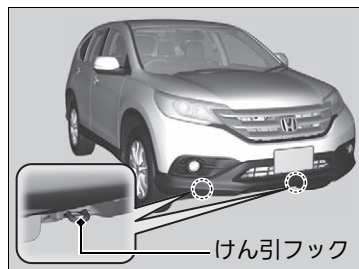
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD車は四輪または前輪、AWD車は四輪を持ち上げてけん引してください。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。



2. ロープをけん引フックにかける。

3. ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。

4. エンジンを始動してセレクトレバーを **D** にし、約 5 秒間保持する。

▶ エンジンがかからないときは、パワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにします。

5. セレクトレバーを **N** にする。

6. パーキングブレーキを解除する。

7. 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引する。

▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

※非常時のけん引

アドバイス

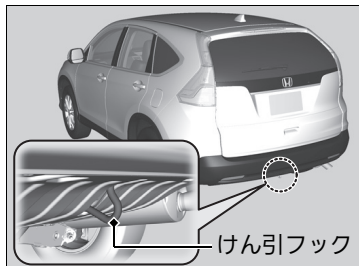
エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- CVT 車は、トランスミッションを破損するおそれがある
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

■ やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車のけん引を行う場合、リヤバンパー下にあるけん引フックにロープをかけてください。



万
一
の
場
合
に
は

❖ やむをえず他車をけん引する場合

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

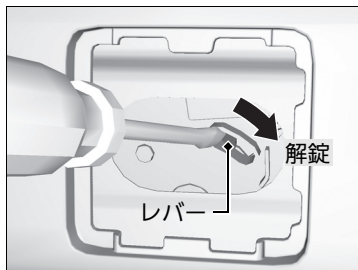
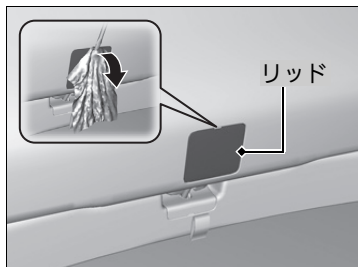
ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

テールゲートが開かないとき

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。
2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

開かないときの対処方法

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様：2.0L 車	237
仕様：2.4L 車	239



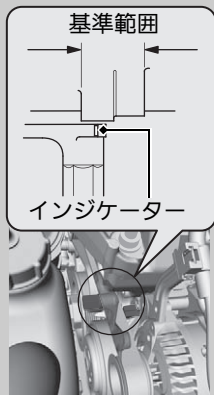
仕様：2.0L 車

■仕様

名称	CR-V
排気量	1,997 cm ³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	5 名

■調節

ベルトの
たわみ量



点火プラグ	NGK	SILZKR7C11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1～5mm
	床板とのすき間	89.4mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
	カーペットとの すき間 (参考値)	71mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
パーキング ブレーキ	踏みしろ	5～6 ノッチ [約 294N (30kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	58 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量 / タイプ	36AH (5) / 55B24L
----------	-------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	12V-35W
ヘッドライト (ハイビーム)	12V-60W※1
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	12V-5W
アクティブコーナリング ライト	12V-35W※1
フォグライト	12V-55W※1
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	12V-21/5W
尾灯	12V-5W
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
後退灯	12V-21W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	12V-8W
パニティミラー照灯	12V-2W
カーゴスペース照灯	12V-8W

※1：ハロゲンバルブ

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ HMMEF	2.8 ℓ (交換時)
-----	------------------------	-------------

仕様： 2.0L 車

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20 ^{※2}
	ULTRA LTD	API SN SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	3.5 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.7 ℓ

※2：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	5.9 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.62 ℓ 含む)

■タイヤ

標準 タイヤ	サイズ	225/65R17 102S
	空気圧 kPa (kgf/cm ²)	210 (2.1)
	リムサイズ	17×6 1/2J
スペア タイヤ	サイズ	T155/90D17 101M
	空気圧 kPa (kgf/cm ²)	420 (4.2)
	リムサイズ	17×4T

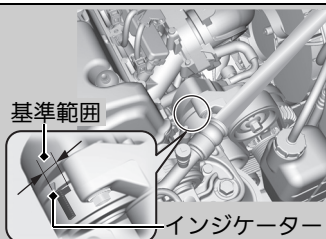
仕様：2.4L 車

■仕様

名称	CR-V
排気量	2,354 cm ³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	5 名

■調節

ベルトの
たわみ量



点火プラグ	NGK	ILZKR7B-11S
	DENSO	SXU22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1～5mm
	床板とのすき間	89.4mm 以上 [約 196N(20kgf) の力]
	カーペットとの すき間(参考値)	71mm 以上 [約 196N(20kgf) の力]
パーキング ブレーキ	踏みしろ	5～6 ノッチ [約 294N(30kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	58 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量 / タイプ	36AH(5) / 55B24L
----------	------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	12V-35W
ヘッドライト(ハイビーム)	12V-60W※1
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
車幅灯	12V-5W
アクティブコーナリング ライト	12V-35W※1
フォグライト	12V-55W※1
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	12V-21/5W
尾灯	12V-5W
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-21W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	12V-8W
パニティミラー照明灯	12V-2W
カーゴスペース照明灯	12V-8W

※1： ハロゲンバルブ

■デファレンシャルオイル

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-II
規定量	1.2 ℓ (交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1	2.6 ℓ (交換時)
-----	---------------------------	-------------

仕様： 2.4L 車

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20※2
	ULTRA LTD	API SN SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	3.8 ℓ
	オイル、オイルフィルター 同時交換時	4.0 ℓ

※2：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラエクーラント
規定濃度	50%
規定量	6.2 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.62 ℓ 含む)

■タイヤ

標準 タイヤ	サイズ	225/65R17 102S
	空気圧 kPa (kgf/cm ²)	210 (2.1)
	リムサイズ	17×6 1/2J
スペア タイヤ	サイズ	T155/90D17 101M
	空気圧 kPa (kgf/cm ²)	420 (4.2)
	リムサイズ	17×4T

A

A/C(エアコン)	133
ABS(アンチロックブレーキシステム)	164
ABS警告灯	56, 164
AT(オートマチックトランスミッション) ..	149
AVG(平均燃費表示)	65, 67
AV入力端子	126
AWD(オールホイールドライビング)	161

C

CRUISE CONTROL(クルーズ コントロール)	157
クルーズコントロール表示灯	60
クルーズメイン表示灯	60

E

ECONスイッチ	156
ECON表示灯	60
ECOインジケーター	6
ENGINE START/STOP スイッチ	表紙ウラ, 98
パワーモードの切り換えかた	98
EPS(電動パワーステアリング) システム警告灯	57, 227
ETC車載器	別冊

H

Hondaインターナビシステム	別冊
Hondaスマートキー	79, 81
ENGINE START/STOP スイッチ	98
Hondaスマートキー電池消耗警告	58
Hondaスマートキー持ち去り警告	100
電池が切れたとき	218
電池交換のしかた	201
Hondaスマートキーシステム警告灯	55

I

ISOFIX	45, 48
--------------	--------

M

MENUスイッチ	71
MIST	104
M(シーケンシャルモード)表示灯	61, 153

P

PGM-FI警告灯	54, 226
-----------------	---------

R

RANGE(航続可能距離表示)	65, 67
REAL TIME AWD(オールホイール ドライビング)システム	161
AWDシステム警告灯	58

S

SOURCEスイッチ	71, 140
SRSエアバッグ	29
エアバッグシステム警告灯	37, 56

U

USB端子	125
-------------	-----

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	160
VSA OFF警告灯	56, 161
VSA警告灯	56, 160

W

W(ワット)数	237, 239
---------------	----------

ア

アクアクリンミラー	110
アクセサリー	175
アクセサリーソケット	125
アクティブコーナリングライト	101
電球の交換	185
安全なドライブのために	19
安全に関する表示	16
安全のための確認事項	19

アンチロックブレーキシステム(ABS)	164
ABS警告灯	56, 164
アンテナ	3

イ

一酸化炭素の危険性	52
イモビライザーシステム	93
イモビライザーシステム表示灯	60
イルミネーションコントロール	106
インフォメーションディスプレイ	65

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	100
方向指示器表示灯	59
ウィンドーの開閉	95
ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	182
ウィンドウォッシャースイッチ	104
ウェアインジケーター	197
運転	
クルーズコントロール	157
シフト操作	150
ブレーキ操作	162

エ

エアコン	133
エアクリンフィルター	202

オートエアコンの使いかた	134
窓の曇りや霜の取りかた	136
モード切り換えスイッチ	134
エアバッグ	29
SRSエアバッグ	29
エアバッグシステム警告灯/表示灯	37
エアバッグシステム故障診断記録装置	16
エアバッグのお手入れ	39
サイドエアバッグ	32
サイドエアバッグ自動停止システム	34
サイドカーテンエアバッグ	35
エンジンオイル	182
推奨エンジンオイル	238, 240
油圧警告灯	54, 225
エンジンの始動	144
エンジンが始動しない	217
ジャンプスタート	220
エンジンルーム内のメンテナンス	179
ウィンドウォッシャー液の補給	182
エンジンルーム内のメンテナンス項目	179
推奨エンジンオイル	182, 238, 240
ボンネットを開ける	181
冷却水の点検と補給	224
エンジン冷却水	238, 240

オ

オーディオ装置	139
---------------	-----

オーディオリモートコントロール	
スイッチ	140
オートドアロック/オートドアアンロック	88
オートマチックトランスミッション(AT)	149
オートライトコントロール	102
オートライトコントロール警告灯	57
オーバーヒート	224
オールホイールドライビング(AWD)	161
追越合図(パッシング)	102
応急用スペアタイヤ	210
オドメーター	66
温度センサー	66

カ

カーゴスペース照明灯	122
電球の交換	192
カーゴフック	128
外気温表示	66
鍵(かぎ)	79
カスタマイズ機能	70
ガソリン	172, 237, 239
壁紙の設定のしかた	74
壁紙の選択	76

キ

キー	
ENGINE START/STOP のパワーモードが	
OFFからアクセサリにならない	14

ENGINE START/STOPのパワーモードが OFFにならない	14
Hondaスマートキー	79, 81
Hondaスマートキーの電池が切れた とき	218
キー閉じ込み防止装置	85
キーナンバータグ	80
キーの種類と機能	79
キーレスエントリー	82
キーレスエントリーでドアが開かない	15
後席ドアが開かない	14
電池交換のしかた	201
内蔵キー	80
キー閉じ込み防止装置	85
キーナンバータグ	80
キーレスエントリー	82
キックダウン	149
給油	172
給油のしかた	172
指定燃料	172, 237, 239
燃料計	63
燃料残量警告灯	56

ク

空気圧	238, 240
空気圧測定器による点検	197
グラブレード	4
クリーブ現象	149

クルーズコントロール	157
クルーズコントロール表示灯	60
クルーズメイン表示灯	60
車の改造	175
グローブボックス	123

ケ

経過時間表示	69
計器	53
警告灯	54
ABS警告灯	56, 164
AWDシステム警告灯	58
EPSシステム警告灯	57, 227
Hondaスマートキーシステム 警告灯	55
Hondaスマートキー電池消耗警告灯	58
PGM-FI警告灯	54, 226
VSA OFF警告灯	56, 160
VSA警告灯	56, 160
エアバッグシステム警告灯	37, 56
オートライトコントロール警告灯	57
シートベルト非着用警告灯	55
充電警告灯	54, 225
スターターシステム警告灯	58
セレクトポジション P 移動警告灯	55
テールゲート開閉警告灯	57
ドア開閉警告灯	57
トランスミッション警告灯	55
燃料残量警告灯	56

ブレーキ警告灯(レッド)	54, 226
油圧警告灯	54, 225
警告灯の点灯/点滅	225
携帯電話接続端子	126
けん引	232

コ

コートフック	127
交換	
アクティブコーナリングライト電球	185
カーゴスペース照明灯電球	192
後退灯電球	188
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 電球	188
室内灯電球	192
室内灯/マップライト電球	192
車幅灯電球	184
制動灯/尾灯電球	188
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球	184
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球	188
ハイマウントストップランプ電球	191
番号灯電球	191
尾灯電球	190
フォグライト電球	186
ヘッドライト電球	183
ワイパーブレードラバー	193
工具	209

交差点案内表示	69
航続可能距離表示	69
後退灯	188
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	188
コンソールボックス	123
コンビニフック	127

サ

サービス診断記録装置	16
サイドエアバッグ	32
サイドエアバッグ自動停止システム	34
サイドエアバッグ自動停止表示灯	38, 59
サイドカーゴネット	4
サイドカーテンエアバッグ	35
サンガラスボックス	129
サンバイザー	4
サンルーフ	97

シ

シーケンシャルモード	154
シフトインジケーター/[M] (シーケンシャル モード) 表示灯	61, 153
シートの調節	112
アームレスト	120
フロントシート	112
ヘッドレスト	117
リヤシート	116
シートヒーター	130

シートベルト	20
シートベルトの着用	23
シートベルトの点検	28
シートベルト非着用警告灯	55
シートベルトプリテンショナー	22
シートベルトリマインダー	21
妊娠中のかたのシートベルト着用の しかた	27
分離収納式シートベルト	25
時刻の設定	78
室内装備品	123
室内灯	121
指定燃料	172, 237, 239
シフトスイッチ	155
シフト操作	150, 152
車外の清掃	205
ジャッキハンドルバー	209, 213
ジャッキハンドル(ホイールナット レンチ)	209, 213
車内の清掃	204
車幅灯	184
ジャンプスタート	220
充電警告灯	54, 225
瞬間燃費表示	67
仕様	237, 239
衝撃感知ドアロック解除システム	88
ショルダーアンカー	24

ス

水温計	63
スイッチ操作	
ECONスイッチ	156
ENGINE START/STOPスイッチ	98
アクティブコーナリングライト	101
イルミネーションコントロール	106
セレクト/リセットノブ	65
ディスプレイスイッチ	68
フォグライトスイッチ	103
フロントガラス熱線スイッチ	107
方向指示器(ウィンカースイッチ)	100
ライトスイッチ	102
リヤデフロスター/ヒートドアミラー スイッチ	107
ワイパー/ウォッシャー	104
スターターシステム警告灯	58
ステアリング	108
スノータイヤ	199
スパークプラグ	237, 239
スピードメーター	63

セ

清掃	204
制動灯	188
セキュリティシステム	93
イモビライザーシステム	93
セキュリティアラームシステム	93

セレクト/リセットノブ	65
セレクトポジション	150, 152
セレクトポジション表示灯	61, 151, 153
セレクトポジション P 移動警告灯	55
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	223
セレクトレバーの操作	151, 153
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	184

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	188
-------------------------	-----

タ

タイヤ	196
ウェアインジケーター	197
応急用スペアタイヤ	210
指定空気圧	238, 240
タイヤの点検	196
タイヤのローテーション	198
冬のタイヤ	199
パンク	210
タイヤチェーン	199
タコメーター	64

チ

チェーン	199
------------	-----

チャイルドシート	40
ジュニアシート	50
乳児のチャイルドシート	41
幼児のチャイルドシート	42
チャイルドブルーフ	87
駐停車操作	166

テ

データの開示について	16
テールゲート開閉警告灯	57
テールゲートの開閉	92
テールゲートが開かないとき	235
テールゲート開閉警告灯	57
デファレンシャルオイル	239
デフロスター	136
リヤデフロスタースイッチ	107
点火プラグ	237, 239
電子制御ブレーキアシスト	165
電池交換	201

ト

ドアの施錠と解錠	79
Hondaスマートキー	80
キー閉じ込み防止装置	85
キーナンバータグ	80
キーの種類と機能	79
キーレスエントリー	82
キーレスエントリーでドアが開かない	15

後席ドアが開かない	14
車外でのドアの施錠/解錠	82
車内での施錠/解錠	86
チャイルドブルーフ	87
テールゲート開閉警告灯	57
ドア開閉警告灯	57

ドアミラー	109
-------------	-----

冬のタイヤ	199
-------------	-----

スノータイヤ	199
--------------	-----

タイヤチェーン	199
---------------	-----

時計	78
----------	----

トップテザーアンカレッジ	49
--------------------	----

トップテザーストラップ	49
-------------------	----

トノカバー	131
-------------	-----

ドライバー	209
-------------	-----

トラブルシューティング

ENGINE START/STOPのパワーモードが OFFからアクセサリーにならない	14
ENGINE START/STOPのパワーモードが OFFにならない	14
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	15
エンジンが始動しない	217
オーバーヒートした	224
キーレスエントリーでドアが開かない	15
警告灯が点灯/点滅した	225
けん引してもらいたい	232
後席ドアが開かない	14
ジャンプスタートしたい	220
セレクトレバーが動かない	223

走行するとブザーが鳴る	15
ハイオクガソリンは使える?	15
パンクした	210
ヒューズが切れた	228
ブレーキを踏むと音がする	15
ブレーキを踏むと振動する	14
エンジンが停止しない	219
トランスミッション警告灯	55
トランスミッションフルード	237, 239
取り消しスイッチ	1
トリップメーター	66
ドリンクホルダー	124

ナ

内蔵キー	80
------------	----

ネ

燃料	172, 237, 239
燃料計	63
燃料残量警告灯	56
燃料情報表示	68

ハ

パーキングブレーキ	162
排気ガスの危険性	52
ハイビーム	102
電球の交換	183

ハイビーム表示灯	59
ハイマウントストップランプ	191
ハザードスイッチ	表紙ウラ
発炎筒	209
バッシング	102
バッテリー	
ジャンプスタート	220
充電警告灯	54, 225
容量	237, 239
発話スイッチ	1
パニティミラー	4
パワーウィンドーの開閉	95
パワーモード	98
パワーモード警告ブザー	99
パンク	210
番号灯	191
ハンドル	108
ハンドル位置調節レバー	108
ハンドルロック	62, 98
汎用型ISOFIXチャイルドシート	45, 48

ヒ

ビークルスタビリティアシスト(VSA)	160
ヒートッドアミラースイッチ	107
非常点滅表示灯スイッチ	表紙ウラ
尾灯	190
ヒューズ	228
各ヒューズの装備と容量	229

ヒューズの設置場所	228
ヒューズの点検と交換	231
表示灯	59
ECON表示灯	60
Sモード表示灯	61
イモビライザーシステム表示灯	60
クルーズコントロール表示灯	60
クルーズメイン表示灯	60
サイドエアバッグ自動停止表示灯	59
シフトインジケター/[M] (シーケンシャル モード)表示灯	61
セキュリティアラームシステム作動 表示灯	61
セレクトポジション表示灯	61, 151, 153
ハイビーム表示灯	59
フォグライト点灯表示灯	59
方向指示器/非常点滅表示灯	59
ライト点灯表示灯	59

フ

ブースターケーブル	220
フォグライト	103
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	15
走行するとブザーが鳴る	15
フューエルリッドの開けかた	172
ブリズムアンダーミラー	111

ブレーキシステム	162
ABS(アンチロックブレーキシステム)	164
電子制御ブレーキアシスト	165
パーキングブレーキ	162
フットブレーキ	163
ブレーキ警告灯(レッド)	54, 226
ブレーキを踏むと音がする	15
ブレーキを踏むと振動する	14
ブレーキフルード	237, 239
ブレーキ警告灯(レッド)	54, 226
フロントガラス熱線スイッチ	107
フロントシート	112
アームレスト	120
ヘッドレスト	112, 113, 117

へ

平均車速表示	69
平均燃費表示(AVG)	67
ヘッドライト	102
アクティブコーナリングライト	101
オートオフ機能	102
追越合図(パッシング)	102
電球の交換(ハイビーム)	183
電球の交換(ロービーム)	183
ハイビーム	102
ハイビーム表示灯	59
ライト点灯表示灯	59
ロービーム	102

ヘッドレスト	
フロントシート	112, 113, 117
リヤシート	118

ホ

ホーンスイッチ	1
ホイールサイズ	238, 240
ホイールナットレンチ(ジャッキ ハンドル)	209, 213
方向指示器(ウィンカースイッチ)	100
方向指示器表示灯	59

マ

マスタートアロックスイッチ	87
マップランプ	122
マルチインフォメーションディスプレイ	68

ミ

ミラー	109
ドアミラー	109
パニティミラー	4
ルームミラー	109

メ

メーター	63
インフォメーションディスプレイ	65

水温計	63
スピードメーター	63
タコメーター	64
燃料計	63
マルチインフォメーションディスプレイ	68
メンテナンス	176
Hondaスマートキー	200
エアコンのお手入れ	202
エンジンルーム内のメンテナンス	179
清掃	204
タイヤの点検と整備	196
メンテナンスに関する注意事項	178
メンテナンスを安全に行うために	178
ライト類の点検と整備	183
ワイパーブレードラバーの点検と整備	193

モ

モード切り換え(エアコン)	134
---------------	-----

ユ

油圧警告灯	54, 225
有料道路自動料金支払いシステム(ETC) 車載器	別冊

ラ

ライトスイッチ	102
追越合図(パッシング)	102
ハイビーム	102
ハイビーム表示灯	59
ライト点灯表示灯	59
ロービーム	102
ライト類の点検と整備	183
アクティブコーナリングライト電球	185
カーゴスペース照明灯電球	192
後退灯電球	190
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球	188
室内灯電球	192
車幅灯電球	184
制動灯/尾灯電球	188
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球	184
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球	188
ハイマウントストップランプ電球	191
番号灯電球	191
尾灯電球	190
フォグライト電球	186
ヘッドライト電球	183
ラジエーター	224

リ

リザーブタンク	224
リムサイズ	238, 240
リヤカメラシステム	168
リヤシート	115
アームレスト	120
リヤデフロスタースイッチ	107

ル

ルームミラー	109
--------------	-----

レ

冷却水	224, 238, 240
オーバーヒート	224
水温計	63
補給	224

ロ

ロービーム	102
電球の交換	183
ロアアンカレッジ	48

ワ

ワイパー/ウォッシャー	104
ワイパーブレードラバー	193

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様 相 談 セ ン タ ー
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレアイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名